

## (1) -PCs, ꠘC (シアン・ミアン)

ラオスの昔話の主人公の名前。知恵と頓智のある人で日本でいえば一休さんである。頓智と風刺の上手な人で時の王様・権力をからかうような話がいっぱいある。-PC は一度僧侶になり還俗した人のことを言う。例えばこんな話がある。王様がシアン・ミアンに用があつて会いたいと思ったもで、家来を通じて明日の朝、ニワトリのなく前に(ニワトリが時を告げる前の時刻に)宮殿に来いと命令した。

, kdjowdj(マ・コソ・カイ) とラオス語で言うのだが、単語ひとつひとつは、, k は「来る」 djo は「前」 wlj 「ニワトリ」になる。したがって「ニワトリの前に来い」という直訳になる。シアン・ミアンはわざと遅れて昼過ぎ頃、ニワトリの首に縄をつけて自分が先に立ってニワトリを引っ張りながら宮殿に現れた。王様は朝からシアン・ミアンをずっと待っていたのになかなか来ないので、イライラして怒っていた。しかし実際彼は、ニワトリより先に来たので王様の命令どおりである。したがって王様は彼を罰することはできなかった。そしておもむろに仕事の話をはじめたのである。

(シアン・ミアン)の物語はタイにもある。先日例によって、富田先生のタイ日辞典を読んでいたら、偶然に見つけた個所を抜粋する。Sii Thanonchai 書物の名前で「シータノンチャイ物語」頓智の奇オシータノンチャイの数々の奇行物語。頓智、悪ふざけ、言葉のこじつけなどで国王、法王、住職などの権力をやっつけて、強きをくじき弱きもいじめて独りほくそ笑む型破り男。多くの人びとが次つぎと書き加えて多くの版が出されている。アユタヤー時代から伝わる口承文学であるが、ラーマ4世時代にセーパー形式の詩で書かれラオスから入り東北地方のウドーン方面で流布されていた。

この本の題名は、タイ語で書かれているのでそれを、ラオス語になおして書くのは問題があるが、あえてラオス語で書くと、

glrkgjꠘClutoqw-PCs, ꠘC となる。これは富田竹二郎先生の訳で「タイ国頓智奇オ一代男」という題で本が出ているようである。「世界口承文芸研究」大阪外国語大学口承文芸研究会 昭54 これによると、やはりシアン・ミアンはラオスからはいりタイにひろがったとのことで、オリジナルはラオスのようである。それでは以下に、私の翻訳によるシアンミアンを何編か紹介する。この物語

は、言葉のこじつけなどが話のみそになっているので、ラオス語を知らない人にはわかりにくい話もある。私の本では単語の解説つきで紹介します。協力隊ラオスOGの根岸範子、前田初江さんの訳による「ラオスの民話」黒潮社にもシアンミアンの話が2編あるが、ラオス語のこじつけに落ちがある話は、翻訳できなかつたと訳者の前田さんは以前、私に語ってくれた。今回の私が紹介するのは前田さん、根岸さんの「ラオスの民話」に載っていないものです。だぶっていませんので。出来ましたら、私のも読んで、根岸さん前田さんの本も買い求めになれれるといいと思います。それでは村山の翻訳によるシアンミアンのお話しを読んで下さい。原文はラオス語です。

シアンミアン ラオスの昔話し、お話その1

**8q-Popkofq8fj** (トウア・シアン・ニヤーン・ドム・トット)

「嘘をついてシアン・ニヤーンにおならを嗅がせる」

**8q**「嘘」      **fq**「匂いを嗅ぐ」      **8fj**「おなら」

シアン・ニヤーンについて語れば、彼はタワラディー国と国境を接している国の1つの王様の子供である。この国は大きな河の岸に位置している。世間の噂するところでは、この地帯では機知と頓智に富む評判の男はシアンミアンである。おそらくこの世で2人といないだろう、ということである。

しかしシアンニヤーン自身、その世間の噂を聞いて、機知と頓智にたけたタワラディー国のシアンミアンとやら、どの位すごいかわつ勝負してやろうと思った。しかもシアンニヤーン自身も自惚れていて、奴の機知もしょせん俺様にはかなわないだろうと思っていた。

シアンニヤーンはシアンミアンの機知がどの位あるか、噂にたがわれないものが試してみたくなつた。彼は竹の筒に何回もおならを詰めて蓋をして、おならの臭いが外に出ないようにした。シアンニヤーンは十分にオナラを筒に詰めてから、筒を抱えて町へむかつた。

シアンミアンに会ったら俺のおならを奴に嗅がせてやる。アイツがどの位すごいかわつ試してやる。シアンニヤーンは一日もしないで町に到着しました。

彼はオナラの筒を抱えて、町の中を色々と訪ね歩きました。そして偶然にまさにシアンミアンの家にたどり着きました。そしてシアンミアン本人に会いました。しかしシアンニヤーンは以前シアンミ

アンに会ったことがなかったので、彼はシアンミアンに「あなたはシアンミアンの家を知っていますか？どっちですか教えてください」と聞きました。シアンミアンは聞き返すふりをして「あなたはシアンミアンに何の用があるのですか、なんなら捜してあげましょうか」と言いました。シアンニャーンは「シアンミアンという男は知恵があり、賢い男だと世間では噂されているが、アイツの知恵があるという名声を落とすためにオナラを筒の中に詰めて、アイツに嗅がせてやるのだ。」

シアンミアンは、シアンニャーンに答えていわく「シアンミアンの家はあっちのほうだ。」そして「あなたはオナラの筒を抱えてシアンミアンを捜しにここまで何日かかりましたか？」と更に訊ねました。シアンニャーンは「8日かかったよ。」シアンミアンは心配で聞き返すようなふりをして「エー、8日もかかったの。それなら筒の中のオナラは蒸発して無くなっているんじゃないの。開けてみてごらん。もし蒸発して無くなっていたら、俺がオナラをいれてやるから、そしてアイツに思い切り臭いオナラを嗅がしてやればいいさ。シアンミアンの奴ときたら俺も本当に憎たらしくてイヤなんだ。」

シアンニャーンはすぐに蓋を開いて、臭いを嗅ぎました。そしてすぐに蓋を閉めました。何故ならまだオナラの臭いは筒の中に十分に残っていたからです。シアンミアンはこれを見てシアンニャーンに悪口を罵りました。「だからお前は馬鹿野郎なんだ。犬畜生だな。わざわざ筒にオナラを詰めてきて、自分でその臭いを嗅いでいるんだから、俺様が天下に名が響くタワラディー国王の弟、知恵と機智に富んだシアンミアンだ。思い知ったか。この俺様に挑戦しようとは、たわけ者よ。」これを聞いてシアンニャーンは恥ずかしくて、穴の中に隠れたい程でした。

お話その2

**-PCs, ʔCnt; kp; krtpk9d8kprkp. oɡ9f; ə**

(シアンミアン・タワラディー・パニャーン・チャック・ターイ・パニャーン・チット・ワ)

「王様は7日以内に死ぬだろう、とシアンミアンは占った。」

**nt; kp; k**「占う」      **rtpk**「王様」      **9d**「どうも」

**8kp**「死ぬ」      **rkp.o**「以内」      **9f**「7」      **;ə**「日」

ある日のことです。タワラディー国の王様が病気になり、お腹や腸

が痛くなりました。御后様も家来も偉い人はみな王様の健康を心配して、御坊さんにお経をあげさせたり、占い師に王様の運勢がよくなるか、どの位悪いか占わせました。占い師たちは王様の干支では、今年は何年である。何故なら今年は何を隠す年であるとか。しかし王様の様態もだんだん良い方向に向かっているようである。ある日シアンミアンが王様の病体を見に行つたのであるが、彼は王様の体を診断するようにして、おもむろに

**rtvq9t8kprkp.og9f; eoUkC[8hClGwl**

(パ・オンガ・チャ・ター・イ・パ - イ・イ・チット・ワン・ニ・ホー・トク・ソク・サイ)

「疑いもなく、王様はこの7日のうちに死ぬだろう」と言いました。

単語の解説

**rtvq**「王様」 **rkp.og9f; eoU**「この7日のうちに」

**1kC**「この単語の後に動詞を付けて、その動詞の意味を形容詞化する働きがある。」 **[8hC**「必要が無い」 **1Gwl**「疑う」

貴族の偉い人が聞いて、あわててこの話しを御后様に話しました。御后もあわてて、うろたえて泣き喚き尾付きの物おつきの者も皆悲しみました。何故ならシアンミアンの言ったように王様が7日のうちに死ぬと思ったからです。

御后は蔵を開けさせて、金銀を神に奉げてそして医者と薬を捜して来て、早く王様が良くなるようにと、王様が長寿で天地を治めるまでと、祝詞をあげさせました。そしてしばらくして王様も良くなり、痛みも熱もなくなりました。

ある日、王様は使いを送ってシアンミアンを呼びました。シアンミアンが来ると、お前はこの前、ワシが7日のうちに死ぬだろうと言っておったな、どんな占いでそうなったんだ。シアンミアンは、私が申しあげたのはすべて正しいことでもあります。王様であってもこの7日のうちに死ぬというのは皆同じでことです。日曜から土曜日まで、それ以外に曜日はありません。誰が特別に一週間8日ある人がいるのでしょうか。一週間は7日だけで日曜日、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日これで全部です。これは国、村の習慣であります。この世界は、一週間は7日しかないのです。

王様のほうも怒ろうとしたのですが、よく考えてみると一週間は7日だけで、もし死ぬとしたらこの7日のうちのどれかに必ず当た

るということで彼の言ってることは正しいのです。

これは、数あるシアンミアンのお話のなかで、私が一番好きな物語です。

お話その3

**-PCs, ACdyChortpk**(シアンミアン・キング・オブ・パニャー)

「シアンミアン、王様の毒をくろう」

**dy**「食べる」 **Cho**「毒」

タワラディーの王様は、シアンミアンの事を憎く思い、そしてどうやっても彼を負かす事が出来なく、思いどうりにならないので最後には彼を殺してしまえばいいと考えました。王様はそう考えるとおつきの女性に命令して、こっそりとカオトム（もち米を蒸して作った御菓子、食べ物）のなかに毒を混ぜて、シアンミアンに食べさせる。しかしこの話はみんな秘密だ、シアンミアンにこの話は伝えるな。このように言いました。

しかしこの世の中に秘密なんてありません。こんな話はすぐ誰かの耳にはいってシアンミアンの知るところになってしまいました。おつきの女官がカオトムの中に毒を盛って、煮詰めてから、王様は女官にこのカオトムをシアンミアンに食べせると、命令しました。従って、女官は王様の命令どおりに、毒いりのカオトムを持って行き王様の命令を伝えました。シアンミアンはカオトムを何のためらいもなく受け取りました。もちろんカオトムの中に毒がはいっていて彼もそれが何であるのかを、知っていましたが平静を装っていました。

女官が帰った後で、彼は自分は死んでしまうことを悟っていました。それで奥さんと呼んでこのように言いました。

「もし私がこのカオトムを食べると、私は死んでしまう。私が死んでも決して泣き悲しまないで下さい。もし王様の奥さんが泣いたら泣いてもいいけれど、決して先に泣いてはいけません。良く覚えておくように。」

そして更に付け加えて「私が死んだら、私をベットの上に寝かしてください。毛布をかけて足を折って本を持たして寝ながら本を読んでいるようにして、それから蠅を籠にいれて渡しのベットの横に置いて下さい。」

シアンミアンは妻にすべて説明し終えてからカオトムの包みをひ

るげてから食べました。毒がお腹に達してすぐに彼は命をひきとりました。妻の方はすべてシアンミアンに言われた通りやりました。そして平静を保ち、何も悲しい事がないかのように振る舞っていました。

王様の方は、女官がシアンミアンに毒入りのカオトムを食べさせて帰ってきた後、何が起こるか楽しみに待っていました。しかしシアンミアンの妻の悲しみにむせぶ声も聞えてこなくて、王様は心の中で色々なことを疑いました。或いはあのカオトムには、毒がないのではないか。このことを確かめるために、女官にシアンミアンの家に行ってどんなぐあいか探らせました。

女官達がシアンミアンの家に行った時も、何も異常な変わったことはみられませんでした。特にシアンミアンの妻も楽しそうに家事をしていました。寝室を見てもシアンミアンがベットに寝たまま本を読んでいるのが見えました。（実際に女官達が聞いたのは、木の筒に入れた蠅の音だったのです。）

女官達は大急ぎで王宮に帰って、王様に知らせました。女官が帰ってきてから王様はヤキモキしながら、あわてて聞きました。

「どうだ、シアンミアンの奴、死んだか？」

女官は、「いいえ死んでいません、寝ながら気持ちよさそうに本を読んでいます。」この女官の答えに王様は不信の考えが生まれ、「あの毒は本当に効くのか？ 奴は飲んでも死なない。俺が試しに飲んでみるか。」そして王様が毒入りのカオトムを食べるとすぐに息が絶えて死んでしまいました。

解説 さてラオス人と御酒（ラオラオ）を飲む場合について考察してみよう。ラオスの習慣では、酒瓶から酒を杯（普通はガラスのコップ）に注いだ人が「さあ、先に飲みますよー」ラオス語で **dydyogfu** (ton-jon-dor) と言って、それを座のみんなの目の前にかざして、座の人に今から飲む酒を確認してもらう。そして一気に酒を飲み乾す。飲み乾した後、飲んだ杯をみんなに見せて全部飲んだ事をみんなに確認してもらう。そして、その後一人ずつ御酒を注いでまわる。

これは酒を最初に飲むのは毒味をしましたよ、という意味である。そしてこの酒に毒がはいっていないことを皆に確認してもらって、それから皆に御酒を注いで回るのである。この確認の宣言を

ラオス語で、**Itgsou** (サヌー) 「宣言する、提案する」という。

これから飲みますというのは **dodyogfu** あるいは、別の言い方で

**Itsogfu** (サヌー・ドゥー) とも言う。 **gfu** は感嘆詞で文末につけて

「よ。」といった意味を文に付け加える。

この時、杯を上を持ち上げるのだが、座っている人の目の前に杯を持っていき見ってもらうのが儀式である。私は初めてこの儀式を経験した時、間違えてサヌーしている人の杯を取って飲んでしまった。何故ならこの儀式の意味を知らなかったので、目の前に杯を出されたので、自分に出されたものだと思って、手を出して飲んでしまったのである。今から思えば恥ずかしい限りである。

よくラオス人が酒の席でサヌーして飲んだのに、他の奴が「俺は見えていなかったから、もう一度飲め。」などとからんで来るのがいる。あれはあれで意味がある。ちゃんと飲み乾したことを皆に確認してもらってからでないといけない。しかしほとんどの場合、ただたんにからんでいるだけである。この毒を盛る、術をかけるというのは南部のサラワンの方にあるとラオス人は言う。

お話その4

- **PCs, HCVwglɛs, kdgɛ** (シアンミアン・パイ・ケップ・マーク・ペット)

**w** 「行く」 **glɛ** 「集める、拾う」 **s, kdgɛ** 「唐辛子」

ある日のことです。王様の食事の献立は何種類もありました。その中にも鶏肉を酸っぱくしたものの、魚の肉を酸っぱくしたものなどがあったので、これに唐辛子があれば美味しいだろう、王様はそう考えるとシアンミアンに命令して急いで農園に行って唐辛子を集めて来いといいました。

シアンミアンの方も王様の命令を聞いて、すぐに唐辛子のある農園に行きました。唐辛子の木のある所に到着すると、シアンミアンは左を見たり、右を振り返ってみたり、木の回りを歩き回って、木の下を見たり、どの木の下にもシアンミアンが拾って集めるような唐辛子は落ちていませんでした。

そこでシアンミアンは横に寝そべってペダルを漕ぐ動作をして風が吹いてそれで唐辛子の実が落ちたら、それを拾い集めよう。王様の言いつけ通りです。王様のほうは御膳を前にして、シアンミアンが唐辛子を持って来るのをイライラして待っています。王様はなか

なかシアンミアンが帰って来ないので何か事故にでも遭ったのではないかと心配していました。

それで王様は家来に命令して、シアンミアンを捜しに行かせました。家来がシアンミアンが呑気に寝ているのを見て、問いたしました。「御前は知っているのか、王様が唐辛子の実を拾い集めて持って来るように命令したことを、どうしてそんなに呑気に寝ているのだ。」

シアンミアンはおもむろに起き上がって、家来に答えて曰く「どこで拾い集めるの？どこにも落ちていないじゃないの、捜してみても落ちていなかったの、落ちて来るまで眠って待っていようと思ったんだ。落ちて来たら拾って王様に献上しようと思ったんだ。唐辛子はいっぱいあるけど木にくっついているから、もし王様が木についている唐辛子をちぎって集めて来いというのなら、今ごろ3回は差し上げる事ができたけれど、でもちぎって集めて来いとは言わなかった。そんな行き過ぎた事をすると、叱られて罪を受けるのが恐いので。」

使いの物は木になっている唐辛子を1掴みちぎって、急いで王様の所に戻って、王様の御飯のおかずには差し上げました。使いの者が王様に言うには「シアンミアンの奴、まだあっちの庭で寝ています。唐辛子が落ちて来たら拾い集めて持って来るそうです。」

王様はそれを聞いて思わず苦笑いしました。自分の命令が不明瞭だったので、シアンミアンに弱点を握られて言い返されてしまいました。

日が落ちて夜になろうとした時、シアンミアンは戻って来て、「煮て食おうが、焼いて食おうが好きなようにして下さい。唐辛子が地面に落ちているか良く調べて捜したけれども、とうとう見つかりませんでした。だから王様のために持って来れませんでした。」

王様は半分聞いてないようなふりをしていました。シアンミアンは王様の怒りに触れるような事をしでかしたのでした。

#### 解説

ラオス語の表題にあるように、**wxglɰs, kdɣɰ**「唐辛子を拾い集めに行く」とある。**glɰ**という単語の意味は「拾う、集める」なのでここでは屁理屈を言えば、シアンミアンの言うように、「落ちている唐辛子を拾い集める」ということになる。**ɣɰ**は「指で摘み取

る、爪でちぎる」という意味なので、この単語を使った方が適切ではあるが、こういった所がシアンミアンの話の味噌であり、これを読んで楽しむのにはラオス語がわからないと、翻訳版でも面白くない。花を摘むには、この **gfā** という単語を使う。

お話その5

**glo7qzkdc;ɕ, k7E-ko** (ケ-ン・コン・パ-ク・ウヱンク・マ-・カム・サー

ン)

「三つ口を呼んで、手すりを支えさせる。」

**glo**「招集する、徴用する」 **7qzkdc;ɕ**「三つ口の人」

, **k**「来る」 **7E**「支える」 **-ko**「手すり」

ある偶然に王様の宮殿のベランダの手すりが折れてしまいました。王様はシアンミアンに修理して直せと命令しました。王様の命令は

**xkdCk,** (パ-ク・ガ-ム) を捜して来て、手すりを元どうりにしろ

と命令しました。 **xkd**「口」 **Ck,**「二又、三又に分岐した

物をいう」要するに王様はパチンコ鉄砲の様な、二又口の木の棒を捜して来させて、その棒で折れた手すりを支えようと、考えたのである。しかしシアンミアンは、例によって王様の言葉尻をとらえて、

**xkd**「口」 **Ck,**「二又、または三つ又にわかれている」ということ

で、**xkdCk,** を「三つ口」と解釈したのだ。そして王様の命令を聞

くなりすぐさま、地方の田舎に行って三つ口の者を捜し始めた。彼の選んだ三つ口の男は、ただの三つ口ではなくて歯が見える程のものである。このような者を20人程村村で集めると、彼は三つ口の男達に、お前らは今から王様の手すりを支える為に都へ上がるぞ。

今宮殿の手すりが折れてしまったのだ。そう命令したのだった。三つ口の男達は誰もが、きょとんとしていて良く分からなかった。

しかし兎に角王様の命令なので、逆らう事ができなかったのである。シアンミアンは三つ口の男達を引き連れて、都の中に入っていった。

その途中、色々な町や村を通ったわけだが、沢山の三つ口の男達はなんだ。シアンミアンは彼らに何をさせようというのだ。

宮殿の折れた手すりの方だが、シアンミアンにY字型の木の枝を捜しに行かせて随分時間が経つのにまだ帰ってこない。宮殿に仕え

る者たちはすでに手すりを修理していた。

王様の方も「シアンミアンの奴め、あの野郎何処へ行って遊んでいるのだ。今度帰ってきたら、ただじゃ置かないぞ。」

さてシアンミアンが三つ口の男達を引き連れて都に戻って来ると、誰もが物珍しく集まって来て、騒がしく言い合っていた。

「おい、いったいこんなに沢山の三つ口の男を集めて何をしようというんだ。」「何か使い道があるというのだろうか。」

王様はシアンミアンに「いったい、何で三つ口の男をこんなに連れて来たんだ。おれは **xkdCk, w h°** (ク・ガ -ム・マイ) 「木が三つ又になっているもの」を捜して来いと言ったんで、

**xkdCk, 7q** (パ° -ク・ガ -ム・コン) 「口が三つに避けている人」を捜して来いとは言わなかったぞ。」

**w h** 木」 **7q** 「人」

というわけで、三つ口の男達は王様の許しが出来てそれぞれの村に帰る事ができました。

ということで、シアンミアンの話は、このように言葉尻を捕らえたものが多くて、翻訳にしる解説がないとその面白さが理解しにくい。

お話その6

**rtpk. sskl lV8uc8h** (パ° ニャー・ハイ・ハー・シン・ティーン・テム)

**.sh** 使役動詞、 させる」 **sk** 「捜す」 **.ssk** 「捜させる」

**lV** 「ラオスの巻きスカート」 **8u** 「足」 **c8h** 「点数、塗る」

「王様は、シンティーンテムという巻きスカートを捜させました」

王様はシンティーンテムが欲しくなりました。ここでこの巻きスカートについて説明してみます。

シアンミアンの原本(ラオス語)には、シンティーンテムの説明がラオス語で書いてある。

**lV8uc8h: c, j, fs, ji; f] kp9qCk,**

(シン・ティーン・テム ムン マット・ミールアット・ラーイ・チョップ・ガ -ム)

**A C, j B** 「AはBである。」 **, fs** 「縛る」

**S, ji** ラーメンの様な黄色の麺」 **]; f] kp** 「デザイン」

၉၄ 「良い」      ငါ, 「美しい」

一つ一つの単語の意味を解説すると以上の意味になる。

しかし全体として、シンティーンテムは、布の名前でタイのコンケン県のノンパイ郡(sov၄w၄j)または、チョンホット郡(-qot [၄])の両郡で主として作られている絹布、綿布で糸のカセを間隔を開けて紐で縛って染めた、しぼり染めの糸を用いて織った布。縛った部分が模様になる。要するにマットミーという綺麗な絹布を王様は欲しかったのだ。

さて説明が長くなったので本題に戻る。王様はシンティーンテムが欲しくなって、臣下家来の者に金を預けて買いに行かせた。勿論シアンミアンにもである。家来達はお金を受け取るや、田舎の方に出かけてこの王様が欲しいというシンティーンテムを買い求めた。しかしシアンミアンは王様からお金をもらったのに家に置いたまま何もしないで、他の家来のように捜しに行こうともしない。

王様のシンティーンテムを買って来いという命令は絶対的なものだった。もし買って来なかったら、処罰されるだろう。従って王様の臣下家来は熱心に、一生懸命になって全員捜し買い求めた。最後になって王様は家来をシアンミアンの所に使いに出して「買う事ができたかい、出来たのなら早く王様に差し出しなさい。」家来達がシアンミアンに尋ねると、彼は「まだ買う事ができません。」と答えた。王様には、しばらくお待ち下さい。何故なら本当にまだそれを捜し求める事ができないのです。そのように御伝えください。

家来達も宮殿に帰って、シアンミアンの言った事を王様に伝えました。王様もどう怒っていいやらただ「どうでもいいわ、買う事ができたら、いつでもいいから持ってきてなさい。」と言われました。家来が帰った後、シアンミアンは家で何も心配しないでぐっすりと寝ていました。どこでシンティーンテムを買ったらいいか、そんな事は全然悩んでいませんでした。あっという間に一週間がたち、王様の宮殿に行き、シンティーンテムはどうしても買う事ができませんでした。私たちの村町には全然ありません。どこに行っても人間が手で織ったものだけです。人間が手で織ったものは珍しくありません。どこにでもあります。

でも足で織ったもの ၈၁၇၄၄၈၅ (ティン・キブ・テム)は何処を捜してもありません。機織りの人間全員を集めて尋ねてみても、誰もそんな

ことはできないと言います。手で、**fs, ju**(マツト・ミ-)は織ることができ  
ますが、足で、**fs, ju**を織るなんて人間の技ではとても出来ませ  
ん。王様はそれを聞いてまんまとシアンミアンに逆手を取られた、  
揚げ足を取られたと思いました。

解説

シアンミアンの話には、言葉の言い回しで王様の逆手を取ること  
が多い。王様はシンティーンテムを買って来いと言ったわけだが、  
この言葉の意味はすでに説明した通りである。

しかしここでこの単語 **lv8ac8h** の意味を1つずつ分析すると、  
**lv**「ラオスの巻きスカート」 **8a**「脚」 **c8h**「点、塗る」  
というそれぞれの意味がある。この言葉をシアンミアンは王様をお  
ちよくって「脚で織ったシン」と訳したのだ。従って世の中に脚を  
使って織ったシンなんて誰も作れないし、売っているわけないでし  
ょうという意味になる。

とにかく、シアンミアンの話にはこの手のものが多くて、解説が  
必要になってくる。

お話その7

**-PCs, hCgyh7; kpwx-q7; kprtpk**

(シアンミアン・アオ・クア-イ・パ イ・ソツ・クア-イ・パニャー)

**gyh**<sup>A</sup> **wx**<sup>B</sup>「AをBに連れて行く」 **7; kp**「水牛」

**-q**「ぶつかる」 **rtpk**「王様」

ある日、王様のタワーラーオ ディーが臣下をシアンミアンの所  
にやり、すぐに王様のところに来るように命じました。シアンミア  
ンにとっては、いつ何時の王様の命令とあればすぐに馳せ参じなけ  
ればなりません。そして王様であり兄でもあるその方に拝して、今  
回の用件を尋ねました。王様がいうのには、お前の才知にはいつも  
一杯食わされている。お前はたいした奴じゃ。いつも私に勝ってる  
んだから。

王様は更に続けて、2日後に俺とお前と賭けをしよう。ただしお  
前いつものようにインチキなことは許さないぞ。場所は王宮前広場  
だ、わかったか。シアンミアンは答えて曰く、今まで私は、一度も

インチキなんてしませんでしたよ。今回も同じです。王様の決めた様にそのルールでやりますから。ところで2日後、私と王様でどんな競争をしようというのですか？

王様が言うのには、私も牛を連れて来る。お前も牛を連れてきてそこで闘牛をやるのだ。そして町の住民を呼んで、どちらが勝つか証人として見させるのだ。

シアンミアンは、ところで私はまだ水牛がいません。20日程時間をいただけないでしょうか。水牛を買いに行きますので。シアンミアンが王宮を出る前に、今回の闘牛のルールを王様に聞きました。王様がそれに答えて曰く、もしお前の水牛がワシの水牛に勝ったら、ワシの水牛をお前にくれてやる。もしワシのが勝ったら御前を罰してやるからな、覚悟している。

その後シアンミアンは家に帰りました。夜中になってもシアンミアンは今回はどうしたら王様に勝てるか、色々と考えて眠れませんでした。最後にシアンミアンはいい方法を考え付きました。翌朝目が覚めてから、いそいで顔を洗って御飯を食べてお腹一杯にしてから、村村を歩き回って村人に生まれたばかりの牛はいないか、王様に献上するので譲ってくださいと頼み歩きました。歩き回っているうちに偶然に、昨日生まれたばかりの赤ちゃん牛のいる家を探しあてました。そして持ち主と交渉して買い求めました。

牛を買った後、シアンミアンは母牛と赤ちゃん牛を別々の小屋で飼い、縛っておき、赤ちゃん牛が母牛のオッパイを飲みに行かせないようにさせました。いくら赤ちゃん牛が泣いても彼は、母牛の所に行かせませんでした。従って赤ちゃん牛はオッパイが飲みたくてたまらなくなりました。

約束の日が来ました。沢山の人が広場に続々と集まり、王様の牛とシアンミアンの牛の対決を見るためです。王様は自分の水牛を広場に連れて来るように命令しました。王様の水牛は丸々太って強そうで、その赤い目で睨まれると恐くなってしまふほどです。広場に放たれると左右に動きまわり見る人を恐ろしくさせるような迫力があります。

王様の水牛を十分に見ると、誰もがシアンミアンの水牛はどんなものだろう、ある人は今回はさすがのシアンミアンも知恵が尽きたな。王様を負かす事はできないだろう。そして王様から罰を受けるだろう、そう言いました。

すぐに喚声が上がりました。道を譲ってください。シアンミアンが水牛を連れて来ます。彼の連れて来た水牛を見て、見物に来た人は誰もが、これはシアンミアンの負けだと思いました。何故なら彼の水牛は小さくて生まれて10日も経っていなくて、ちっぽけでお腹も痩せていて、か細くてギャー、ギャー泣いていました。お母さん牛の乳を10日もこの牛は飲んでいなかったからです。

試合開始のゴングが鳴り、いよいよ2頭の牛の対決です。大きい牛が近いてきた時、シアンミアンの子牛は頭を王様の牛の後足の間にいれて、オッパイを捜して飲もうとしました。というのは、シアンミアンの牛は、王様の牛の金玉がオッパイだと思ったからである。従って、しゃぶりつきに行ったのである。王様の水牛は金玉をシアンミアンの子牛に舐められて、くすぐったくなって逃げて行きました。それでもシアンミアンの子牛は、頭を王様の牛の股間に入れて、金玉を吸い続けようとします。とうとう王様の牛は我慢できなくなって走って逃げました。その後を追いかけてオッパイを吸おうと思って子牛も追いかけて行きます。

それを見て観衆は王様の水牛はシアンミアンの牛に負けて逃げだして、それをシアンミアンの牛が追いかけて行ってるんだと思いました。従って、今回の闘牛は観衆も認めるどころシアンミアンの勝ちとなり、王様は約束通り、王様の牛をシアンミアンにあげました。彼は子牛を引いて家に連れて帰り、思う存分母牛の乳を飲ませてあげました。

お話その8

**-PCs, ɸC8lk; ltsoq** (シアンミアン・ティー・ササム)

「シアンミアン女官を叩く」

**ɸu** 叩く」 **lk; ltsoq** 「女官」

王様はシアンミアンを口で言えない位に徹底的に痛めつけてやろうと思いました。そしてある日、色々と考えてふとひらめいた考えとは、女官をシアンミアンの家に行かせて家の中に一杯に成る程、ウンコをさせるということです。

王様は女官達に、シアンミアンの家の中でウンコをして家の中が糞まみれになったら、帰って報告しろといいました。

命令を受けて女官達は、シアンミアンの家に行きました。そして王様の命令を彼に告げました。シアンミアンは、王様は本当にそう

言ったのか？糞をひれと聞いたのかどうなのか、と問いただすと、

女官は「王様はウンコだけをシアンミアンの家の中でへるよう  
に言いました。」そのように答えました。兄であり、王様でもある人  
の命令ですから、いつであろうと逆らうわけにはいきません。何故  
なら、逆らえば処罰されるからです。

シアンミアンはそして女官達に「もし王様がウンコだけというの  
なら、どうぞウンコを家の中でしてくれ。」と言いました。女官達  
はウンコを家のなかじゅうに放れまきました。シアンミアンはそれ  
をずっと眺めていました。そのうちウンコだけではなく、オシッコ  
もして家のなかびしょ濡れになりました。オシッコばかりではな  
くオナラも、或者は鼻水、唾、痰を出す程です。

それを見てシアンミアンはカナ鎚を持って女官達を、叩き始めま  
した。女官達は泣き叫びます。シアンミアンは、王様はウンコだけ  
しろと言ったのに、御前達はオシッコや唾、痰までしゃがってこの  
野郎。

シアンミアンに殴られて、女官達はさんざんの恰好で王様の所へ  
逃げて行き一部始終を王様に報告しました。王様はそれを聞いて激  
怒しました。そしてシアンミアンを王宮に呼び付けて、問いただし  
ました。「お前、俺が命令して女官達にお前の家の中で糞をひらせ  
たのに、どうして彼女らをひどく叩きまわしたんだ、アイツらは俺  
様の命令でやっているんだぞ。」

シアンミアン答えて曰く、「恐れ多くも、王様の命令に逆らうな  
んて、とてもできません、でも女官達はそのとうりにしなかったの  
ですから。王様がおっしゃったのはウンコだけ、でもアイツらはウ  
ンコからオシッコ、オナラ、唾に鼻水とやりすぎたのです。もしウ  
ンコだけならこれは王様の命令ですので、これは逆らうことはでき  
ません。従ってアイツらを叩くわけにはいかないのですが。」

王様はこれを聞いて笑い出したくなったり、怒りたくなったりし  
ました。でもよく考えてみるとシアンミアンの言ってる通りで、自  
分の命令したことが不十分だったということに気がつきました。

## (2) [kook-6 パ-ツ・ナ-] 「ナ-村」

これはポンホン（ビエンチャン県の県庁所在地）よりナムグム・ダ  
ムの方へしばらく行ったところにある村で、ここの地酒（ラオラオ）  
は美味しいという話である。昔は村のなかでも何軒も地酒を作って  
いたようである。いまでは作る農家の数も減ってきた。昔から有名

なのでラオス人の酒飲みはこの村の名前は知っている。ポンホン出身のラオス人に聞いてみると俺の村のほうが美味しいと言ってた。こうなると手前味噌になるかもしれない。

しかしお酒は直接こういった生産者から買うほうがいい。町のなかで売られているお酒のなかには、フォドール（農薬）をいれたり、またはライターの石をいれて酒のデイグリーを高くしたり、または水をいれて薄めたりする悪い人がいるということなので注意しないといけない。ちなみにヌー村では今ではほとんどお酒は造られないで他の村で造られて、ビエンチャンに持って行って売る時ヌー村の酒というブレンドで売るらしい。

それからラオスではDDTなど、日本で生産禁止になった農薬でも平気で販売されているので、ラオスで売っている虫のついていないきれいな野菜は気をつけたほうがいいらしい。有機農業の専門家の村上真平さんがラオスに来て、セミナーを開いた時にそのような話しをしてくれた。このような農薬は先進国で禁止になってうれなくなっただけを途上国に持ってきて売るということである。

### (3) ຈຸປດນຸ່ງ (ロイ・カツ)

これは出安吾のお祭り行事で、バナナの葉で作った灯籠に食べ物・お菓子・供物をいれて川に流す。日本でいえば灯籠流しである。メコン川の川へりは、雨季に堆積した粘土ですべりやすくなっている。（ちなみにこの土壌は有機物が含まれていて肥沃なので、ラオス人は乾季にこの場所で野菜を作っている。これだと肥料をいれなくても大きく育つ。）灯籠を流すのは夜なので暗くて危ない。私はここですべて川に落ちた事がある。また灯籠が川の下流遠くまで流れていくように川の真ん中で流すほうがよい。そのために子供にお金を渡して、川の流れが速いところまで持っていかせて放させるのだが、灯籠にお菓子やお金をいれておくと盗まれる危険性がある。また見ていないところで灯籠を沈める悪餓鬼もいるので本当に嫌になる。こういったことは興ざめである。

またタットルアン祭りの托鉢の日に、お線香とロウソクをたててお祈りしているのをビニール袋をもった悪ガキが、線香とロウソクを取っていく（盗んで行く）のを目撃したことがある。一人ではなく何人もいた。しかしもっとひどいのがあった托鉢の前夜、タットルアンのお寺の庭で生ビールを飲み過ぎて、おしっこしたくなった人がお寺の中庭で立ちションをして、ラオス人に見つかって怒られ

たヤカラがいた。これなどは最低である。

他に、お寺に托鉢に行ってみんな押し合い圧し合いで、チャンと順番を守らないで横からはいってきて割り込んで托鉢する人などがある。これなど本当に嫌になってくる。仏さんに托鉢するのにちゃんと順番を守らないなんて、罰があたらなにか心配である。

(4)

**wng nCs^Cdyr; Cs, kd, ju vvdOjul pEnkCvk[mkCdy**

(タイ・ムン・ルン・キ・プアン・マクミ- オグ・キ・サイ・ナム・タン・アブタン・キ)

ルアンパンの人も実は本当は食べないのだが、ビエンチャンの人は悪口でルアンパンの人はジャック・フルーツの房のところまで食べると悪口をいってる。普通はこんなところは捨てる部分なのだが、彼らはこんなところも食べるからお腹をこわして、ナムウー川でウンコして水浴びして、水を汲んできて飲むと馬鹿にしている。しかしビエンチャンの人が言っていたが少し昔まではルアンパンには家に便所がなくてみんな朝になると河に行って河の中でウンコをしていたとか。それを見たビエンチャンの人が馬鹿にして笑いの種としてこのように言ったとかである。でも、ナムウー川がメコン川に合流してビエンチャンの人はそれを飲んでいるのだからなにかおいわんやである。さすが最近ルアンパンも世界遺産に指定されたし県知事もこんな恥ずかしいことはしないようにと、住民に教育した結果みられなくなったとか。

**wm**「人」 **g nCs^C**「ルアンパン」 **r; C**「房」

**s, kd, ju** ジャック・フルーツ」

**vvd**「出す」 **Oju** うんこ」 **.lpE**「水のなかに入れる」

**mkCvk[**「水浴びで」 **mkCdy**「飲用で」

日本も関西と関東では、生活習慣や考えが違い、お互い悪口などがある、例えば「箱根の山を超えると鬼が出る」などと関西のほうでは言っているし、ウドンの汁の濃さなども違って来る。ラオスでもこのような地域・地方の違いによる悪口はあるようだ。ルアンパンの悪口を書いたのでビエンチャンはどうかというと、ビエンチャンの人間は **Ourj** (キ・パイ) であるとか。

**OU**「糞」という意味。しかしこの場合は否定的な人間の性格をあとに付けて、人の性格・性質を表わす。 **wj**「トランプ」

ようするにビエンチャンの人間は「ギャンブル狂い」であるとか。

(5) **wmlts; əc-ts, kIɸM** (タイ・サツ・セー・マー・フイ)

**]ɸ]kC** (ロンク・ラング)

**wmlts; ə**「サバナケットの人」 **c-t**「犬を追い払う時セーセーと言って追い払う。この言い方はビエンチャン・パクセでは共通である。」 **s, k**「犬」 **IɸM**「フイ・フイ」 **]ɸ**「降りる」

**]kC**「下」

サツの人は犬を追い払う時に「フイ・フイ」と言ってやさしく追い払うので、犬のほうも逃げないでいるとか。サツの人のしゃべりかたは、テンポが遅く、ゆっくりしゃべる。従ってそんな言い方で言われても犬は逃げないでかえって寄ってくるだけである。とサツの人のしゃべり方をおちょくっているのである。これはサワンというより、サバナケットから内陸にはいったケンコックの人が特に、ゆっくりしゃべるのでこのようにオチョクラレテ言われている。

やはりこんな時はパクセ弁で言われた方が犬もビビッテ、恐くなって逃げ出すと思う。初めて、パクセの市場に行って、若いオネエチャンにパクセのアクセントで「何かいりますか？」と普通に相手は言っているのに喧嘩を売られているようで、恐かったことを覚えている。パクセとサワンは距離的にはそんなに離れていないが、声調・言葉のイントネーションは全然違う。

(6) **0jɸ2vdwɸg/ɸko/kp**

(キー・ロット・フォーク・パイ・キン・フー・バーン・ファイ)

この文は、フォルクス・ワーゲンの車に乗ってファイ村にフーを食べに行こう。という意味になる。ルビをふったように発音するのが正解なのだが、これをサワンの人が発音すると

(キー・ロット・ホーク・パイ・キン・フー・バーン・パイ)となる。これは「F」の発音が「Ph」になってしまうのがサワンの発音の特徴である。

従って、「フォーク」が「ホーク」に「フー」が「フー」に「ファイ」が「パイ」になってしまう。ベトナム語もFの文字がなくて、みんな

「Ph」の文字で「F」の発音になる。以前ベトナムのビザを取るのにどうしたらいいのか、ビエンチャンに住んでいるベトナム人に聞いてみたらバイ・ポームを買ってきて、それに書き込めばいいと聞いた。わたしはその発音でバイ・ポームといえば.. [xv, になり、これは偽の書類である。そんなもの何処に売っているのかよくわからなかった。よく聞いてみると、[2v, のことである。これは、バイ・フォームであり申込書類である。やはりベトナム系の人はこの発音の区別ができない。

Oju 乗る」 ]q2vd 「フォルクス・ワーゲン」

wxdygu フーを食べに行く」 [ko/kp 「ファイ村」

(7) dtg2oqglə [+lpE8ko

(カ<sub>E</sub>-ム・ジ<sub>E</sub>ン・ホ-サイ・ナムタン)

dtg 「コーヒー」 oq 「ミルク」 glə 「冷たい」

.lj 「入れる」 oE8ko 「砂糖」

これはミルク入りのアイスコーヒーで、砂糖がはいっていないものである。ラオスのコーヒーにいれるミルクは、練乳でたいていコンデンス・ミルクである。このなかにはすでに砂糖がはいっていてすでに甘い。したがってわざわざ砂糖を別にいれることはないのであるが、甘党のラオス人はいれてしまうのである。先進国になるほど砂糖の消費は減ってくるものであるが、ラオス人の味覚で「甘い」イコール「おいしい」になる。昔、フィリピンのネグロス島のサトウキビ農園が困った話があった。これも先進国の連中の砂糖の消費が減ってきたため、砂糖が外国に売れない。そのため砂糖農園の労働者が失業して、餓死者がでるなど大変な問題になった。

このカ<sub>E</sub>-ム・ジ<sub>E</sub>ンならまだわかるが、dtg2fe (カ<sub>E</sub>-ダム)

fe 「黒い」いわゆるブラック・コーヒーになると、ラオス人は文字でわかっているても、頭ではわからない。コーヒーに砂糖をいれなくてブラックで飲むのは日本人には愛好者が多い。

協力隊の隊員が赴任して町の汚い屋台で dtg2fe と注文しても、ラオスのおばちゃんはいれちゃう。したがって隊員は

自分のラオス語が間違っているんじゃないかと心配するが、どうぞ安心してください。これは言葉の問題ではなくて文化の違いなのだ。実際、ビエンチャンのなかでは糖尿病の人がずいぶん多い。看護婦の隊員に聞いてみても成人病のひとが多いらしい。味付けが極端に甘くて・辛くてというラオス人の嗜好の問題であるか。

とにかく、「太るのが嫌だから」というフレーズがあるのでこれを覚えよう **1ko8h** (ヤツ・ツイ) と発音する。直訳すると **1ko** 「恐い」 **8h** 「太い」である。

ところで、**3v]EC** (オリアツ) というのを知っていますか。中国語の潮州語で冷たいコーヒーのことを言う。これも今ではラオス語になった。ラオス人はこの(オリアツ)の色を「黒」より黒いといって、色の黒いもののたとえに使う。女性の肌を誉める時、**luqr6** というのがある。これは黒いんだけどよく見ると白く見える、このような人はあまりいません。

(8) **]qvw28eda** (ロツ・ファイ・タム・カ)

これは恋人どうしのはちあわせ、例えば、プレイ・ボーイの男性で何人も彼女がいる場合、不幸にしてひとりの彼女とデートしていたら、前から別の彼女がたまたま歩いてきた時などに使います。これは **]qvw2** 「電車」が **8eda** 「ぶつかる」わけですから被害も大きいわけです。**]qvw2l;oda** になるとこれはニア・ミスなのでたいしたことありません。**l;oda** (スツ・カ) は「入れ違い・行き違い」という意味で、単線ではなくて複線で列車がすれ違うということでもあります。どちらにしても男は電車がぶつからないようによく注意しないといけません。

(9) **gyktg-kt** (オツオ)

子供が親にねだる「おもちゃ買ってくれないとヤダヤダ」または二号さんがパトロンに「ネー、こんど車かったださるウツフン」などと甘える、ねだるこれをラオス語では **gyktg-kt** というのである。

## (10) タイの歌手 **gnh**

チェンマイ出身の男性歌手で年齢は、まだ20歳未満である。1993年の確か4月ごろだったと思うが、TVのインタビューで司会者がテーに、「どこの国の人と結婚したいですか」ときかれたところラオスの女性を馬鹿にする発言をいっただけで問題になった。というのは「結婚するなら何人でもいいがパデークを食べるラオス人は臭いのでラオス人以外なら、何人でもいい」という内容のことでおよそ公共の電波でいってはいけないようなことである。

また司会者も馬鹿でそれにあいずちをうって「本当にそうですね」ということを言っただけらしい。

テーは母親が、市場で材・ポン(いわゆる素麺)を売っていて、父親が **Op**(クイ)「フルート」の演奏者で、8歳のころから歌手をしていて声の質はすごくいい。この発言で、ラオスでは抗議運動がおこり、タイ大使館の前でテーのテープを燃やして抗議するということが起こり、あのおとなしいラオス人も愛国心のために抗議運動に立ち上がったのだ。

もし日本人の歌手が、テレビで韓国・朝鮮の悪口をこのように言ったらその歌手は芸能界から抹殺されるだろう。タイの場合、ラオスの悪口はよく聞かれる。わたしが偶然見ていたテレビで、タイの上流階級の家でお手伝いさんが、東北タイの出身でいわゆるラオス語をしゃべっていた。そうするとそこのマダムが、その女中に「お前タイ語がしゃべれないのか」と怒っていた。これは私が見ていたのはピエンチャンで、電波はメコンを渡ってラオスにも飛んでくる。私以外にもラオス人も見ていたと思うのだが、彼らはどう思ったのだろうか。また他にも悪いことをした子供を怒る場合に、「そんなことするとラオスに連れていくぞ」と言ってしかる。

これ以前テーはタイで人気があり、ラオスでも特に若い女の子にはものすごい人気であった。この事件以来、人気はガタツトなくなりテープの売れ行きも落ちてしまった。そしてこの事件はテレビの生で起きた事でラオス人はタイ語がわかるのでテーのほうとしても、あれは言っていないとは言い訳できないのである。

## (11) **oErPC.f fvd[qrPCoA**

(ナム・ピアン・ダイ) (ドーク・ブア・ピアン・ツ)

これは、水がここまでしかない、水があるところまでしか蓮の花は伸びていかない。よく親と子供のことについて言われる。親が立派でいい人なら、その子供も親の影響を受けて立派な大人に育っていく。逆に親が悪い人ならその子供は親より良くなるわけがない。蓮の花は水面より上では咲かない。水面の高さが親で、蓮の花がその子供に喩えているわけだ。

例えば、2人が喧嘩をしてるとしよう。もし一方が大人で、相手を宥めて説き伏せるだけの力量があれば、殴り合いの喧嘩は生じない。2人とも喧嘩の原因に対して責任はあるけれど、どっちもどっちである。

蓮が地下で根を張り、それが伸びて水上で花を咲かせるということ想像してもらえれば、この諺の意味がよくわかる。

**oE**「水」      **rPC.f**「どれだけ」      **fvd[q]**「蓮の花」  
**rPCoA**「それだけ」

(12), **qcfC8kpphooEvhp**

(モット・デーソ・ターイ・ニョソ・ナム・オーイ)

, **qcfC**「赤蟻」      **8kp**「死ぬ」      **pho**「のため」

**oEvhp**「サトウキビのジュース」

赤蟻はサトウキビの甘い汁に誘われて沢山むらがって、それを人間に見つかって叩かれて殺されてしまう。人間の場合も同じで甘い言葉に騙されて失敗してはいけない。特に美人の女性のいう甘い言葉に鼻の下を長くして騙されて痛い目にあってはいけない。この場合、「甘い言葉」が「サトウキビのジュース」に喩えられているのだ。

お世辞が上手な人を冷やかすのに

**xkds; ko 7nEvhpcmh**

(パーク・ワソ・ケー・ナム・オーイ・テー)

**xkd**「口」      **s; ko**「甘い」      **xkds; ko**「お世辞」

**7n**「のように」      **cmh**「本当に」

という「本当に、お世辞が上手なんだから」という意味になる。

(13) **Oh8as6E** (キ・フ・ツ・フ・ホー?)

**Oh6**「耳垢」      **8a**「つまる」      **s6**「耳」

「耳垢が耳につまったのか？」ということで、これは何回も呼んで返事しない人に言う言葉で「おい、聞こえているのか」という意味である。耳垢が詰まって聞こえない人がいるのでこのように言うのである。

(14) **vm 8hæ7; kpfe; k7; kpfyo**

(タイ・タイ・ハ・クワ-イ・ナム・ワ-・クワ-イ・ド-ン)

**vm**「人」      **.8h**「南」      **gæ**「見る」      **7; kpfe**「黒い牛」  
**7; kpfyo**「白い牛」

「南のひとは、黒い牛を見て、白い牛という」  
これは、ビエンチャンの人間が南部の人（パクセ）を馬鹿にする言葉で、ご存知のようにパクセとビエンチャンでは「D」と「L」の発音が逆になる。例えば、「水を飲む」はラオス語では **fjoE** あるが、これを発音すると（ドウム・ナム）になる。しかしパクセの人の方言だと、**ljoE**（ルム・ナム）になる。しかしこの発音はビエンチャンの発音の意味では「水を忘れる」という意味になる。ようするにパクセの人は「D」の音がだせなくて、「L」の発音になってしまうのだ。したがってこのようなことになる。むかしパクセの田舎に地下水の調査で行った時、田舎の小学校の井戸に、ラオス語で **ljoE** と書かれていた。明らかにスペル・ミスなのだが、田舎のひとは耳で聞いた発音そのままのスペルでラオス語を書くので、このような間違いがおこるのである。

ルアパバンの空港でも「ありがとう」の **0v[.9** が **7v[.9** と書かれて入る。これは明らかに **0v[.9** が正解で **7v[.9** は誤り

なのだが、ルアパバンの人の発音をそのままラオス語に置き換えると **7v[.9** のスペルになるわけだ。このような例は、ラオスの地方に行けばいくらでも見られるだろう。

したがって「黒い牛」を見てビエンチャンでは **7; kpfe** なのだが、パクセの人は「D」の発音が上手くできないので、どうしても「L」になってしまう。よって **7; kpfe** が **7; kp|e** になってしまうのだ。したがってビエンチャンの人が、南部の連中は黒い牛も白い牛も区別ができないとからかうわけである。

(15)

**gxə-kpd=sgə-kpcmh** (パン・サーイ・コー・ハイ・パン・サーイ・ター?)  
**ljkcd, cljyc|k** (ヤー・ケム・ハー・ヒンハー)  
**.sgə-kpcmh** (ハイ・パン・サーイ・ター)  
**8qoA1k.shd,** (トム・ナン・ヤー・ハイ・ケム)  
**gxəpʔd=sgəpʔcmh** (パン・ニン・コー・ハイ・パン・ニン・ター)  
**ljkxəpʔ, dCkp** (ヤー・パン・ニン・マック・ガーイ)  
**pʔ.spʔcmh** (ニン・ハイ・ニン・ター)  
**coc|h9b7jppʔ** (ネー・レオ・チュン・コイ・ニン)  
**lkwfhpʔglp4h** (ヤー・ダイ・ニン・シア・ティム)  
**pʔwəxjM** (ニン・パイ・パオ)  
**.sgə-sohCc8h** (ハイ・チャオ・ノ・テム)  
**glpc|h9b7jppʔ** (シア・レオ・チュン・コイ・ニン)

「男たるものはこうあれ、女であればこのような女性でありなさい」というのをうまく言葉の遊びで文学的に説明している。

**-kp** は「砂」の意味ですが「男性」という意味もあります。ここでは2つの意味を掛け合わせています。**gxə-kp**「砂になるなら」という意味と **gxə-k**「男なら」ということです。

**.sgə-kpcmh**「本当の混ざりもののない砂になりなさい」という意味と「男なら男らしくオカマみたいな女の腐ったのは駄目

である」という意味が掛け合わされている。

**8q**「粘土」 **1k**「してはいけない」禁止を表わす。

**cd**、「混ぜる」 **c1jyc1j**「砂利・Gravel」

要するに「男なら、砂ならば、砂利や粘土など混ぜりもののない本物にならないといけない。ナヨナヨしたオカマみたいではいけません」

**pc** は **zbc**「女性・女」であります、もう一つは「鉄砲をうつ」

という意味であります。 **gxepc** で「女性たるものは一たれ」ということと「鉄砲を撃つなら一しなさい」という2つの意味をかけています。

**1kgxepc, dCkp** の部分ですが、**dCkp** は「移り気・次々に楽しいこと遊びに心を動かされていて気が定まらない」という意味である。

**pc.spccmh**「撃つのなら、本当に撃ちなさい」という意味と「女性ならちゃんと女らしくしなさい」という2つの意味がある。

**co** = 「狙いを定める」 **9b** = 「それから」 **7yp** = 「静に」

**glp4U** = 「捨てる」 **gxjM** = 「無駄な・何もない」

**sohC** = 「木の毒・鉄砲の弾につける猛毒」 **c8h** = 「着ける」

「しっかり狙いを定めて、それからゆっくり撃ちなさい無弾を撃ってはいけません」

「鉄砲の弾に毒を塗って、それからゆっくり狙いをさだめて撃ちなさい」

要するに「鉄砲を撃つこと」それと「女性たるもの一たれ」という2つのことをこのなかで言っているのである。ラオス文学の奥の深さを味わってください。ちなみにラオス語で「オカマ」のこ

とを **dtgp** (カウ-イ) と言う。

(16)  
**pk, .fgf** [**5glq9b9trh, rPC**]

X<sup>ハ</sup>-ム・ダ イ・デー - ブン・ハオ・チュン・チャ・ホ -ムピアン?

r<sup>ワ</sup>f<sup>フ</sup>h<sup>フ</sup>PCd<sup>ダ</sup>ə<sup>ダ</sup>g<sup>ダ</sup>0<sup>ダ</sup> rk0; ə<sup>ア</sup>x<sup>ア</sup>h<sup>ア</sup>ov<sup>ア</sup>0<sup>ア</sup>soj p

X<sup>ホ</sup>-ダ イ・リアン・カン・カオ パー・クアン・ホ<sup>ン</sup>・カイヌアイ?

, 0; k<sup>ク</sup>x<sup>ク</sup>h<sup>ク</sup>ov<sup>ク</sup>0<sup>ク</sup>jk<sup>ク</sup> , nk<sup>ク</sup>p<sup>ク</sup>x<sup>ク</sup>h<sup>ク</sup>ov<sup>ク</sup>0<sup>ク</sup>jk<sup>ク</sup>C

(ム・クア<sup>ン</sup>・ホ<sup>ン</sup>・カイ・アイ ム・サー・イ・ホ<sup>ン</sup>・カイ・ノ<sup>ン</sup>)

pk, .f = 「いつ」 [ɔ = 「縁」 rh, = 「そろう・ととのう・

用意ができる」 r<sup>ワ</sup>f<sup>フ</sup>h<sup>フ</sup> = 「ちょうど した時」

]PCd<sup>ダ</sup>ə = 「並びそろう・ペアになる」

g<sup>ダ</sup>0<sup>ダ</sup> = 「 に近づく」 rk0; ə 「この場合結婚式の時に使う花  
籠で新郎新婦がこの前に座り、式をおこなう」

x<sup>ア</sup>h<sup>ア</sup>o = 「剥いて口にに入れる」赤ちゃんに、スプーンで物を食べさ  
せてあげる時の動作をこの動詞を使う。

v<sup>ア</sup>0<sup>ア</sup>soj p = 「玉子」, 0; k = 「右手側」, nk<sup>ク</sup>p = 「左手側」

これは、いつになるのかな、私たちに縁があって一緒になれた  
時には、結婚式でスークアンをして、パークアンの前に座って茹  
で卵を剥いてお互いの口に入れて食べさせてあげ、愛情を確かめ  
あう。スークアンの時にはこのような儀式をする。

話は飛ぶがカンボジアの結婚式では、花嫁さんがマッチを擦っ  
て新婦のくわえている煙草に火を付けてあげる儀式がある。しか  
しここで式に参加している友達が、わざと邪魔をして火を吹き消  
したりして、もう一度やらせる。これはいわゆるユーモアという  
かおふざけなのだろう。実は日本で結婚式を挙げたカンボジア人  
のカップルの披露宴で、みんなのテーブルに来てキャンドル・サ  
ービスをした時のことである。カンボジア人のテーブルでせっか  
く点けたロウソクの火を何回も吹き消してしまった。これをみて  
ホテルのサービス係りが怒ってしまったとか。

ラオスでは煙草をつけるのは見たことがない。また茹で玉子で  
はなく、バナナを剥いて食べさせるのもある。これは非常にエロ  
チックで、わたしは見ているのが好きである。新婦が剥かれたバ  
ナナを頬張って口にふくんでいるのを見ると、こちらの方が興奮

してくるのは考えすぎではないだろうか。

さてラオスの習慣では、パークアンの右側に男性が座り、左側に女性が座る事になっている。これは、右側がラオスでは日本という上座であり、女性が男性に譲るべきであると考えているようである。そして最後に、一番下の段を注意してもらおうとわかるが、

**vɔjhp** , **hkp** の2つの単語であるが、2つとも最後の母音の発音が「アイ」となっていて韻を踏んでいるのに注意してもらいたい。ここらへんのラオス文学の奥の深さを味わってもらいたい。

(16)

**[kf; k]qgæ-β**      **cdCC6]kvPo**

(バード・ワー・ム・ペン・スー      ケン・グー・ワー・イン)

**[kf; k** 「の時」      **]q** 「話す」この場合 **]qlk;**

**-β** 恋人」      **cdC** 「スープ」      **C6** へビ」      **vPo** 「ウナギ」

これは若い男女が知り合って、デートを重ねて恋人になればへビのスープでもウナギのスープのようにおいしく見えてくる。日本語でいえば「痘痕もエクボ」といういったことであろう。

**vPo** のことを日本語で「ウナギ」と訳したが、これは日本の鰻の場合淡水と塩水のちょうど中間の汽水に住んでいる。日本でも浜名湖の鰻は有名である。ラオスの場合、淡水のメコンに生息するものであるが、小生もラオスのウナギのスープを食べたことがあるが、そんなに美味しくなかった。日本のウナギより細い。蛇は仏教の教えで食べてはいけないものであり、猫も犬も食べてはいけないものとされている。第一、蛇のスープなんてグロテスクで気持ちのいいものではないことはラオス人も同じである。

この次に

**[kf; kxPo-β]h**      **xkxVd; kxC**

**X**バード・ワー・ピ・アツ・スー・レオ      パー・ピン・コー・ワー・ピン?

**xPo** = 「変える」      **xV** = 「焼く」      **xC** = 「ヒル」

恋人が浮気して気持ちが変わってしまえば、焼き魚もヒルみたい

に思えてくる。これは **xV** **xÇ** の音が似ているので、音を合わせている。恋人が気が変って逃げて行ってしまえばむなしいものである。おいしい焼き魚もヒルのように見えてくる。

(17)

**w8tskf** - **Ndkf** - **Bec, ßBkf**

(パイ・タラド) (ス・パ・ック・カード) (ス・ナム・メ・トウ・マド)

**gylwgl f l Qzdkf** (ア・オ・パ・イ・ハット・ソム・パ・ック・カード)

**w**「行く」 **8tskf**「市場」 - **N**「買う」 **zedkf**「白菜」

- **de** 「から買う」 **c, ßB** 「おばさん」

, **kf**「マート」おばさんの名前 **l Qzdkf**「白菜の漬物」

これは単なる言葉の「お遊び」で各々の節の最後の言葉の母音が「アート」になっている。いわゆる冗談であるが、「市場に行って白菜をマートおばさんから買って、もって帰ってきて漬物にする」という意味であるが、これをルパンの人が朗読すると心地のよい響きになる。このような言葉の遊びはラオス語にはいっぱいあるらしい。

(18) **7wsbec, jk** (ク・ハイ・ナム・メ・ナー)

**7n**「みたい」 **wsh**「泣く」 **wshe**「のために泣く」

**c, jk**「継母」

これは例えば料理を食べて、味が薄い **9h** あるいは **9kC** で不味い時にこのようにいう。塩がはいっていない。 **oExk** がはいっていない時など、味が薄くてとても食べられたものでもない。

継母が死んだ時も、お葬式をして弔うのだが本当のお母さんではないので泣くのも本当に悲しんで涙をながすのではなく、わざと涙をながすということになる。本当のお母さんではないので、泣き方にも気合がはいっていないわけである。要するに、料理を作るのにも気持ちがいっていないと、塩も胡椒も唐辛子もなにもはいっていないので当然まずくなる。このフレーズの前に [e-] をつけるのが一般的な言い方である。

(19) **dy skp 0 l skp**    **dy skp p p ; s k p**

X **キ**ン・ラーイ・キー・ラーイ    **キ**ン・ラーイ・ニアオ・ラーイ)

**l skp x k p 37 p c s ^**,    (シー・ラーイ・パーイ・コーイ・レーム)

最初の2つの文は「たくさん食べると、ウンコがたくさんでる」「たくさん飲むと、おしっこがたくさん出る」という普通の文である。しかし3番目のはエッチな表現で「オマンコをやりすぎるとチンポの先が擦り減ってくる」という意味である。これは蠟燭病というのを以前、聞いたことがあるがそれかもしれない。

**l u** 「オマンコする」 **x k p** = 「先・端」 **37 p** = 「チンポ」

**c s ^** = 「尖っている」

(20) **g p, 5 X** **ミア・ムン?**

, **5** は、**l q [ 5 X** **ツムバット** ) 「財産」という意味で、これは **g p . s p j**

(ミア・ニヤイ) 「正妻」の意味である。要するに両親がさがしてあてがってくれた奥さんで、「正妻」ということである。

**g p - v d g y C** (ミア・ソク・エツ) これは自分でさがした奥さんという

ことで、**g p o h p** (ミア・ノイ) 「2号さん」にあたる。そしてもう

一つが **g p d e w j** (ミア・カムライ) である。**d e w j** は経済用語で「利益・儲け」のことで、ようするに「得する」という意味である。例えば、遊びに行った先で女の子をひっかけって口説いてものにした場合

**g p d e w j** ということになる。

さてあるラオス人が英語で「Small-Wife」はとてもいい。と言っていた。その人の奥さんが小柄な人だったのではなく、かれは

「Second-Wife」という英語を知らなくて、ラオス語の **g p o h p** を

そのまま英語に直訳したのだ。**o h p** は「小さい」という意味なので、確かに英語でいえば Small になるのだが。

**g p x k p** (ミア・パーイ) **x k p** は「一番最後」という意味である。

従って、正妻、2号さん、3号さんといったら一番最後の奥さんになる。「奥さん」にもいろいろな言い方がラオス語にはある。

## ( 2 1 ) **70PC** ( コー・ニア )

これは、ラオスの山岳地帯に住む、**ᵛk; 16**(ラオ・スツグ)「高地ラオ」などによく見られる病気である。これはヨウ素 I が食事によりとられていないと、甲状腺に異常がおこり、のどがはれて膨れる。ヨウ素は自然界にはいたるところに存在する。地表面にそして特に、海岸地帯にみられる。私たちはヨウ素を食べ物、または飲み物より摂取している山岳地帯にはヨウ素がほとんどない。何故なら、山岳地帯では、雨が降って地表のヨウ素を低地の平野や、海に洗い流していくからである。従ってラオス国民、特に山岳地に住む少数民族は、この病気が多くみられる。

女性で、妊娠していると、ヨウ素が不足していると流産しやすい。また死産になりやすい。子供でもこの病気になっていると、成長が遅い、背が伸びない、歩行障害、虚弱体質になる。また知能障害・痴呆などになる。大人の場合、仕事をしても疲れやすく仕事の成果があがらない。

ヨウ素のはいった塩を摂取することにより、この病気は防げる。塩が手にはいらぬ人は、野菜、果物、肉、魚、卵などバランスよくなんでも食べることが必要である。ちなみにエッチな冗談で、

男は夜になったら **ᵛk; 16**(ラオ・スツグ)「高地ラオ」で、

女は **ᵛk; ʃ**(ラオ・ム)「低地ラオ」になる。というのがあつた。要するにベットの上で、男が女の上に乗りにかかるので、このように言うのである。勿論体位が違えば、このジョークも違って来るが。

## ( 2 2 ) **sudk;** ( ヒツ・カオ )

これは Gypsum のことである。サバナケット県のドンヘン村に行くと掘削している現場が見られる。Gypsum は建設用の資材として、はばひろく用いられているが、残念なことに現在のラオスの工業力では、ただ原料を外国に輸出して完成品を輸入するという形をとるだけである。ベトナムなどにはかなり輸出されて、焼き物になってラオスを経由して、タイに輸出されているのをよく見られる。

Gypsum を粉の状態にする、いわゆる Plaster にして建築・建設用として使うことができる。Plaster ( 焼石膏 ) は Gypsum をオープンで高温で焼いて、それを砕いて粉末にしたものである。これが水と混ぜると固まって硬くなる。

さてこの Plaster であるが、これには2つの種類がある。これは Gypsum を何度位の温度で焼くかによって違ってくる。

B - Gypsum これは焼く温度が 1400 度から 1800 度の比較的低い温度で焼く。固まるのが速い。

Anhydrite-Gypsum これは 6000 度から 10000 度位で焼く。これは B - Gypsum に比べて水と混ぜて固まるのに時間がかかる。

## ( 2 3 ) dko102s ] 6glfi] 6

( カン・ユ・ファイ・ラン・ワード・ルク )

これはラオスの古くから伝わる習慣で、お産の後、お母さんはベッドの下で火を焚いて、その上にいるという習慣がある。そしてその際には色々な食事制限もある。ここではその伝統的産後の療法がいいかどうか判断は別におくとして、この習慣を説明するだけにとどめておく。

102 の時は、熱いお水で水浴びをする。水ではなくてお湯を飲み食事もある種のもは制限したり、あるいはご飯と塩を食べるだけにする。母親はこの間、木のベッドで下から火を焚いてその上で寝るわけである。これらによって、母親の体温を上げて、血液の循環をよくして子宮の収縮するのを助け、子宮口が締まるのを早くしてそしてばい菌が入るのを防ぎ、子宮より出血を防ぐ。子供が出た後の傷口をくっ付けて、傷口が早く治るようにするわけである。

102 の期間、塩をたくさん取るのは 102 が暑いので汗をかいて汗により失われた塩分を補うためである。昔は精米所がないので自分の家ですいたお米だったので、それだけでも蛋白質がとれた。現代において、102 をやる人は栄養のある食べ物を摂取することが大切である。そうしないと母乳にもいい影響を与えない。

これはラオスの科学雑誌 ; ytpklkf g8doy ( 科学と技術 ) という雑誌に載っていた記事の要約である。原文はラオス語で、翻訳は村山である。

ここで考えてしまうのは、食事を制限すること、いわゆるラオス語でいう 7t ]evksko ( カム・アム ) である。これは山岳民族をは

じめ低地ラオも産後にしているようである。出産以外でも、生理の時には、これを食べてはいけない、あれを食べてはいけないなど、いろいろ制限がある。これは **crh** (パ-) といって食べ物にあたるから、刺激に負けるから、産後とか生理の時のように体が弱っているときは、なるだけ刺激のあるものはとらないようにするとか。但し、産後にお米と塩ではあまりにも栄養がないのは明らかである。

この習慣について、マハー・シラー・ピラボオン (ラオスの民俗学者でラオスの柳田邦男) は、この習慣は時代遅れでこんなことを信じているとラオスが発展しないし、事実と違うと、氏の著書

「ラオスの12の習慣」 **Iflylvc** のなかで批判している。これが出版されたのが1974年のことであるが、現在もこの習慣がラオス人のなかで守られているようである。

以上の文は妻が長女、桜ちゃんを産んだ時に書いた物である。その後この問題について書き加えたものがあるので以下に紹介する。

桜ちゃんの時はタイのノンカイで出産。出産後、病院で一泊してその後ピエンチャンに帰った。タイの病院を選んだのは、ラオスより施設、設備、技術も進んでいる、医者もラオスに比べてタイがいいとの彼女自身の判断であった。退院後、タイの病院の看護婦さんが、**1j2** (ニュー・ファイ) なんかしなくていい。**7tjevksko**

(カラム・アム) 「食事制限」なんかしなくてとにかく十分に休養をとって、栄養のあるものを食べてください、ということを説明してくれた。私の妻も看護婦さんの言う事を黙って聞いていたが、ラオスに帰るなり「タイの病院では、あんなこと言ってたけれども、やはりそうはいつでもー」ということで、家で **1j2** をやった。

(わかっちゃいるけど止められない。)これはだいたい4週間近く、その期間ベットの下に炭を置き、**vk[oe** (アブ・ナム) 「水浴び」しないで、体をタオルで拭くだけの火焙りの刑が続くのである。時々、薬草を蒸してその湯気を体に浴びる。これが大変女性にとって体に負担で貧血になる人もいるという。水浴びしないのは昔だったら温水シャワーなんかないから、冷水だと風邪をひくので、水浴びさせなかったのだろうが、今の世の中お湯を沸かすこともできるし、電気でお湯が出てくるし (電気温水器) または、ロシア製の電気こてを水の中に入れて置けば、お湯が沸く。(このロシア製の電気こて

は、隊員時代に私も買ったことがある。隊員もよく使っていたようである。)

ベットの下に炭を置いて燻すのであるから、当然汗はかくし、体はベトベトしてくるから、シャワーでも浴びて体をきれいにした方が気分もよくなるのではないか。産後の女性はこの時期に体を冷さないように毛糸の靴下を履くなどする。

この **1๒2** について、ラオス人自身も嫌がっているようである。現在は、ちゃんとした薬もあるし医者もいるのだから、こんなことしなくても良いと思うのだが。出産となると、おじいちゃん、おばあちゃんといった親戚連中が出て来て色々としきりたがるのである。そして最終的に若い人は、彼らの意見に逆らってまで「**1๒2** をやらない」というわけにはいかないようである。どうしてもやらないと言い放つても **xtgro๓k**; (ປາບ--ນີ-ໄຮ) 「ラオスの習慣」というラオスの伝統習慣の無言の圧力に負けて、この習慣を受入ざるをえないのだ。実際、ラオス人と何か討論して仕事のやりかたでぶつかり、彼らがよく言うセリフは、これは **xtgro๓k**; だからここはラオスなのだから、外国人とはいえラオスの習慣に従ってもらわないといけない。このような論理を展開する。たしかにこの理屈わたしも認める、ここはフランスの植民地でもないし、ちゃんとした独立国家であるから、外国人であろうとも彼らの伝統、習慣を尊重するのは、国際交流のマナーである。

しかし伝統、習慣といっても2種類あると思う。悪い習慣と良い習慣である。私の友達で中国系タイ人のヨンさんは、タイと比べてラオスは良い伝統習慣が残っている。その一つに女性がシンというラオスの伝統の巻きスカートをはいていることである。タイも昔はこのスカートをはいていたが、西欧化のためか皆この伝統スタイルを捨て去ってしまった。ヨンさんにとってみれば、ラオスには昔タイが持っていた良き伝統が残っているのである。これはその伝統を失った国の人の意見なので傾聴に値する。逆にこの **1๒2** というのは、女性を苦しめているだけではないか。外国人がこの習慣を見ても誰も尊敬しないし、よい伝統だとは思わないはずであろう。ラオスの巻きスカートは、外国人がみても優雅だし、私も一つ仕立ててみようと思って生地を買ってきて、あつらえてもらう人は沢山いる。

けれども外国人でこの **162** の習慣を見て、これは良い習慣だから、今度私が出産するときに私もやってみとうとは誰も思わないだろう。しかしこのような事は、外国人だからこそラオス人にアドバイスできることかもしれない。日本と同じで外圧がないと、変革されないのであろうか。

さてこの **162** であるが、JOCVの隊員のカウンター・パートで研修で日本に1年弱行ったラオス人の話である。彼は奥さんが出産した時もこの習慣をやらせなかったという。おそらく親戚から相当言われたと思うが、彼はレントゲン技師で考え方も進歩的なのだろうが、ラオスも新しい時代になったかもしれない。

しかしそうはいつでも外国に何度も行ったことのあるインテリでも子供が病気したら、お医者さんではなくて祈とう師を呼んで来たなどという話は、それを実際に見た日本人から話しを聞いたことがある。

ところで私の妻も、桜ちゃんの時は **162** をした。2番目の蘭ちゃんの時は、さすがの私もアホらしくなってこの習慣は止めさせた。桜ちゃんの時は、自分の妻ながらなさけなかった。本人自身も辛いと思っていて、それを見ている私自身も可愛いそうでしたたまらなかった。止めさせたかった。しかし恐らく私一人が反対しても、他の家族は得意の(パペニ・ヲ)を持ち出して、しょせん外国人にはわからないと言う事で、「お前は黙って見ている」(ボ・ペン・ニャ)で終わってしまっただろう。そして家族皆が妻と娘の世話を一生懸命してくれるのに対して、「**162** は止めさせる、でも妻と子供の世話はしろ」というのでは、あまりにも我ママで、自己本位な要求かもしれない。実際、日本で出産したら原始的な **162** はしなくていいが、1日2日で退院してその後家に帰って子供の世話が大変だろう。なにせ日本は核家族であるから、その点、ラオスは **162** があり、女性は大変だが、子供の世話をしてくれる家族、親戚がいるのでその意味で負担はずっと楽である。

もしラオスの社会の核家族化が進んで、日本みたいになったら

162 をしろという親戚などの圧力もなくなってくるだろうが、それと同時に家族の結びつきも現在の日本のように、薄くなっていくのだろうか。162 についてマホソット病院で助産婦として活動している隊員に話しを聞く事ができた。彼女が言うのにはビエンチャンの田舎から来ている人は100%162 しているらしい。しかし町の中に住んでいる人は、やっても2 3日だけで、それもおじいちゃん、おばあちゃんがうるさいから、一応やる真似だけで本人はやりたくないと思っている。こういった若い世代が増えている。またお医者さん、看護婦さんも162 なんてやる必要ないと妊婦さんに助言しているようである。

それと面白いと思ったのは、妊婦さんが出産後、おばけ ZU(ﾟ-) に赤ちゃんを取られるというのを恐れて、包丁を枕の横に置いておくという習慣があるという。

それからこの162 の時に親戚、友達などが家に遊びに来て赤ちゃんの顔を見に来る。これは子供を産んですぐにでもみんな来るので、お客さんの対応に赤ちゃんを産んだお母さんは大変である。これはラオス人にはポー・ペン・ニャンであるようだ。そして夜は162 の期間、毎晩の如くトランプの博打になる。この寺銭もお祝いになるのであろうか。お葬式の時も博打になるようである。それから、このような言い方もある。

**dhoo0g Qw2 [nəglə zβC4nkvdc ]h**

(コ-ン・キ-サ-ファイ・ホ-タ-ン・ジ-ン)(プ-ニ-グ・トゥ-パ-イ-ク-レ-オ)

dhoo 「固まり」 0g Qw2 「炭の火」 [nə 「まだーでない」

glə 「冷たい」 zβC 「女性」 4nk 「妊娠」

vd 「および」 c ]h 「完了形」

「まだ162 の時のベットの下の置いた、炭の火が冷たくなっていないのにまた女性が妊娠した。」この文の説明には、出産後にすぐにまた赤ちゃんが生まれないように、ラオスの習慣では162 をす

るのだと説明がある。この時、おばあちゃんがベットのそばに居て、旦那が、出産したばかりの奥さんにオマンコしないように見張っているとのこと。これを読むと、昔は避妊薬なども今ほど便利ではなかったのも、このような習慣もそれなりには意味があったのかも知れない。日本でも、産後3ヶ月は我慢したほうがいいのかである。続けざまにやられては、女性の体も可哀想なので、その意味でこの習慣も昔は意味があったのかなと思う。それから旦那のほうとしては早くやりたいのであるが、ラオスの冗談で奥さんの腕をつかんで、暑いベットの回りを3回歩いて回れたら、奥さんも体が戻っているのでオマンコしていいよ、という冗談がラオス人の中では良くいわれている。子供が生まれたら皆が祝福しに夜、集まる、集まって子供の顔を見て、それからトランプ博打になるのが普通だ。その時に今言った冗談がよく言われる。この子供が生まれた後、親戚友人がたいは夜であるが、集まってくる儀式を **Cko7e**(ガ-ツ・カム) という。

**Cko**「儀式」 **7e**「夜」それから **1fle** をするのを、「暑い」ので **1fleIho**(ニュー・カム・ホ-ン)といい、しないでベットのただ寝ているのを「涼しい」ので **1flegla**(ニュー・カム・ジ-ン)という。

それから、ラオスの民間療法で面白いものがある。私の日本の親戚が大阪で鍼灸をやっているが、その治療のなかに「吸いだま」と呼んでいるものがある。これは素焼きのお猪口みたいなものにアルコールをいれて火をつけて、それをつぼに押し付ける。火が燃える時に真空になり、それで吸引がかかり、悪い物が吸い出されるわけである。私のベトナム語の先生(ラオス在住のベトナム人)が、風邪の時にこの治療方法をやってもらおうと元気になる。ベトナム流のやり方だ。このように言っていた。実際治療している所は見なかったが、話しを聞いてみると日本の「吸いだま」と同じである。この他にカンボジアの民間療法で、風邪をひくと体に油を塗ってコインのようなもので体をひっかくものがある。治療した後を見ると体が、引掻いた後のアザだらけになっている。これもツボを刺激して、風邪などを治すやり方であろう。

最後に、帝王切開の場合はオマンコを通じて赤ちゃんがでるのではなくて直接取り出すので **1p2** はしない。この帝王切開をラオス

語では冗談に **7q (カ)** という。これは本来は「料理する」という意味なのだが、まな板に載せて魚をさばくように、お腹を切って子供を取り出すのでこのように言うようである。私の親戚で2組、いずれも双子で予定日が過ぎても生まれなかったので、帝王切開でだした。一人はノンカーイの病院だったので、有無をいわずに手術した。この場合は自然分娩だといつノンカーイに行っていないか分からず、陣痛がおきてからでは、国境を越える書類が間に合わない。従ってたいていはお腹を切る事になる。

それからノンカーイで生まれたラオス人の子供は、何も手続きなしに、みんなそのままノンカーイの通関を通過してラオスに来ている。私の長女の桜ちゃんもノンカーイで生まれたが、次の日にそのままラオスに戻って来た。そして出生証明書をとりに父親の私が後日ノンカーイに行き、ノンカーイの役所で書類をだしてもらった。この場合は母親がラオスに永住する中国人だったので、問題はなかったのであるが、両親とも外国人の場合は、パスポートを作ってラオス入国のビザをもらってからでないといラオスに戻れないので、大変である。

(24) **dəfdj kcdh g jgldfcmh]hcdhæ**

(カ・ディ・カー・ケ) (ム・クド・テ・レオ・ケ・ホ・タ)

**də**「予防する」      **fdj k** 「よりいい」      **cdh**「解決する」  
**g j** 「の時」      **glf**「生じる」      **cmh**「本当に」  
**[hæ**「間に合わない」

予防は解決より有効である。これはなにか悪い病気の対策のローガンのようなのですが、「予防が最善の解決策で本当におこってしまったら、間に合わない」

例えば、ビエンチャンではバイクの増加とともに、交通事故も増えている。もし交通事故で頭を打って怪我をしてもビエンチャンでは脳外科の手術は難しい。必ずヘルメットを被ってバイクにのるべきである。しかし、ラオス人はこのヘルメットを被るのをみんな嫌がる。どうしてかと聞くと「暑苦しいから」「夜は涼しいから被らなくていい」とかまったく理由にならない返事しか帰ってこない。病院で働いている看護婦の隊員にきいても、交通事故で頭を打って運ばれてくる人が、ラオス正月、中国正月、結婚式などの時期におおくなる。

この時期どうしてもお酒を飲んで若い連中が、スピードの出しすぎで事故をおこすのである。従って、このようなお祭りの日は若者が酒を飲んで酔払ってバイクを運転しているので、気をつけよう。逆にそのような日は、巻き添えにならないように運転しないほうが良いと思う。

ある日、義理の兄の友達の奥さんが、私のところに来た。奥さんの弟がバイクに乗っていて、事故で頭を打ってマホソット病院に入院とのこと。意識不明で、酸素を送っているがよくなりそうにもない。彼女は病院関係に親戚もいないし、コネもないので、協力隊あるいはJICAが病院にいるだろうから、わたしの方から助けられないか、誰かコネがあれば、もっといい治療を受けさせてあげられるのではないかと。ということだ、コネ親戚が何事にも優先されるラオスの社会で、病院にいいコネ親戚がいないといい治療・いい看護をうけることができないと普通のラオス人は思っている。そのことをマホソット病院で活動していた協力隊看護婦隊員に話したら、悲しそうな顔をしていた。彼女がいうのには、そのようにラオス人が病院に対して思っているのは本当に残念である。しかし悲しいけどこれはラオス人の本当の気持ちであろう。

わたしの義理の母が昔、同じ病院に入院したことがあるが、看護婦・医者ちゃんと付け届けしないとろくに見てくれない。毎日、焼き飯だのコーラだの妻の家族は、病院の連中にあげた。折り畳みの椅子も最後にあげてきたとか。まさに金で買う看護である。とはいっても病院の看護婦さんたちの給料は、驚くほど安いので、逆にいえばあんな安い給料で働くのは可哀想である。

さて、その患者の容体であるが、酸素を送ってなんとか生命を維持しているが、もし酸素を外すともうおしまい。そして救急車に乗せてノンカイに送るのにしても、酸素吸入装置は、救急車にはついていない。したがってタイに運ぶ事はできない。もし状態がもっと良くて人工呼吸などをしながら運ぶことができれば、タイに送ることができるが、いずれにしろこのような状態では日本の病院でも治療は無理とのことである。

彼女はなにかいい治療方法があれば、お金はいくらでも出すからといっているのだが、まさにこうなると **dəf dj kcdh** である。

500パーツ位で、安いヘルメットが買えるのだから被っていればこのようなことにはならなかったのだ。

タイのウドン・タニーに（97年の6月）出張で行ってきた。バンコクは5年前からバイクのヘルメット着用が、義務づけられた。この時も、国民がずいぶんと反対してそのため内閣が変わったらしい。実際その内閣はヘルメット業界から、賄賂をもらっていたらしいがとにかく法律ができたので、タイ人は皆ヘルメットを被ってバイクを運転している。バイク・タクシーなど、とくに若い女のお客さんで人の被った汗臭いヘルメットを被りたくないとの声もあった。そのために、バイク・タクシーのところに紙を置いて頭のところにいれるようにしたとか。トイレの座椅子の紙カバーみたいなものである。そしてこの法律は本来全国で施行されるはずだったのだが、地方はおくれたようである。それでも今年からウドン・タニーでもヘルメット着用レーンというのが表示されて、そのレーンでヘルメットを被らないでバイクを運転すると1000バーツの罰金ということである。実際わたしの知っている人が、罰金をとられている現場を目撃したといっていた。このような法律は非常にいいと思う。

また、バイクのバック・ミラーをはずしているのも罰金であるとか。しかしこれもラオスでは、わざとはずしている若い連中が多い。どうして、彼らは外しているのか、私にはよくわからない。もしなければ、後が見えないので危ないと思うのだが。かれらにしてみると邪魔でカッコが悪いのだろうか。

ノンカイでも来年位には、この法律が厳しく施行されるだろうとのこと。そうなるとラオスはどうか。

タイの悪い文化をラオスにいれるのはよくないが、このような良いことは、どんどん真似して欲しいと思う。別にお金・予算がなくてもやっていけることだしやろうと思えばすぐにできることである。タイでは今年からゴミを投げ捨てるのと罰金をとられるようになった。日本人がうっかりしていて、警察官の前で煙草のポイ捨てで、罰金をとられたという。ラオスも将来というか、現在でもゴミが町中に至る所に捨てられているので、罰金をとるようにすればいいのではないか。

ラオスに対しては苦言かもしれないが、良いと思っていうことなので、是非このようなことはとりいれてもらいたい。

また、日本にJICAの事業紹介セミナーで来ていたラオス人の研修生が、タイ・ベトナムにはCTスキャナーがあるのにラオスにはない。日本のほうでラオスに援助してもらえないか、という要望

があった。JICAのプロジェクトで、タイで交通安全のプロジェクトをやった講師の先生が、そのような機械をいれても、メンテナンスなどで、うまく保守ができなくて使いきれないことが多い。それより交通安全教育などをやり、ヘルメットを被る、正しい・安全なバイクの運転などを若者に特別セミナーのようなかたちで指導していくほうが効果はある。このようにこたえていた。わたしもこの考えに賛成である。

ラオスでは、交通安全教育が全然やられていないようなのでこのようなことを若者に指導していくべきであると思う。そして我が家の交通安全教育であるが、私も何回か妻にヘルメットを被るように注意したが、「暑いとか、忘れた」とか被らないことがよくあった。ある日、私の目の前でヘルメットを被らないで、バイクに乗って買い物から帰ってきたので、ヘルメットを投げつけて、思いっきり頭を叩いたことがある。その時は桜ちゃんも生まれていて、母親がヘルメットも被らずバイクに乗っていて、頭の事故でもあったらどうするのだ、少しは子供の事を考えろと思ってとった行動だ。決して暴力をふるったつもりではなくて、家族愛の表れと思ってやったことである。まあそれ以降、妻も懲りてヘルメットを必ず被るようになった。

この前、義理の妹の梅ちゃんもノンカーイに行って、500Bでヘルメットを買ってきた。きくところによると、このごろ交通事故で亡くなる人が増えてきたのでそのための自己防衛であるとか。

また以前協力隊事務所の調整員の稲垣さんも、ラオス人スタッフに、JOCVの予算でヘルメットを買ってあげて、毎月の給料から少しずつ天引きして、バイク通勤のラオス人スタッフの交通安全を考えていた。

他にも、日本のNGOなどでもラオス人スタッフには、バイク通勤の際は、ヘルメットの着用を義務化しているとか。このような動きは非常に良いことだと思う。

(25) 1kg 0c [[oE4h, nff

(ヤ・ワ・バ・ブ・ナム・トウム・ト)

1k = 「禁止」      g 0 = 「しゃべる」      c [[ = 「スタイル」

「のように」 **oE4h**, = 「洪水」 **ngj** = 「平野」

これは「牛のヨダレみたいに、だらだらとしゃべるな」ということで会議やスピーチなどで本当に同じ事をだらだらとしゃべっていて聞いている人が眠たくなることがある。

このフレーズはようするに、平野の洪水みたいに水がどんどんとめどもなく広がっていく、水がなかなかひかない、このようにだらだらとしゃべってはいけない。要領よく手短にしゃべってください、ということである。

(26), **glA**, **lkp** , **a7C**, **Ok**

(ミ・セ・ミ・サーイ) (ミ・ケ・ミ・カ)

**glA** = 「線」 **lkp** = 「線」 **a7C** = 「足のもも」 **Ok** = 「脚」

日本語でいえば、「コネがある」という意味である。ラオスではこれがあるのとないのでは、仕事を進めるのに大きく違っている。役所のなかの誰か重要な偉い人と、知り合い・友人・親戚関係であると話が本当に早く進んで行く。逆にこれがないと大変不利である。よく冗談で、強いコネをラーメンやフーの麺の太さで

**glA.spj**(セ・ヤイ)「太い麺」要するに別の意味で「強いコネ」、

「近い親戚」という感じで使う。逆に **glAohp**(セ・ノイ)は「細い麺」という意味だが、裏の意味で「あまり強くないコネ」ということで

「遠い親戚」という意味になる。

**glAohp** しかいないと書類がなかなかすすまなくて大変である。

(27) **4vdmhC**(トク・トソ)

これは、正しいラオス語で「お腹をこわす」という意味で、下痢の状態をいう。しかしこの頃、タイのTVの影響が強くなり、タイ語を真似て **mhCglp**(トソ・シア)という人、ラオス人のなかで出てきた。これはタイ語で「下痢をする」という意味である。ラオス人も聞いてわかるが、正確なラオス語はあくまでも **4vdmhC** である。こういったことをおちよくったこんなジョークがある。

タイ人から電話がかかってきて「本日は **mCglp** だから(下痢)だから、病院に行かないといけない」と言ったとか。

それに対して、ジョークでラオス人が

**mC** = 「お腹」が、**glp** = 「なくなった」のだったら病院ではなくて警察に届けないといけないでしょう、と切り返した。

**mCglp** で「お腹がなくなる」ということであるが、日本人でタイ語をバンコクで一年間勉強したという人が、音楽のコーディネーターの仕事でラオスに来た。彼女も「下痢」の事を「お腹がなくなった」というように言って、ラオス人におちょくられていた。しかしこのようにラオス人はタイ語がわかるだけに、テレビなどの影響でどんどんラオス語のなかにはいってくるのは、なかなか止めようがない。これはラオスの将来にとってどんな問題が生じるかである。

( 2 8 )

**7q]k; , kc87Axt4q, 6ko 9q, ũeg Q8fxkd8f1q**  
**lhmvfda, k;k [yo.f, uPCc7o [yooAc, pcfo]k;**  
**sŕe;k[yo.f, g0soP; 9Exkcf1gInopdrN, uPC**  
**c7o7; [76jyooAc, p-kf]k; 7q]k;**

これは、単語の説明は書かないで、全文の意味だけ紹介する。要するに、ケーンの音が聞こえてきてくるところはラオである。どこであろうともち米にパデークをつけて食べる、高床式の家に住んでいるところはラオである。

ラオス人がこのことをいうのは、東北タイのことである。東北タイは昔はラオスだったが、フランスがラオスを植民地にした時にタイとフランスの協定で現在の境界線がひかれてしまった。したがって東北タイにはたくさんのラオ人がすんでいるが彼らは、タイ人になってしまった。この土地はイサーンと呼ばれているが、バンコクのタイ人からは、ラオ・イサーンと呼ばれている。逆にビエンチャンのラオス人からは、タイ・イサーンと呼ばれているし。いったい彼らはどちらに属しているのか。

しかし、アトランタのオリンピックでタイで初めて金メダルをとったボクシングの選手も、この東北タイのコンケン出身であるが

タイ人は、彼の事をタイ人だと思って誇りに思っていることは確実である。ラオ人とは思っていないだろう。また私がラオス人から聞いた噂では、カオサイも、お父さんがビエンチャンのシーカイ出身だとか。カオサイはタイの国民的英雄で元ボクシングの世界チャンピオンで、いまは離婚したが日本人の「ゆみこ」という女性と結婚したことがある。しかしタイ人は、とにかくカオサイはタイ人だと思っていることは確実である。現在かれの両親はチャイヤブーン県に住んでいる。

チェンマイでひらかれたアセアン・ゲームでも、タイは地元の開催国であり、連日金メダルのラッシュであった。そしてマスコミも熱狂的にとりあげて報道している。それを見てやはりタイ人は、タイの国に対して誇りを持つ。そしてアイデンティティーがうまれてくる。

東北タイの人のアイデンティティーは、どうなのだろうか？  
彼らは、自分たちはやはりタイ人だと思っているだろうか？  
ビエンチャンのラオス人と、同じラオ族であることには違いがないが、タイ国に住んでいればやはりタイ人になるのは当然である。これもフランス植民地がおこした問題であるが、やはりラオスとタイはメコンで別けられているような気がする。

(29) **grjodɔskCkp grjɔɔkpskpkd**

(プアツ・キン・ハー・ガ-イ) (プアツ・ターイ・ハー・ニャーク)

**grjɔ** = 「友達」      **ɔ** = 「食べる」      **ɔkps** = 「死ぬ」  
**sk** = 「さがす」      **pkd** = 「難しい」      **Ckp** = 「易しい」

いい友達、信用できるような友人はみづかりにくい。食事をおごってあげるといえば付いて来るような人は友達であるが、それだけでは本当の友達ではなく、友達のために死ぬるそんな人が真の友達といえるのである。しかしそのような友人はみづかりにくいものである。これは日本もラオスも同じである。

(30) **xkds, ko** (パーク・マツ)

実際にこのような単語はラオス語にはない。これは2つの単語を合成して作った、冗談の単語である。1つは **xkds, k** (パーク・マ-) で、もう1つは **xkds; ko** (パーク・ワツ) これは「犬の口」要する

に

「口の悪い」という意味で、もう1つは「甘い口」という意味で「お世辞の上手い」という意味である。冗談で使ってみると面白いだろう。

(31)

## ၀၁၆၆၆၆; k, pyfue (コ・サゲ・ソ・クム・ンディ・ナム)

これは「おめでとう」という意味で結婚式などにいう決まりきったセリフである。これも人の失敗談なのでよく覚えている、ごめんなさいHさん。でもこれはあまりにも面白い話なので、この本には最適な内容なので書いてしまいます。日本人の男性でラオスの女性と結婚したひとがいます。彼の結婚式に私も呼ばれ、Hさんも同じ職場なので一緒に行きました。皆のお祝いをまとめてHさんに預けてHさんから新郎に渡してもらうことにしました。その時、Hさんが私に「おめでとうございます」とラオス語でなんというのか、私に聞いてきたのでこのフレーズを教えてあげました。だけど彼も思わず緊張してど忘れしてしまって「ハイ、香典」と言って渡したとのこと。受け取ったほうは「公電」と勘違いしてなんのことか戸惑っていたようです。

さて結婚式のお祝いですが、私は日本人がラオス人の女性と結婚する時は、お祝いは直接新郎本人に手渡すようにしています。ラオスの結婚式の場合、式場にはいる時に箱があってそこに招待状の中にお金をいれて、その箱のなかにお金をいれます。このお慶びの、お祝いのお金ですが、本来は新郎・新婦がもらうのですが、場合によっては、新婦の両親がとってしまうことがあります。私の友人のラオス人で、彼が結婚した時そのお慶びを新婦の両親がとってしまうと、それが原因で夫婦喧嘩をしたそうです。わたしの友人の結婚式も奥さんの家族が、お祝いのお金を全部とってしまうと彼が結婚パーティーのお金を全部払うことになってしまいました。日本での生活を考えると、すこしでも新郎に負担させたくないの、それ以来、私は直接新郎にお祝いを渡しています。したがって箱の中に入れるのはダミーで、小額しか入れません。

そしてもうひとつ大事なこと、結婚式のお祝いにどの位包んだらいいか。これは是非一つ知ってもらいたいことである。

例えば、メコン・レストランとか、パイナム、ダオビエンなどの有名なところだと、食事・料理がどれくらいかかるかということ

ある。だいたいメコン・レストランでも一人分、四千から5千キップで組んでいるようである。行くのなら最低それくらいは包んで持っていったほうがいいと思う。結婚式に呼ばれた時に、場所がどこか、その場所がどのくらいのレベルで、一食あたりの予算がどのくらいか、ラオス人に聞いてみることである。

それから上限はないので、特に日本人の専門家クラスになるとラオス人も彼らがどの位の給料をもらっているか全部知っている。もし少なすぎると「ケチ」と思われるのは明らかである。お祝いを少ししか包まないのなら、行かないほうがましだと思う。この額についてどの結婚式も、あとでその人はこれだけしか包まなかった、などと悪口を聞く事が毎回である。それと中国人、ベトナム人の場合は必ず誰がいくらお祝いをくれたか記帳しているので、くれぐれもただ飯を食べようと思ってはいけぬ。なかには、ラオス人で一枚の招待状で何人も、たかってくるのがいる。それと私の知っている最悪のケースでは、招待状に何も包まないで、きっちりと糊づけして来たのもいる。

私の妻の実家の前の金屋さんは、どの結婚式のお祝いも、400バツ包んで持っていくという。中国人の金屋というラオスの社会でも御金持ちクラスなので、日本人の専門家も参考になる額であると思う。ちなみにお祝いの額は、偶数でもよいらしい。日本人は偶数だと割り切れるので縁起が悪いので一万円、三万円、五万円と奇数がいいと聞いたことがあるが、ラオスの場合は関係ないようである。

それとラオス人の結婚式は女性ならシンをはいていく方がいい。中国人やベトナム人の結婚式の場合は、ドレスでもよい。私の妻もラオス人の式にはシンで、中国人の場合はドレスである。しかし黒のドレスは絶対にやめること。一見常識のようであるが、私はあるベトナム系のラオス人の結婚式に、上から下まで真黒のドレスで出席して、みんなの鬢髻を買っていた人のケースを知っている。中国人・ベトナム人は黒を嫌がるので、気をつけること。またこのようなことは彼らは直接注意しない、どうせ2-3年で自分の国に帰る外国人だからということで、ポーペンニャンで注意しないで済む事が多い。こんな結婚式みたいなおめでたい日に、そんな注意なんて、面と向かって本人に言えるわけではない。ある中国人と結婚したラオス人の女性が、新郎・新婦そろって旦那さんのお母さんに挨拶

に行った時の話である。彼女は何も考えずに、黒い服を着ていった。それを見た姑さんが一言、**໐໙໙໖໑໓໐໘໙**(コイ・ニャン・ホー・タン・ターイ)「私はまだ死んでいないから」ということで、わからなければシンをはいて行くのが一番無難である。

それから、お葬式のお通夜の席で

私の場合は妻がラオスの人間なので、自分の亭主が馬鹿なことをして恥じをかくのは自分なので、このようなことはよく教えてもらっている。しかしラオス人は外国人に遠慮していて、まあどうせ、ポーペンニャンですませてしまう。

**໐໕໓໒໕໗; ໙, ໕໑໓໒໕໐໓**

(コ・サ・ソグ・クアム・デー・チャイ・カト・ケオ)

**໐໕໓໒໕໗** これも「オメデトウという時の、決まり文句」

**໗; ໙, ໕໑**「嬉しい」 **໓໒**「噛む」 **໕໐໓**「歯」

これは歯を噛んでお慶びを申し上げます。ということで本当は嬉しくないのだが嫌々オメデトウを言っているのである。嫌みで祝福しているわけである。

## (32) **dtc2 dtg**

このコンピューターは、タイ語が打てないので両方ともラオス語で書いた。意味は両方とも日本語で「コーヒー」である。ここではエッチな意味ではなくていわゆるラオス語とタイ語の違いについて述べる。最初の **dtc2** がタイ語であり、二番目の **dtg** がラオス

語である。この2つの単語の違いは母音の **gV** と **cV** の違いである。タイ語は英語の c o f e e から母音の発音が来て、ラオス語は

フランス語から来ているので、微妙に発音に違いがきているとのことである。タイ語とラオス語も似た言語であるがこのように微妙に発音に違いがみられるので注意するべきである。

以前にタケクに出張した時のことである。食堂に入るとメニューが貼ってあって **dkg** と書いてあった。これは所謂、カフェーのは

ずだが、ここはベトナム人の経営する店なので **dkg?** と書かなくては  
いけないスペルをこのように書いてあった。この文字どおりに発  
音すると **dkgr** は(カペー)という音になる。**dkg?** と書かなくては  
(カフェー)という発音にならない。しかしベトナム人はPHとFの発  
音が一緒になるので、このような書き方になったのであろう。  
ちなみにタケクの町は、ほとんどベトナム人のお店で、75年の革命  
前は中国人が経済を握っていたが、皆逃げて行ったので今では中国  
人は20家族位しかいないらしい。ちなみに「寮東学校」という昔  
の中国人学校があるが、いまは中国語は教えていなくて名前は中国  
学校であるが、ラオス語しか教えていないとか。

(33) **gylzdsdso** (オ・パック・ハック・ノ)

これはラオス人の自然にいきる、自然のなかで生活していく様子  
をしめす言葉である。ようするに **zd**「野菜」この場合は日本的な  
意味での「野菜」ではなくて、森のなかに生えている「食べれる草」  
とでも訳したほうがいいだろう。**SO**「竹の子」も自然にはえてい  
るものである。ようするに昔のラオスは木や森が沢山あり、お米が  
なくても、ちょっと森のなかに行けば、竹の子や食べられる草がい  
っぱいあった。それが今では森林が少なくなって農民の生活は大変  
になっているとかである。ここらへんは開発と自然破壊の問題がか  
らんでくるので簡単にはいかないことであるが。

(34) **d6kwl** (ケ・マ・カイ)

何年か前に、タイのバンコックの高速道路を日本の建設会社で、  
「熊谷」が工事をおこなった。その後、引き渡しの時にタイ政府と  
もめて結局損して帰って行ったという話である。これはあくまでも  
冗談であるが会社の「熊谷」がどうして負けたかということ「俺は遠  
くからきたから」である。

なぜなら「熊谷」の発音をタイ語・ラオス語で書くと **d6kwl** にな  
る。語を説明すると **d6**「俺、一人称」これは「私」という意味では  
なくまさに「俺」という意味で目上の人には使ってはいけない  
。 **k**「来る」 **wl**「遠く」ということで「俺は遠くから

来た」そんな遠くから来た会社なら商談・取引きで負けてしまうのだ、という冗談である。

JICAのラオス事務所にもこの「熊谷さん」というかたが働いている。ラオス人が **gŋ, kc8j lL** と聞いたので、名前を聞いたのかと勘違いして **d6kwd** と答えたとか。それを聞いたラオス人は、「なるほど、この人は遠くから来たんだな」と解釈したとか。これは私が考えた冗談なので本当の話ではない。日本人の名字にはラオス語の意味で色々面白いものである。

### (35) Thank you very much

英語で「どうもありがとう」というこの言い方をラオス語で冗談に

**cmC7Y** very much - **vfdt, ɸ** という。

(テツ・キ・ベリ・マッチ・ソド・カマツ)

**cmC** 「突き刺す」 **7Y** 「眉」 **-vf** 「突き抜ける」

**dt, ɸ** 「こめかみ」

要するに、ナイフで「眉からこめかみまで突き抜ける」という意味でそんなことしたら死んでしまうが、ここは悪い冗談でこのようにいうのだ。

### (36) ラオス語の発音

私は、最初にタイ語を大学の公開講座で習ったのでタイ語の癖が残っていた。初めてラオスに協力隊で来た時も、タイ語訛りのラオス語だったようだ。つい最近、東京外国語大学の上田玲子先生に聞いた話で、小生も以前から疑問に思っていたことがわかった。

タイ語の「**;**」とラオス語の「**;**」では発音が違うのである。

タイ語は「ウオ」という感じで、ラオス語は英語の「V」の発音ほどではないが「ボオ」という感じになる。タイ語はラオス語ほど唇を震わせないとのこと。

しかしこの頃の若い人の発音はタイ語に似ているとか。

私が、日本でラオス人に最初に会った時、彼らが **le; q** の発音を「ラム・ボン」という感じで発音していた。タイ語だとこれが

「ラム・ウオン」になる。今までこの違いがわからなかったのだが上田玲子先生に聞くと、このような違いがあるそうだ。これもタイ語の影響を、若者が自然に受けているのかこの頃の若い留学生は、タイ語の発音になっているようである。この「；」の発音もタイ式の発音になっているようだ。例えば、この他にも上田先生から聞いた話だが彼らのラオス語が **wxoedə** と言うべきところを **wxfhpdə** と言ってるようである。こんなところにラオス語が抱えている問題があるようだ。

わたしが97年の秋に、ラオスの運輸建設通信省の副大臣のカムルアット氏の通訳をした時も、わたしがタイ語式に「リアブ・ローイ」と言ったらそれはラオス語ではなくタイ語である、と言った。氏はビエンチャンのリセを卒業して、すぐにサムヌアに行って革命に参加した方である。このような人はラオスに対する愛国心があり言葉の問題にもうるさいし、ラオス語の乱れについてもうるいっているようである。

### (37) ラオスのフー屋さんでの冗談

タイと違ってラオスではフーを注文すると、皿に野菜がのってきてその野菜をフーのなかにいれて食べる。タイの場合は特別に注文しないといけませんが、ラオスの場合は野菜がセットになってついてくるのである。この野菜といっても葉っぱであるが、色々な種類がある。そのなかに、**[sv, cdh]**(バイ・ホーム・ケム)と

・**[8q sok]**(バイ・トップ・ナー)というのがある。これらは、葉っぱの名前の固有名詞であるが、これらの単語を分析すると以下のようになる。

・**[**「葉っぱ」 **sv**, 「匂い、キスする」 **cdh**「ほぺった」  
**8q**「叩く」 **sok**「顔」

ということである。ある人がフー屋で、この**[sv, cdh]**を注文するのに以下のように頼んだ

**0sv, cdh**(コ-ホーム・ケム)



タスも高くて、御金持ちですから。そんな立場の人がブス（私も見たけれど、これは趣味が悪いといったほうがいい）を連れているのですから。これは少し趣味、美的鑑識眼を疑われます。やはり身分・地位の高い人はいい女を連れて歩かないと。日本だって芸能人・プロ野球の選手の奥さんは皆美人ですし。

こんなことを書くと女性の読者に怒られてしまうかもしれませんが、ゴメンナサイ。

Γ= 十分である」 **gɔk f**「お寺に入る」 **gɔk k**「これは直接意味がない。しかし前の **gɔk f** と一緒について文を整えるための付け足しである。」

この後にタイ語では **s, k[ɣh]** (マ・ホ・ハ) と続く。これはブスな女と歩いていると、犬に吠えられるとか。従って犬が吠えないくらいのレベルである。 **s, k**「犬」 **ɣh**「吠える」

#### (40) 女の人からの断り方

さて、男にプロポーズされて断る言い方を紹介しましょう。ラオス語では、このように言います。

先ず最初に、 **OxəəhC** (コ・パン・ノ) 「妹でいさせて」

というセリフであります。これは日本でも使っていると思いますが、ラオスもこのような言い方があります。これを言われると、断られたと考えていいでしょう。ラオスでも結婚して旦那さんのことを、奥さんが **vkp** (ア-イ) 「お兄さん」といい、また旦那のほうも奥さん

(自分の妻) にたいして自分のことを **vkp** といいいます。従って奥

さんからすれば自分は **ohC** (ノ) 「妹・弟」であり旦那からも **ohC** と呼ばれる事になりますが、この場合はそのようなわけではなく、婉曲的に断られたこととなります。間違えないでください。

その他に、 **Oxəgɔnɔtsʌfvw**

(コ・パン・プア・テー・タド・パイ) 「ずっと御友達でいましょう」というセリフがあります。これも日本語でもこのような言い方が言えますので、このあたりは日本・ラオスの気持ち・精神構造がすごく似通っていると思います。このように相手の気持ちを考えて、振

られる人が傷つかないように断るのはやはり同じアジアの民族であり、毛唐とはまさしく違います。

毛唐というもまた、問題発言かもしれませんがこの毛唐というのは、私の言葉の定義で、外国にきて長く生活・仕事をするのにその国の言葉・習慣を全然学ぼうとしないヤカラをさしていいいます。彼らは、英語が世界の共通語だと思い、この言葉ができない人たちを差別しているのです。せつかく自分の生まれたところと違う文化の世界に住んでいるのに、その国の文化・言葉を学ばないで英語・フランス語など植民地の支配者の言葉しかしゃべらない連中です。

もちろん、この面白くて為になるラオス語の読者には、毛唐はいないと思います。わたし愛国者であり妻が生まれた国（ラオス）が好きなのでラオス語を一生懸命勉強したいです。そして少しでも沢山の日本人にラオスのことを理解してもらいたいのので、この本を書いています。

すこし脱線したので本題に戻ります。

**grjo** 「友達」      **nji** 関係代名詞にあたる」

**8tsvfw** 「これからずっと」ということでもあります。

この他にも **pe[rh, .9gni** (ニャン・ホー・ホー・ム・チャイ・トウ)

「まだ心の準備ができていません」という意味です。

**rh, .9** 「心の準備」という意味です。これも断るのに婉曲的な言い方です。ところで私がエチオピアにいた時、協力隊の隊員がディスコでアメリカの女の子をダンスに誘ったところ、「この曲は好きではありません」と断られた。これもアメリカ流の断り方かもしれない。ちなみにラオスでランボン・ダンスは主催者の方でお客さんを接待する意味で女の子を用意していて向うの方から誘ってくるのでこれは断らないで踊ってあげよう。

(41) **zpc7nk.ooE 9h, kc]h8hC.l0th,**

(プー・ン・クー・パー・ナイ・ナム)

(チャップ・マー・レオ・トウ・サイ・キー・ホー・ム)

女は川にいる魚みたいなものです、実際に釣りあげてみないとわからない(要するに結婚して一緒に暮らしてみないとみないとわからない)ラオスはいつも川の水が濁っているのでなおさらですね。

釣り上げてみると腸のウンコも一緒にあがってくる（要するに汚いものも一緒に上がってくるわけです）したがって結婚する前によく考えて・観察して本当にいい女の人か確かめてから結婚するようにしないとイケない。

zɸɸ 「女性」 7n- 「のよう」 xk 「魚」 .ooE 「川のなか」 9h k 「捕まえてくる」 .lɸU 「魚など、内臓にある糞」 rh, 「一緒に」

(42), ɸɸ.ombC 4nk, ko 8ɸdkC mhCxɸ

(ミ・ルク・ナイ・トソ) (トゥ・パー・マソ) (ツイ・カソ) (トソ・プソ)  
これは妊娠している状態をラオス語でどのように言うか、4つあげてみた。最初の2つは普通の言い方であり、辞書にもでてい

る。3番目の 8ɸdkC は、体の真ん中の部分で要するにお腹の部分が太っている、ということで要するに妊娠しているということを面白くいっているのである。次の xɸmhC も xɸ が「膨らんでいる」という意味であり、「お腹が膨らんでいる」ということでいわゆる

「妊娠している」ということである。この言い方もいわゆる面白い言い方である。xɸgxɸ (プソ・パオ) は「風船」になる。

, ɸɸ 「子供がいる」 .ombC 「お腹の中」  
4nk, ko 「妊娠している」 8ɸ 「太い」 dkC 「真ん中」  
mhC 「お腹」 xɸ 「膨らんでいる」 xɸgxɸ 「風船」

(43) skc2ol; p (ハー・フェソ・スアイ)

sk 「探す」 c2o 「恋人」 l; p 「きれい」

これはラオス語ではなくて、タイ語です。協力隊の任期が終了してタイを旅行している時に聞きました。皆で食事をしていてお皿にお肉が一切れだけ残っているとすると、遠慮して食べないでいる人に進める時に言うようです。残り物には福があるから食べてください。

そうすると綺麗な恋人が見つかりますよ。という意味だそうです。ただしこれは、ラオス語ではないようで、ラオス人にこのフレーズを話してもわかりませんでした。

(44) **4vpM 9qc]hd{vd**

(ト-イ・ト-イ、 チョソ・レオ・コ-・ホ-ク)

**4vp**「バック、後ろに下がる」 **9q**「ぶつかる」

**c]h**「完了形」 **[vd**「言います」

これは冗談で車でバック・オーライをされていて後ろが良く見えな  
いそんな時に横に乗っている人が冗談でいう言葉である。

「オーライ、オーライ、ぶつかったら教えてあげるからね」という  
ことで本当はぶつかる前に教えてあげないといけないのだが。そこ  
がオチなのである。

(45) **.9fe**(チャイ・ダム)

**.9**「心・心臓」 **fe**「黒い」ということで「意地悪」という意味  
である。しかし、例えば冗談でこれを言われたら「心臓」**sq.9**

(フウア・チャイ)が **fe** なら心臓が動いていないことなので、死んでいる  
ので。わたしは死んでないよ、だから **.9fe** ではなくて **.9cfC**「赤  
い心」(チャイ・デーソ)と言い返すのである。普通、人間の心臓は生きて  
いると血液が循環しているので、赤くなっている。従って心臓がま  
だ動いているのは「心臓が赤い」これが動かなくなると黒くなるの  
だ。

**cfC**「赤」 **.9cfC** は「赤い心」「赤い心臓」という意味で  
あるが、実際こんな単語はない。あくまでも冗談で作った単語であ  
る。また「マダム」要するに「奥さん」ということを冗談で「マデ  
ーング」というのもある。マダムが発音をラオス語でかくと

**,kfe** になる。**fe** は「黒い」である。黒があるなら「赤」があっ  
てもいいだろうということで、**cfC**「赤」をつけて、**kcfC**(マー  
デーング)と冗談で言ってるのだ。

(46) **00hpp6[+sh, kcfd ]k; 0p6[+sh, kcfd**

(キー・コイ・ニャン・ホー・ハイ・マー・デー・ク)

(ラオ・キー・ニャン・ホー・ハイ・マー・デー・ク)

**OU**「ウンコ、糞」      **Ohp**「私」      **pɛl**「+まだ」

**s, k**「犬」      **cfɔ**「食う」これは「食べる」の下品な言い方

である。「飯を食う」という感じで品のない、下品な言い方である。

ようするにこの2つの言い方は、「ケチンぼ」という意味である。

「私は、まだ自分の糞を犬に食わしていない」

「彼は、まだ糞をしてそれを犬に食わしていない」

ということでラオスでは、犬は下劣な動物でウンコを食べると言われている。自分のウンチを犬に食わさないほどのケチンボということである。しかしこの2つともお下劣な表現である。したがって言わないほうがいい。

(47) **gɔʔegxəʔvCovddkp**      [**ɔkpɔpɛskwfh**

(ゲン・カム・パン・コン・ノク・カイ、ホー・ターイ・コ・ニャン・ハー・ダイ)

**gɔʔe**「金銀」      **ʔvCovd**「外のもの」      **dkp**「体」

**ɔkp**「死ぬ」      **skwfh**「稼ぐ事ができる」

お金は、体の外にあるもの死ななければ（健康で働けば）またお金なんて稼ぐ事ができる。これは商売でお客さんがひつこく値切ってきた場合、このようにいいかえます。「お客さん、あまりひつこく値切らなくていいでしょう。お金なんて元気で仕事すればまた稼ぐ事ができますよ、ケチケチしないでパーと使いなさい」という意味である。

(48) **zqɔɔlk, ʔedjo** (プア・キノ・サム・カム・コン)

**zq**「亭主」      **ɔɔ**「食べる」      **lk**「3」      **ʔe**「口」

**djo**「先に」

ラオスの古い習慣では男尊女卑の考えがある。これも「ラオス女性」**zɔpɔlk**という本に出ていた内容である。食事の時に妻は夫が三口食べるまで、口をつけてはいけない。要するに、夫が帰ってきてから食べないといけないのである。その他にも寝る時も、枕の高さは妻の枕の位置は夫のより高くてはいけない。入安吾の日、新年

戒律の日 **Xəly?**の日には肉体交渉を持ってはいけない。

その他にも、托鉢や仏壇にお花を添えるのも、生理の日はしてはいけない。その日は別の人に代ってもらわないといけない。生理の日には、お寺に托鉢に行ってはいけないのである。

(49) **gəŋsoP; [ɛ [θoŋpɣəøE**

(チャオ・キー・ニャオ・ホー?) (ホー・キー・コイ・ペン・ナム)

**soP;**「粘っている」 **oŋ**「ウンコ」この場合はこの単語が接頭語

になって人の性質を表わす。**oŋsoP;**で粘着型の性質ということで「ケチ」という意味になる。しかしこの冗談では「俺のウンチは粘ってなくて、水性だよ」と冗談で言い返している

**gəøE**で水になる。要するにウンチが水なので「下痢便」のことである。これは、市場でものをかう時「お前、ケチだな」などと言われたらこのフレーズを使って言い返してやればいい。ラオスやタイなどではタクシーの運転手や、店の物売りの糞ばあが値段の交渉の時に「ケチー」などと言ってくるのがよくある。この場合は、このフレーズを使って反撃すればいいのである。

昔、妻と一緒に買い物に行った時である。ラオス人の店主が「日本人だったら、高く売り付けるけど、あんたは友達だから安くしてをくわ」と、私がラオス語がわかること、そんなことにお構いなく女房に言っていた。その時は国連ボランティアの時代で、JICAよりちゃんと手当てをドルでもらっていた。それを聞いた時とにかく嫌な気分だったことを覚えている。これがラオス人のお金がある人には、高く売り付けてもいいだろう、という考えだナーと思った。

しかしその後、ラオスも東南アジアの経済危機の影響をもらって受けて、いままで1ドルが700 900キップ位だったものが、3500キップにもなった。ご存知のように自分の国にこれといって産業のないラオスはタイからの輸入に頼っている。そうなると、キップの価値がどんどん下落して行って、とうとう以前の四分の一あるいは五分の一くらいになった。輸入していない野菜や肉などもあがった。これは便乗値上げであろうか、それとも肥料や種もタイから輸入しているからであろうか。そうなるとドルで給料をもらっている人は

変らないがキップで生活している人達の生活は、大変であろう。

例えば、20000キップもらっている人は、以前のレートだとドルで28ドルになるが、キップの価値が四分の一から5分の一になった現在は6ドルにしかならない。もし日本人が給料を月に、30万円もらっていた人が、6万円しかもらえなくなったら、その人はとてもやっていけないだろう。これと同じ状態である。

というわけで、ドルで沢山給料をもらっている人に、少しくらい高く物を売り付けても別にいいのではないかと、彼らが思っても誰がそれを非難できようかと自分自身も考えるようになってきた。そしてこれを書いている私自身が現在、仕事をしてない失業中なので、ドルで高給をもらっている人たちに羨望を感じるのも当然かもしれないが、

(50)

**4d]qsok; skp      4doqsok; skp**

(トゥク・ム・オ・ラーイ) (トゥク・ム・オ・ラーイ)

**4d**「受け身形の意味で、 にあたると」この場合は「風にあたると」の意味になる。 **]q**「風」 **oq**「オッパイ」 **sok;**「寒い」 **skp**「とても」

これは、わたしの妻のお母さんはベトナム人なので、ラオス語の発音がところどころおかしい。40年ほど前に当時の北ベトナムよりラオスに移住したのだが、ベトナム語の影響かラオス語の発音がおかしくて時々、娘たちに笑われるとか。この例文がその例である。本人は「風に当たると寒い」と言いたいのだが発音がおかしく「オッパイに触ると寒い」とラオス語では聞こえる。ベトナム語は「L」と「N」の発音の区別がないのか、その癖で義母はこのような発音の間違いをするのか、それとも単に本人の覚え間違いからか私はベトナム語の基礎知識がないのでわからないが、ネイティブでない人しゃべる外国語は、このような発音のおかしいところがあるのでこれはしかたがない。

ところで、義理父は客家で、彼らは客家語を大切にすると本で読んだ事がある。従って、客家が他の広東人とか潮州の女生と結婚しても彼女たちは、客家語を話すように、勉強するようにいわれている。従って、義理母も客家語をしゃべるようにして、ベトナム語は

話さなくなった。従って私の女房の兄弟全員ともベトナム語はできない。またベトナム人と中国人は仲が悪い。とくに北ベトナムではそうらしい。従って義理父と親戚が、義理母にベトナム語をしゃべることを禁止したと妻の淑珍が言っていた。これも中華思想の表れなのかもしれないが、インドシナの歴史である。したがって結婚して以来、義理母は中国人として登録されたとのこと。

というわけで、私の娘の桜ちゃん、そして今月の中旬に生まれる予定の蘭ちゃん（すでに名前は私が決めた）も四分の一がベトナム人で四分の一が中国人で、半分以上が日本人ということになる。おまけに桜ちゃんの出生地はタイのノンカイである。どうして蘭という名前を娘につけたかという、何かの本にベトナム人の女性の名前で蘭という名前があると読んだからだ。漢字で「蘭」と書けば中国人としても通用するし、ベトナム人としても通用する。日本でもちょっと古いが私がまだ高校のころアイドル・グループでキャンディーズという女の子の3人組みのグループがあって結構人気があった。そのメンバーに蘭ちゃんというのがいたのを覚えている。あの頃ぐらいから「蘭」という名前も日本人の中ではポピュラーになってきたようである。私は娘たちが、自分のルーツを忘れて欲しくはない。

日本に行っても、自分が四分の一は中国とベトナムの血が流れていることを誇りに思って欲しいと思う。おそらく桜ちゃん、蘭ちゃんのお母さんが日本に行っても、日本人に100%なれるとは思わない。彼女たちが大きくなって自分たちのお母さんが日本語が上手にしゃべれなくて、恥ずかしく思わないように、自分は日本人であってそしてベトナム人・中国人であることを忘れないで欲しい。そして自分たちのルーツを知ってもらうために、彼女たちを横浜にある中国人学校にいれて、中国語を勉強させたい。中国人なのに中国語ができないなんて恥ずかしいと思うし。淑珍は半分ベトナム人なのにベトナム語を母親から習えなかった。これは可哀相なことである。

日本人が英語が上手になりたいと、子供をアメリカン・スクールにいれるなんておかしい。日本人に生まれたなら日本人の学校に入れるのが当たり前である。でも中国人の血が流れている子供にはやはり中国語の教育をうけさせてあげたい。

1998年1月1日 ビエンチャンにて

注：（98年2月9日、ビエンチャンで次女の蘭も無事に誕生し

た。)

その後義理の母は慢性の糖尿病の症状が悪化して、ラオスの病院に入院している、御見舞いに行くとベットのなかで唸りながら、口にてでるのがベトナム語である。しかしベトナム語は女房の兄弟誰一人としてわからない。義理の父はベトナム語はできる。しかし普段はで夫婦でしゃべるのは客家語である。喧嘩して子供に聞かせたくない話の時にベトナム語をしゃべるとのこと。おそらく義理の母の母国語はベトナム語なのであろう。私も死ぬ時ベットのなかで苦しみながら口にてでくる言葉は、日本語であろう。その時に桜ちゃんと、蘭ちゃんの2人の娘に日本語をわかってほしい。同じく妻の母国語は、ラオス語であろう。しかし彼女は中国人としてのプライドもあるし、中国語といっても北京語ではなくて、客家語が生活の言葉であるから、話はややこしい。しかしラオス語、日本語、ベトナム語、中国語、客家語であろうが、私の娘たちの血筋の言葉は決して英語でないことは確かである。

現在、毎日義理の母のお見舞いで病院に行っている。その時にできるだけ桜ちゃんを連れて行くようにしている。まだ3歳の子供だが、はたして大きくなった時に、ベトナム人のおばあちゃんのお見舞いに病院に行ったこと、記憶に残っているだろうか、恐らく忘れてしまうだろうが、どこか心の底に残っていて欲しい。

(51) お国自慢

vɛ8txn, N0kp7ec]dwdj アタプー・ム・カイ・カム・レク・カイ)  
lk]t; əwɪhkp-kC]ddt [vC

(サラワン・キー・ハイ・カイ・サン・レク・カブン)

vɛ8txn 「アタプー」 xNこれはxB.9 のことで「嬉しい・  
喜ばしい」の意味である。 0kp 「売る」 7e 「金」

c]d 「 と交換する」 wdj 「ニワトリ」

lk]t; ə 「サラワン」 əwɪh 「何もない」 -kC 「象」

dt[vC 「松明」

これはモーラムのセリフで、ラオスのお国自慢である。

サラワンは昔、野生の動物がいっぱい住んでいた。特に象は多かった。この土地に象使いで有名な男、クワン・サンといものがいた。彼は象を100頭所有していた。アタプーのハート・キー・クワイという村にクワンの親友が住んでいた。この人はクワンカムタン

という名前である。ここは金が沢山とれるところで有名である。ある日クワン・サンは友達のいるアタプーに象10頭を連れて10日ばかりで遊びに行った。そこで夕方から夜、酒を飲み食事をする。友達は牛を殺して料理してあげようと思ったが、夜になると牛が料理できないので、そのかわり金10バーツと交換にニワトリと家鴨をもらってきて焼いて食べる事にした。「ここら辺りは、金がいっぱい採れるので、食べるものには何も不自由しないんだ」翌日、セーコン河の岸に連れて行ってあげるから。河で女性が篩を使って金を探しているのを見せてあげるよ。

次の年、今度はアタプーのクワン・タンがサラワンに遊びに行きました。今度は友人がごちそうして歓迎してくれたのですが、夜になって暗くなって食事ができなくなったので、象と交換に松明をもらってその明かりで食事をしました。

これは要するに、お国自慢でアタプーは金、サラワンは象が沢山いるという古い昔話で、モーラムのなかでも歌われている。

**vɛ8kxɯN**の **xN**は要するに前の **vɛ8txɯ**の **xɯ**と韻を踏んでいる。

**l k | t ; ə 0 ʋ | h**の **0 ʋ | h**は「何もない、貧しい」という意味だが、本当は象が沢山いて貧しくないのだが、わざと反対のことを言っているのである。

実際、サラワンはベトナム戦争の時に、ホーチミン・ルートが通っていたのでアメリカの空爆で町は破壊されて、現在ある町は1975年以降に建てられたものである。

補足

アタプーのお国自慢で以下が続く

**sqspvC] ʔ, ʃoE 7e7kCgɯ] toko**

(ア・ニョー・ン・ムット・ナム、カム・カン・トウア・ラ・ナン)

**Sq**「頭」 **spvC**「縮れた髪をとかしていない」

, ʃoE 「水に潜る」      7e 「金」      7kC 「ひっかかる」  
gnj 「回」      ]t 「 について」      oko 「庭」

### ( 5 2 ) 笑い話北と南

ルアン・パバン、サムヌア出身の人達とパクセ出身の人達が友達の家遊びに行きました。北の人達は2階で南の人達は1階で楽しく食事をしてお酒を飲んでいました。2階のおばちゃんが噛んでいた噛みタバコを下に捨てたところ、一階にいたパクセの人に当たってしまいました。パクセの人は怒って二階の人に「誰だ！」と怒って怒鳴ると、二階のほうから「vɪb(イフー)」と言うので vɪbɔlL 「イフーは何処だ」と怒ってパクセの人が二階に上がってきたとか。

解説

vɪb というのは、北の方言であり、ビエンチャンの [ɪb] にあたる。この答えを聞いたパクセの人が女の人の名前だと勘違いして、怒って二階に上がって来たということである。この vU という接頭語は女の人の名前の前につける言葉だが、あまり品のいい言葉ではないので気をつけよう。パクセの人は「フー」という名前の女性が、ゴミを捨てたと思って、二階に上がって来たのである。「イー」は [ɛ] 当たる言葉だが北の田舎の方言であるようだ。

### ( 5 3 ) ハロ-・ハロ- |ɸ lɪC lk,

これは日本語で言えば「只今マイクの試験中、本日は晴天なり」にあたる。結婚式の司会者やお祭りの司会者がよくマイクのテストの時にしゃべっているのがこのセリフである。

私の観察だとラオスのお祭りの司会者はどおいうわけか下手なジョークを言って照れ隠しに自分で笑うパターンが多いようである。それと協力隊の配属先のパーティーでも、上司やダイレクターが一生懸命に演説しているのに、後ろの人は真面目に聞いていなくて先に酒を飲んで酔払っているのもいる。日本人のように静粛に聞いているという感じではない。

#### (54) ラオス語とタイ語

ラオス語のなかにタイ語がはいってきている例として、色々あるので紹介してみよう。

**w]ptg ]k**(ワ・ウエー)と本来ラオス語で言わないといけないのに **-j Cg ]k**(アツ・ウエー)と言ってしまうラオス人が増えている。これは「期間・間」という意味である。本来のタイ語は、(フアツ・ウエー)と発音するのだが、タイ語の「チャー」の発音がラオス語では「ソー」になる。したがってタイ語の発音が訛って「アツ」になってしまうのである。

**3m]trk[**と本来ラオス語で言うべきところをタイ語の影響で **3m]tmɛ**とと言うラオス人が増えている。まあ実際はどちらでも通用するのだが本来のラオス語では **3m]trk[**となる。

したがって「**3m]trk[** IBCラオ」というのが本来の名称であるので。

**ltcfC**(サデ・ツ), ; **kCl tcfC**(ワツ・サデ・ツ)と本来言うべきところを、これはタイ語ではなく英語の影響で **3-**とと言う。これは英語の Show から来ている言葉である。

**g]no**(アツ)

**g]no** はラオス語では「家」という意味である。しかしこのごろラオス語で「家」という意味で **[ko**(バ・ツ)を使う人が多くなっている。タイ語で **[ko** は「家」だが、ラオス語では「村」になる。

ラオス語で **g]no** は「家」の意味である。ラオス語で **[ko** は「村」である。しかしタイ語で **[ko** は「家」であり、

**S, ʃko**(ム・バ・ツ)が「村」の意味になる。

これはビエンチャン・マイという新聞に載っていた記事の翻訳であり、小生がそのまま翻訳してここに紹介した。この記事の筆者はラ

オス語の乱れという内容でこの記事を書いているのだが、はたしてこの内容が正しいか、あるラオス人に言わせると「どっちでも同じ」という人もいる。

しかしタイ語の **gno** と **[ko]** のこの2つの単語の詳しい違いについては、富田竹次郎先生のタイ日辞典を見てもらったほうがいいだろう。

注意（私のコンピューターはタイ語の活字が打てないので、ラオス語でプリントした）それとタイ語とラオス語の「N」と「M」のスペルはよく似ているので混乱しやすい。書く時、注意しないとけない。

**Is, kddHC** (シー・マークアソ)

これは「ミカン色・オレンジ色」という意味で、本来のラオス語であるが、タイ語の影響を受けて **lhQ** (シー・ソム) という人が増えてきた。

**oElQ** (ナム・ソム) とラオス語で言えば「お酢」になる。ラオス語で

**lQ** (ソム) と言えば「酸っぱい」という形容詞である。しかし

タイ語で **oElQ** (ナム・ソム) と言えば「オレンジ・ジュース」になる。

ラオス語で「オレンジ・ジュース」は **oEs, kddHC** (ナム・マークアソ) となるので、いささかややこしい。

ちなみにタイ語で「酸っぱい」という形容詞は **gip;** (プリアオ) と発音するが例によって、バンコクでも下町の人や東北の人は「I」の音が抜けて (ピオ) というよう聞こえる。

**I6gCh** (フブ・ガオ)

**I6gCh** と本来ラオス語で言うべきところを、タイ語の影響で

**so6** (サ) といってしまうラオス人がいる。このごろみんなビデオばかり借りて見るので映画館がつぶれて、いまビエンチャンでやっている劇場というと **[qlts; a]** (プア・サソ) 「チャオ・アヌ通り」そして

て **3vfPo** (オデ・アソ) 「タート・レンタ市」の2つしかない。このうちのオデ・アソ劇場のほうは、中国・日本などの外国からの文化交流

の出し物がある時は、この劇場がよく使われる。

ところで、映画館で思い出したが、昔協力隊時代に出張でパクセに行った時に、タイのFMを聞いていた。対岸のウボンの放送局だったと思う。その時ディスク・ジョッキーが、視聴者に「世界の中で映画館のない国は、どこでしょう？」という問題をだして視聴者が電話をかけてきてその問題に答えるという内容だった。

カウンター・パートと一緒に聞いていて、私は恐らく「映画館もない国だったら貧しい国ではないか」と思った。東北タイのFMウドンの若いリスナーも私と同じように思ったのだろうか、つぎつぎに電話で「エチオピア」とか「タンザニア」とか「ベトナム」とか貧困であろうと思う国々を挙げてきた。「ラオス」と答えた視聴者が3人位いたので、私はカウンター・パートに「ほらみろ、東北タイの若い子も、ラオスなんて貧乏で映画館なんてないと馬鹿にしているんだぞ」と言った。彼はそれに反論して「明雄、違う。電話をかけてきているのは皆子供だろう、彼らは何も知らないからあんなことを言うのだ。大人はちゃんとラオスにも映画館があることを知っているから、あんなことは言わない。」

明雄「いや違う、子供は大人の鏡だ。大人がいつも思っている事を子供たちも自然と身につけるのだ。大人がラオスを馬鹿にしているから、子供もラオスを馬鹿にしてあんな電話をかけてくるのだ」さらに続けて「東北タイはラオスと同じだとラオス人がいっても、彼らはラオスを馬鹿にしているのではないか」

わたしも、当時、出張にでていてトラブル続きで疲れていて、カウンター・パートにきつい言い方をしてしまいました。これ以上言い合うと一戦始まってしまうところでした。

答えは、「サウジアラビア」でありました。これは宗教上の理由のようでした。しかし番組のディスク・ジョッキーに電話をかけてくる子供達の全員がみんなラオス語ではなくタイ語をしゃべっていたので、やはり東北タイはラオスではなくてタイなのだと感じたしだいです。ラオス人は東北タイを今でも、ラオスだと思っ  
ていますが東北タイの人達は、自分たちのことを国籍はタイと  
思っていることは間違いのないと思います。要するに **g-Ml kp** (種族) は「ラオス人」  
だけ **lə-kf** (国籍) は「タイ人」と思っ  
ているのではない  
でしょうか。そしてタイには王様がいて、王様が国をまとめる求心

的な働きをしています。それによって東北タイの人達のタイ人としての忠誠心は以前より深くなっていると思います。そこらへんでラオス人の東北タイへの片思いのような感じが私にはするのですが。これはラオス人にとってきつい言い方でしょうか。

**[jooovo]** (ホソ・ノソ)

**[jooovo]** は「寝る所・場所」である。これをこのごろ

**njivo** (ティ・ノソ) という人が増えてきたという。 **[jo]** はラオス語

で「場所」を表わす。これがタイ語では **nj** (ティ) になる。したが

ってタイ語なら場所を訊ねる時も **njiso**? (ティ・ナイ) となるが、

ラオス語では **[jo.f]**? (ホソ・ダイ)

**[jog f; Pd]** (ホソ・ヘッド・ビアク) **[jog fdko]** (ホソ・ヘッド・カ

ソ) というラオス語が、タイ語では **njecko** (ティ・ナム・ガソ)

となる。

以上、「日本語の乱れ」ということが日本でもよくいわれているがここではラオスの「ビエンチャン・マイ」という日刊紙に載っていた記事を日本語に訳してみた。これについてラオス人に彼らの意見を聞いてみたら「ここまでうるさく言わなくてもいいのではないか」

という声も聞かれた。ただここ最近、ラオス語がどんどんタイ語の影響を受けているのは確かである。

(55) **Okpf** (カ・イ・ティ・ホー?)

これは、日本語で「儲かってますか?」という感じである。

商売をしている人の挨拶である。普通は「ままです」という意味で

**rOkpwlh** (ホー・カ・イ・ダイ・ユー) と答えるのがいわゆる挨拶である。

。「まあま売れています」「ぼちぼちですわ」

しかし冗談で仲のいい人同士ならこのように言ってもいいだろう。

**Okp[ wfhk. z]** (コイ・ホー・ダイ・ダー・パイ) これは直訳する

と「私は誰も罵っていないから」という意味である。要するに、「私は誰も叱っていません喧嘩もしていません、機嫌良くニコニコして

いるのでお客さんが寄ってきて品物がよく売れます」ということである。しかしこういう言い方は目上の人には言うてはいけない表現である。家族の仲のいい間なら言うてもいいけれど、偉い人には言うてはいけない。fk「罵る」 .Z「誰」 Okp「売れる」  
fuよく」 r=十分」

(56) xyp7k]q (ホイ・カ-ム)

これは男が女をナンパして口説く時に言う、適当なことを言うて女をその気にさせる。しかし誠実ではない。

7es; koc8] 9C. 9 (カム・ワ-ン・テ-・ホ-・フン・チャイ)

「甘い言葉、しかし誠実ではない」

従って若い女性は、この言葉には注意しよう。騙されてはいけない。

たとえば、ohCck, skpo (そきれいだな)

vkp, dohCgfu (好きだよ、愛してる)などと女の子に甘い言葉をかけてその気にさせるのがこれである。

(57) gcy0; anvo (グン・クアン・ト-ン)

これは、結婚式などの御祝儀のお札などを記念にとっておいて、財布などに入れておいてお守りみたいな感じでいれておく。縁起がいいのでお金がたまるという。

(58) [+u6/vp s, k[θU

(ホ-・ミ-ム-ン・フォーイ、マ-・ホ-・キ-)

「火のないところに、煙は立たない」「屑がないところに、要するに汚いところでないと、犬はウンコをしない」またもラオスの諺らしくまた犬が悪い意味として登場してきました。

, 6/vp「屑」 s, k「犬」 θU「ウンコ」

さて冗談で面白い諺を一つ紹介しよう。ラオスにいる日本人で少しラオス語を知っている人ならわかる「ヒーのない所にチンポはたたない」これはご存知のように「火のない所に煙は立たない」という日本の諺とラオス語の女性のオマンコの「ヒー」と「火」のシャレになっていて見事に笑わせてくれる。

(59) [+Gko] 8C. f [g]d]k

(ボ-・ミ-・ガ-ン・リアン・ダイ　ボ-・ル-クラー)

**Cko]RC**「パーティー、お祭り」　**.f**「どんな」

**g]d]k**「サヨナラする、終わる」

「終わりのないパーティーはない」つまりどんな楽しいパーティーでも終わりの時間がある。どんな楽しいことでもいつかは終わりがくるのである。はかなさを説明したものである。しかしこの言い方は中国語の言い方で、普通のラオス人はいきなりいわれても良く分からないようだ。

(60) **]k[2ko, kovjo** (ラープ・ファ-ン、マ-ン・オン)

**]k[**「ラオス料理のラープ」これを「ラップ」と発音してはいけない。

**2ko**「鹿」　**, kovjo**「妊娠初期の女性」

これは上手いもので、「鹿のラープ」は食べると美味しい。妊娠初期の女も賞味すると、要するにオマンコすると美味しい。2つともおいしいのである。

(61) **[koovd g nC-ko -qot [q]**

(バ-ン・ノク) (ムア-ン・サン) (ソナボット)

まずこの「田舎」を意味する(バ-ン・ノク)はラオス語ではあまりいい意味ではない。「ど田舎」「田舎者」といった感じで軽蔑的な意味になる。日本語の「田舎」は「故郷」の意味にもなるし例えば、出身を訊ねるのに「あなたの田舎はどちらですか？」と質問しても、別に失礼ではないがしかしラオス語で、

**[koovdg]L**と聞くと失礼になるし意味をなさない。

ラオス語のバ-ン・ノクはとんでもない田舎で、電気も水道もないようなところである。考えればビエンチャンから50kmも離ればラオスはこのような世界なのである。そういったラオス人が日本のことがわからなくて、たとえば、私が、日本の首都東京から100km離れた所にすんでいると彼に言ったとしよう。彼はきっと誤解して電気も水道もないひどい所に住んでいるのだと誤解するだろう。

しかし現在の日本はどこに行っても電気も水道もあるし、TVも車もある。これをラオス語のバ-ン・ノクとはいわないだろう。この

ような田舎のことをラオス語で上品に言う時(ツホット)という単語を使う。これは政府の農村開発などで(ツホット)を開発するとうように使う。(ムン・サン)は「郊外」といった感じである。日本人は最初にラオス語を覚えた時「田舎」という意味ですぐに(パン・ノク)という単語を使いたがる、とラオス人が言っていた。(ツホット)も一緒に覚えておいて使い分けるようしないといけな  
いだろう。

(62) **spɸpkdxkogθd0kp]; f**

(ニソ・ニャク・パソ・チェク・カイ・ルアット)

中国人が針金の束を売るように、煩わしくて面倒くさい。例えば針金は普通は束になって丸めて売っています。これを小売りで買う場合は、メートル単位で長さを測って売るのが面倒です。針金の束がばらけてちゃんと長さが測れません。このように煩わしい、面倒くさいことをこのようにいいます。

**spɸpkd** 「煩わしい・面倒」      **xko** 「 みたい」

**θd** 「中国人」但し、この言い方は少し蔑称であるが、ベトナム人を **cd;** (ケオ)と呼ぶほどひどくはない言い方である。この **cd;** という言い方は、ひどい馬鹿にした言い方なのでベトナム人には言っ  
てはいけない。喧嘩になってしまう。あるフランス人がラオスに遊  
びに来て、片言のベトナム語で **θdɸxə7qcd; [L** とベトナム系  
ラオス人に話していた。この人はこの(ケオ)という意味を知らな  
かったのであるが、横で聞いていて心配になった。

**0kp** 「売る」      **]; f** 「針金」

(63) **glɸfwɸhu glɸ-jwɸhɸj**

(ハット・デー・ダイ・デー、ハット・ア・ダイ・ア)

**glɸfw** 「いい行いをする」      **wɸhu** 「いいことを得る」

**glɸ-j** 「悪い事をする」      **wɸhɸj** 「悪い事が起こる」

要するに「因果応報」である。いい事をすれば、必ずいい事が返ってくる。悪い事をすれば必ず悪い事がおきるのである。これは、

あくまでも表向きの諺であり、何事もその裏がある。

以下に説明するのはこの続きである。

**gl fuf huf l** (ハット・デー・ダイ・デー・ユー・サイ?)

「いい事をして、その見返りにいい事があるなんてこの世の中にあるの？」

**gl f- jw f hu** (ハット・ア・ダイ・デー)

**, d q v x , s k p ?** (ミー・トム・パイ)

悪い事をして、儲けているやつなんていっぱいいるのに。ということで、ラオスも日本もどちらも馬鹿正直ではやっていけないようです。

#### (64) ラオス語とタイ語

及び「ビエンチャン・マイ」の記事より抜粋してみる。

ラオス語とタイ語は確かに似ている、しかし同じ単語だが違った意味になる場合もあるので注意すること。

**s l ; ,** (ラム) これはタイ語で「服やズボンが大きすぎてブカブカなことを言うのだが、ラオス語は **s q** (ム) を使う。(東北タイも同じである。)

**l q g N - f o s q 3 r f** (ツ・ア・スト・ニー・ム・ポート) 「このズボンは大きすぎてブカブカだ。」というように使う。私も最初にタイ語を勉強していたので、この単語はずっとタイ語を使っていた。

**l ; ,** (ラム)

この単語もタイ語であり、中空の物、または環状の物をそれよりやや小さな物にすぽっとはめる。意味として「着る、履く、被る、かける」という意味になる。

**l ; , g B z k** 「洋服を着る」 **l ; , c s ; o** 「指輪をはめる」という使い方である。しかしラオス語では

**s j g B** (ム・ア) 「服を着る」 **o f g N** (ヌ・ア) 「服を着る」

**. l j s ; o** (サイ・ウーツ) 「指輪をはめる」

このコラムにはこの他色々ラオス語のなかにタイ語がはいつてきて本来のラオス語がだんだん変化していることを色々例を挙げ

て心配している。

ラオスは昔はフランスの植民地だったので、ラオス語のなかにフランス語もはいつている。例えばガソリンが(エツァ)、ディーゼルが(加アツ)という。バトミントンなどのネットを(フィル-)というし、運転免許書を(パクミ-)、血圧を(タソ)、コンクリートを(バートソ)それからリンゴを(マク・ポム)というのもフランス語である。

車の燃料を入れる時に、この(カスアン)という単語を間違えて(エッサン)と言ってしまい、あやうく間違えてディーゼルを入れなければいけないところを、ガソリンをいれそうになった経験があるので注意してください。

フランス語は漢字で書くと「仏語」になるけれど、私はフランス語ができますというというとお寺にはいつていてお経ができるのとは違う。スペイン語も「西語」であるが、これも、関西弁がしゃべれるのとは違う。

医療関係の用語はまだフランス語が使われているようである。医療関係の協力隊員などはこのへんよく知っているかもしれません。他にもラオス語のなかで、「彼が振られたのも、彼女のスペックに合わなかった」など英語の Specification (規格・基準) から「好み」といった意味で使われるようになった。

(65) **ltsɔŋɡa** (カッポ・パット)

**ltsɔŋ**「気絶する、ビックリして倒れる」 **ɡa**「家鴨」。

本当は(カッポ)だけで意味が通じるのであるが、首の長い家鴨がビックリして倒れるのが本当にビックリしている感じをあらわしているので **ɡa** を最後に付足している。**ɡa** は言葉の遊びで最後にくっ付けた言葉と考えていいのではないか。このような言い方はラオス語にはよくある。これと似たので(カッポ・パット)ではなくて

(スリッポ・パット)という冗談を聞いたことがある。(スリッポ)は、「女性の下着」である。これが家鴨の(カッポ)と音が似ているので  
シャレのつもりでいつてるのだろう。

(66) **Okpsok Okpso;f** (カイ・ナー、カイ・ヌアット)

**Okp**「売る」      **sok**「顔」      **Okpsok**「恥じおかく」

**so;f**「髭」これは「恥じをかく」という意味であるが、次の「髭を売る」と直訳できる文は、最初の文のあくまでも付足しである。これも(65)と同じ感じである。

(67) **dkpshk**      **dkp8u**

(カ-イ・ナ-、カ-イ・ター・ドゥ-)

**dkp**「通り過ぎる」      **sok**「顔」      **8k**「目」

**Okpsok**「恥をかく」

これは人の前を通る時に言う「ちょっと前を失礼」という感じである。(カ-イ)は「通り過ぎる」という意味なので、人がいる前を失礼して横切る時にこのように言うのがラオスのエチケットである。またこの時に、女性なら身を縮めて背を低くして横切るのが礼儀である。また横に人が座っていて、その横をサンダル・靴などを持って横切る時は、その持ったサンダルの位置を、その座っている人の頭より下にして通り過ぎるのがラオスの礼儀である。この発音とよく似ている。どちらも上昇音である。しかし前の項で紹介した(カ-イ・ナ-)であるがこの「恥をかく」という(カ-イ・ナ-)は有気音であり

この項の **dkpshk** は無気音なのでラオス人の耳にはまったく別の発音になるので気をつける事。日本人にはこの違いがわからないだろう。

(68) **xɔm**(ピン・ピン)

これは例えば男のひとが女の人を見て、いわゆる一目惚れした時にこの単語を使う。「興味を持つ、関心をもつ」という意味だがこの場合はスラングで「一目見て、好きになって恋に落ちてしまった」という意味である。昔日本のテレビの番組で「パンチでデート」というのがあったが司会の西川きよしさんが「一目会ったその日から、恋の花さくこともある」というセリフで始まるこの番組であるが、この(ピン・ピン)がまさにそうである。結婚した2人にどこで知り合ったか聞くのに、この単語を使う。しかしこの音は、日本語でオチ

ンチンが勃起すると、ピンピンするという擬態語を使うので、気持ち  
ちはわかる。私もこの単語を最初に聞いた時、すぐに意味が掴めた。  
覚えやすい単語である。

(69) **vq0c0h** (私・キ・材)

**vq**「口にふくむ、くわえる」 **0U**「糞」 **c0h**「歯」

要するに「何もすることがなく、椅子に座ったまま歯糞を舐めてい  
る」といった状態をさす。ラオスの役所で何もする仕事がなく、  
ダラダラと時間をつぶしている人などはまさにこの状態である。

または好きな女の子になかなかアタックできない状態の男に対し  
てもこのように言う。

(70) **glax6lfQ** (ケップ・プー・サイ・ドソ)

**glx**「集める」 **x6**「カニ」 **.lj**「入れる」

**fQ** は **dtfQ** のことで「竹で編んだ平らなザルみたいなもので女  
の人がこれを使って、御米をより分ける」

(カドソ)は平べったいので、カニをこれに入れてもカニが暴れて収  
拾がつかなくなる。これと同じ例で、例えば皆でピクニックに行く  
とする。集合は10時なのに10分前になってもまだ全員が集まらな  
い。そのうち遅れてやって来る人がいるかと思うと、先に来た人が  
どこかに行ってしまっていて戻って来ない。このように皆でバラバ  
ラでまとまりがないことを言う。

(71) 謎謎

**vəpk; 7kdkf** (アソ・ニヤオ・カー・カード)

**7kf]kf** (カードラド) **g0QI6o6** (材・フー・ナソ)

**n6xn6, k** (タソ・パイ・タソ・マー)

**oE0k; M8dvvd, jsp6** (ナム・材・テク・オーグ・メンヤソ?)

**və**「一個、個数を表わす類別詞」 **pk;**「長い」 **7k**「値」

**dkf** 「親指と中指を広げて長さを測る時の幅で、昔はメジャーなどがなかった時に体の一部を用いて長さを表わした。だいたい10 15センチ位になる」

**7kf]kf** 「パット飛び出す、激しく動く動作を表わす」

**g00** 「入る」 **I6** 「あな」 **so6** 「毛」

**n6 n6** 「したりーしたり」

**n6xn6, k** 「行ったり、来たり」 **oE0k;** 「白い水」

**c&d** 「壊れる」 **vvd** 「出る」

これはエッチな謎謎で「10センチ位の長さで、毛のあなに入って行ったり来たりして白い水が飛び散るものはなんでしょう」という質問である。これはオマンコしているのではなくて、実は歯ブラシで歯を磨いているのである。

(72) **wlj Idphog0s, jrPo**

(ハイ・ボ - ホック・ニョソ・チャオ・マンピアン)

**wlj** 「畑」 **Id** 「草、雑草がおい繁る、ゴミがちらかっている」

**s, jrPo** 「真面目に、コツコツと」

「畑に雑草がおい繁っていないのは、あなたが真面目に草刈りをしているからです」という意味だがこれでは面白くない。本来なら「面白くて為になるラオス語」には載せないのだが **Id** (ホック) という単語にまつわる面白い話があるので紹介しておく。

ある日本人の女の子(アテンドしたラオス人にいわせるとかなり美人なのだそうが)がラオスに来て、ラオスの青年が凱旋門やタットルアンのお寺に観光に連れて行った。彼女がラオスにいる間に、このラオス青年はすっかり日本の女の子に恋をしてしまい、彼女が帰国後、ラブレターを書く事にした。彼は英語も日本語も書けないので、筆者のところに代筆を依頼してきた。ラオス語の原稿をもらってこれを私が日本語に訳したのだが、

当然 **OhpIdg00** (コイ・ハック・チャオ) 「愛している」と書かないと

いけないところが **OhpIdg9Q** (コイ・ホック・チャオ) とスペル・ミスした。配属先の同僚に見せると皆で大笑いした。要するにラオス語のマイソ「**Vq**」とマイカ「**Va**」の間違いである。タイ語には「マイソ」がないのでこれはラオス語だけである。

恋文を書くのにスペルを間違えては値打ちがないし教養を疑われてしまう。

日本映画「青い山脈」で恋文に「恋しい、恋しい」と書く所を「変しい、変しい」と書いて爆笑を買った有名な話があるがこれも同じである。

(73) **S, gfok s, kdvg9Q**

(ヌー・ハット・ナ、マ・キソ・カ)

**S, 6**「豚」 **gf**「する」 **ok**「田んぼ」 **S, k**「犬」

**dy**「食べる」 **g9Q**「ご飯」

「豚が田んぼを耕して、犬が御米を食べる」

これは昔、犬と豚が人間の下で仕事をしていた時の話である。豚は鼻の先に鋤をつけて一生懸命に働いた。けれども犬は手伝わないで怠けていた。犬が働いたのは稲が実って、取り入れの前に鼠を追い払う番をしただけである。その時、足跡が残っていた。人間が収穫の時にやって来た。犬は人間に嘘をついた。「働いたのは私だけです。」可哀想に豚の働いた跡はは何も残っていなかった。

人間はそれを聞いて豚を怒り、豚に御米を食べさせないで、怠けて仕事を全然しなかった犬だけに米をやった。要するに、犬は豚を搾取して得をしたわけである。

(74) **pfdt8kp zyooEsoeh wdt-;C**

(ソ・カタイ) (ホソ・ナム・ナック) (パイ・カソ)

**pf**「撃つ」 **dt8kp**「ウサギ」 **zyo**「減らす」

**oEsoeh**「体重」 **w**「行く」 **dt-;C**「省」この場合大事な場所の意味。

日本語で山登り・ピクニック等に行って、ちょっとウンコやおシッコに行くのに男性なら「雉撃ちに行く」といい、女性なら「御花畑に行く」という隠語を使うわけである。

実際うら若き乙女が直截的に「オシッコに行くから」などとデートの時に彼氏に言うと、せっかくの甘いデートのムードも台無しである。そんな女性は彼氏にふられてしまうのがおちである。ラオス語でもこのような言い方があるので覚えておくことである。

最初の言い方は直訳すると「ウサギを撃ちに行く」ということでこれは日本語の「雉撃ち」と同じ考えである。二番目は「体重を減らす」ということで、ウンコなりションベンをすれば確実にその分が体重がへる。ちなみにオマンコをしても、男性は確実に精子の分だけ、約3ccほど体重が減るのだが、この場合はいわない。3番目は、「省に行く」ということでこの場合は「大切なところに行く」という意味である。

(75) **gæŋ pɔhpɔl f4fdj kxæŋ pɔfɔvC7q9q**

(パン・ミア・ノイ・セーデー・ディー・クラー・パン・ミア・ティー・ディー・コン・チョン)

「貧乏人の正妻になるのなら、金持ちの2号になったほうがいい。」

**gæŋ** 「になる」      **g pɔhp** 「御妻さん、二号さん」  
**gl f4u** 「御金持ち」      **fdj k** 「よりいい」 **7q9q** 「貧乏人」  
 これはいまさら説明しなくてもいいことだと思います。

(76)

**wlɕk, pho0q** (カイ・ガム・ニョソ・コン)

**7qɕk, phoc8ɕ** (コン・ガム・ニョソ・テン)

**7qxkdc; ɕc8ɕwɕɕk,**

(コン・パーク・ウソ・テン・ダイ・コ・ボム・ガム)

**wlɕ** 「ニワトリ」      **ɕk,** 「きれい」      **pho** 「のため」

**0q** 「毛」      **7q** 「人」      **c8ɕ** 「着飾る」      **xkdc; ɕ** 「三口、口が3つに裂けている」

「ニワトリは羽毛故に(自然のまま)美しいが、人は着飾る故に美しい」ということで馬子にも衣装。ここまでは辞書にも載っていない

る。つぎの「3つ口は、いくら着飾っても綺麗になれない」と続く。

(77) **pk, gəlk; gŋgŋk; xkovjvd**

(ニャム・ペン・サオ・ヌア・チャオ・カオ・パーン・ガイ・ポーク)

**pk** 「時、時代」 **gəlk** 「結婚してない時、娘時代」

**gŋ** 「肌」 **ŋk** 「白い」 **xko** 「みたい」

**vj** 「卵」この場合は「茹で卵」 **xvd** 「むく」

「独身のころ御前の肌は茹で卵をむいたように、白くて艶艶していた」これはこの後にもっとエッチな言葉が続くのですが、残念なことに忘れてしまいました。(ガイ・ポーク)は茹で卵をむくと、卵の表面は白くてつるつるしている、そのようなきれいな肌をいう。

ラオス語の比喩の仕方なので覚えておいて、女の子に言ってみよう日本でいうと「博多人形のようにきれいな肌」であり、「鮫肌」の反対である。

(78) 食べる

動詞の「食べる」は色々な言い方がある。

**dy** (ヂ) はこれは最も普通の言い方で「食べる」である。

**lɛxtmko** (ハップ・パター) は「いただく」という感じである。

**cfɔ** (デーク) **lɛtɕd** (サーク) は2つとも「食う」という意味

で非常に下品なので注意すること。 **pfvɟ** (ニャット・ウア) =

**dy.shj** 「腹の中に詰め込む」という感じになる。

私の恥じをかいた話である。ラオスの研修員が JICA の研修で日本に来て電話業務管理のコースだった。コーヒー・ブレイクの時間にしようとして講師の先生が言ったので、BREAK 「割る・こわす」

はラオス語で **cɕd** なので、冗談で **cɕddtɟɟu** と言ったらラオス人がビックリした。そんな言い方はするなといわれた。要するに

**lɛtɕd** カフェーに聞こえたわけである。これは非常に下品な言い方なので、「冗談でもそんな言い方をしてはいけない。」と注意さ

れた。l<sup>tc</sup>8d は「ステーキ」の発音に似ているのでこれも注意しないといけない。それから御坊さんがご飯を食べるのは(カム)であり(カ)ではない。

カンボジア語でも、ご飯を食べるは(ニャン・バ<sup>ー</sup>-イ)(ホック・バ<sup>ー</sup>-イ)(シ<sup>ー</sup>・バ<sup>ー</sup>-イ)と色々な言い方がある。(バ<sup>ー</sup>-イ)が「ご飯」に当たる言葉であり、(ニャン・バ<sup>ー</sup>-イ)が普通の言い方で、(シ<sup>ー</sup>・バ<sup>ー</sup>-イ)が下品な言い方である。

(79) 7t]e (カム)

7t]evksko (カム・アム) のところでもこの単語を説明したが、

この(カム)だけだと [xø8k]fa (ホ<sup>ー</sup>・ペンター・ハット)「しない方がいい・目障りな行為」という意味になる。これはラオスでも御祖父さん、御祖母さんの世代がよく言う小言である。例えば

feok (カム・ナ<sup>ー</sup>)「田植え」の時に畦道に腰をかけて座るなとよく言う。これは田植えの時は田んぼに水をはっているので、蟻が畦の方に逃げて来る。そんな所にどっしりと座っているとお尻を噛まれるし、田植えの時には怠けないで一生懸命に働くべきである。また荷物などを紐で縛る時に、足で荷物を踏みしめて紐を引っ張るような縛り方はしないことである。このようにすると、もし紐が切れた時に誤って自分の顔を、自分の手で叩く事になる。これも(カム)である。

またスープなどを飲む時も、御椀を持ち上げて飲むのは

dypd4hp (カ<sup>ン</sup>・ニョク・トウアイ) はやはり(カム)だとされている。

これもラオス人に聞くと、スープがまだ沢山残っている時は、このように御椀を持ち上げて飲んでもいいが、少ししか残ってなくて残り汁をぐいっとドンブリを持ち上げて飲むのははしたない行為だとされている。

またラオス人の食事スタイルを見ていると、スープなどはスプーンですくって飲んでいる。したがって(カ<sup>ン</sup>・ニョク・トウアイ)は止めたほうがいいだろう。また華南の中国人はラオス人と同じである。しかし北京から来た人は日本人と同じようにラーメンの汁もドンブリを持ち上げて飲んでいるので、中国人でもどこから来たかわかる。

(80) w xkd g P l y w 8a 8d d d w h

(ワイ・パーク・シア・シ) (ワイ・ティン・トゥク・コック・マイ)

w 「速い」 xkd 「喋る・口」 g P 「失う」

l y 「道德・道義」 8a 「足」 8d 「落ちる」 d d w h 木

「しゃべり過ぎると道德を失う、木登りであわてて登ると、足を踏み外してしまう」注意してみると l y と 8a が発音が似ていて「イン」の発音になっている。所謂、韻が踏まれているのである。2節目はごく当たり前のことを言っているのだが、これは韻を踏んで調子をとるために付け加えたのだろう。よく知りもしない事をしゃべり過ぎて信用を失ってはいけない。

(81)

7 a g a g 9 a g a w 0 h (カン・パン・チップ・パン・カイ)

I k d 1 k f u d p 6 l ; j k (ハーク・ヤー・ディー・ケー・ニャン・サツ)

g 9 a f h p 7 ; k , x k d v k p (チップ・ドゥアイ・クワム・パーク・アイ)

c l o - y d h 0 [ s k p (セン・シ・ケイ・ボ・ハイ)

7 a 「もしなら」 g 9 a g a 「で痛いのなら」

w 0 h 熱 I k d 「吐く」 1 k 「薬」 f u 「良い」

c d h 「解決する・治す」 l ; j k 「治まる・ストップする」

f h p 「によって」 7 ; k , x k d 「しゃべった事」

c l o 「10万」 s k p 「治る」

「もし熱で痛みがでて、解熱剤を飲めば治まるけれど、あなたの言った言葉で傷ついた私は、10万の薬でも治らない」これは日本でも、草津温泉が恋の病以外の万病に効くという有名な言い方があるが、恋の病はどこの国でも特效薬がないのである。

(82)

**stjk Ngokdej** (ル・ワ・スア・カ・カム)  
**[+shqgok;** (ホー・ハイ・ホン・カ・カ)  
**gNs, kdok;** (スア・マーク・ナオ)  
**[+shqs, kddHC** (ホー・ハイ・ホン・マーク・キアソ)  
**g NodvHC** (スア・ノック・イソ)  
**[+shj, sg7e** (ホー・ハイ・ファム・ホンカム)

**stjk**「あるいは」 **g-N**「種族・家柄」 **gokdej**「黒い種類  
 の米」 **[+sh**「させない」 **xq**「と混ぜ合わせる」  
**gok;**「白い米」この場合 **gokdej** より良い物の喩えに使われて  
 いる。

**s, kdok;**「ラオスのレモン、スタチ」

**s, kddHC**「オレンジ」この場合も **s, kdok;** の方が  
**s, kddHC** より品質の良い物の良い喩えに使われている。

**odvHC**「鳥の一種で普通のどこにでもいる鳥」 **Ij,**「一緒に  
 する」

**sg7e**「白くてきれいな鳥、ここでも **odvHC** より良い物の喩え  
 として使われている」

これはラオスの相聞歌である。女性が男性に愛を告白しても色よ  
い返事をもらえない。それでこのような歌を詠んで、彼の心を引き  
戻そうということである。

「黒い米と、白い米は一緒になれないのですか」

「スタチとレモンは一緒になれないのですか」

「どこにでもいる鳥は、あなたのような白くてきれいな鳥と一緒に  
なれないのですか」

2人の身分・地位の違うこの愛は成就しないのでしょうか？

あなたと私はしょせん一緒になれないのね。地位も身分も月とスッ  
ポン、全然違うんですから。

( 8 3 ) **dyx6 IvbmC** (キ・プ・ツ・ホ・ソ・ト・ソ)

**dy**「食べる」 **x6**「石灰」 **Iho**「熱い」 **mhC**「お腹」

「石灰を食べると、お腹が熱くなる。」これは要するに、日頃なにかやましい事をしている人は、その事を知っている関係者に顔を会せにくい。そういう事である。日頃やましい事をしている人は、肩身が狭くなるわけである。日本語でもお天道様に顔が会せられなくなる、というのがまさにそのとうりである。

( 8 4 ) [**+uEs6E8k** (ホ・ミ・ナム・ナム)]

**oE8k**「涙」これは覚える時に「なみだ」と「なむたー」で発

音がよく似ているので覚えやすい。**oEs6**「耳の水」これは別れる時に「さよなら、事故がありませんように」という意味である。これは友達と別れてどこか遠い所に旅行したり仕事に行く時にこのような挨拶をする。

(ナム)は「涙」なので「涙をながすようなつらいことや悲しいことがありませんように」という意味である。このラオス語の発音は日本語に似ている。(ナム)は「耳の水」という意味で意味はない。しかし「目の水」が「涙」なので中耳炎ではないが「耳の水」といって面白く言っているのである。

( 8 5 ) **OkpgOdxPd** (カ・イ・カ・ピ・アック)

**gOdxPd**「おかゆ」 **Okp**「売る」 **Ikd**「吐く、もどす」

**OkpgOdxPd**「おかゆを売る」になる。しかし **IkdOkpgOdxPd**

になると「お酒を飲みすぎて胃のなかのものを吐き出す」意味になる。胃のなかのものはちょうどドロドロしていて「おかゆ」のような状態なのでこの表現がとられている。ちなみにタイ語では

**gOdxPd** (カ・ム) と言う。(ム)はラオス語でもそうだが「煮る」という意味である。ラオス語の(ピ・アック)は「濡れる、湿る」という意味になる。

ラオス語の **gOdxPd** には2つ意味がある。一つは所謂「おかゆ」

の意味での **gOxPd** であり、もう一つは **gOxPdglA** (材・ピ<sup>ア</sup>ック・セ) で、これは「うどん」の一種である。本来これはベトナム料理であるらしい。これはお酒を飲んで、その後に日本でラーメンやうどんを食べる感じで食べると本当においしい。卵をいれると卵うどんに感じが似ている。

これが美味しいのはビエンチャンのアヌー・ホテルの前にベトナム人のおばさんとその若い娘が出している屋台の (材・ピ<sup>ア</sup>ック・セ) が有名らしい。朝5時ごろから出しているが7時には、売り切れるとのことである。バンコクではこのようなものは食べられない。したがってこれは、ラオスの名物だといってもいいだろう。

それともう一つおいしいのが **g<sup>h</sup>Q** (フー・ソム) と言ってフォンサリーから来た中国人が売っている麺である。彼らは中国人といっても「ホー族」といわれる中国系の少数民族である。革命後、フォンサリーから沢山の人々がビエンチャンに移り住んだ。中国語でどう言うかは忘れたが、とにかく「フー」のような麺で酸っぱいので暑い時に食べると食欲が出ておいしい。これもバンコクでは食べられない。ビエンチャンならでは名物かもしれない。友人がビエンチャンに来たら是非連れて行ってあげたい。

(86)

**-vdskzBk; Ckp**    **-vdskc, gl<sup>h</sup>opkd**

(ソク・ルー・プー - 材・ガ - イ) (ソク・ルー・メ<sup>ア</sup>ツ・ニャーク)

**-vdsk** 「探す」    **zBk;** 「独身の女性」

**c, gl<sup>h</sup>no** 「家庭の主婦」    **Ckp** 「やさしい」    **pkd** 「難しい」

「独身の遊び女」を探すのは易しいけれども、「結婚していい家庭の主婦になってくれるような女性を探すのは難しい」

これは要するに「若い女で食事をごちそうしてあげたり、ディスコに誘ったりしたら女の子はいくらでもひっかかるが、そんな女にろくな女はいない。結婚していい家庭の主婦になって家を守ってくれるような女性は、なかなか見つからない。」ということで日本でもラオスでも結婚相手を選ぶのは大変である。

(87) マニョム、マニエム

これは毛がちょぼちょぼしか生えていない状態をいう。例えば頭

の毛が薄くなってスダレみたいになった人（昔の中曽根総理の頭）とか、または女の子の陰毛がまだきれいに生えそろってなくて初毛みたいな状態をいう。しかしお前の頭の毛は（マニョム・マニエム）などというとは非常に失礼なので言わないでください。

### ( 8 8 ) **VU**と**VH**の違い

これはどちらもカタカナで書くと「イー」の発音になるが、ご存知のようにラオス語には声調があるので意味が違って来る。

最初の「イー」**VU**は、これは親しい間柄、自分より目下なら使っているが、偉い人には使ってはいけない。蔑称として女性の前につける。または親しみをこめて女性の友人の名に冠して用いる。

2番目の**VH**は、これは中国語（潮州語）から来ている単語で、華僑の家ではよく使われている。（華僑）母の妹と辞書にはでている。例えばうちの女房の妹の、梅ちゃんや亮ちゃんは、私の娘の桜ちゃんに対して、1人称としてこの**VH** という単語を使う。この場合は「お姉ちゃん」にあたるのであろう。彼女達はまだ20代なので「おばちゃん」は可哀想である。

この**VU**と**VH**の発音の区別は、ラオス人の子供には難しいようでラオス人の6歳位の男の子が、義理の妹の秋霜（33歳）に**VU**と**VH**の発音の区別がつかなくて間違えて**VU**と呼んで注意されていた。

我が家は中国人の家族なので、人の呼称には中国語がよく使われる。純粹のラオス人の家ではおそらくこのような呼び方はしないと思われる。「**VH**は（マイ・チャッタワ-）という声調記号である。これがつく単語はたいてい純粹のラオス語ではなくて、外来語である。困った時にぶりっ子が「あらー、嫌だわ、まいちゃったわ」というのとおなじだと覚えればいい。

この他にこの**VU**を使った単語に **vukp**（イー・ナ-イ）

**vok**（イー・ター-）があります。これは（イー・ナ-イ）が女性に対して（イー・ター-）が男性に対して用いられる「あいつ」「あの女」「あの男」といった感じで本人がその場所にいらない時に、蔑称的に

もちいられる言い方です。これもラオス人がよく使う言葉ですが本人がいない時にこのように言われていると、第三者として聞いていてもあまり感じのいいものではありません。

**vũ**(イ・ポー) **vũ, j**(イ・メー) は、子供が両親に言う「おとうちゃん」「おかあちゃん」にあたる単語である。日本人でラオスの女のこと結婚した人がいた。結婚式の前に、ラオスに来て新郎、新婦の親戚友人を招待して、日本食レストランで食事をした。その時に招待された中国系タイ人で日本に留学したことがあって、日本語が上手なヨンさんが、新郎の吉田さんを義理のお父さんに紹介して「イポーですよ」といって2人を握手させた。ヨンさんの性格はサービス精神が旺盛で、その場の雰囲気をややかにしようとして、そのように言ったのであり、そこらへんの彼の性格は私も十分理解していた。しかしその時、あるラオス人の女性で上流階級の方が、「イー、イーというのは、失礼ないいかたで、よくない」と言い出した。この場合は「ポー」と呼べばいいのである、とのこと。ということで、せっかく場を盛り上げようとしたのに、このように言われてヨンは中座して途中で帰ってしまった。このことを彼に後で聞いてみたら、「私、ラオス人でないので、ラオス語は良くわかりません」ということ。タイ語の言い方では(ク・ポー)と呼べばいいのであろうが、これにあたるラオス語はなにがあるのか。ヨンさん程のラオス語が上手な人でも(彼は、少年時代ビエンチャンの中国人学校寮都公社に留学しているのである)このように失敗してしまうのである。この場合は、彼のユーモアが通じなかったのかもかもしれない。そういうことで我々のラオス語が失敗するのも当たり前である。

田舎では子供を呼ぶ時、女の子は **vũgũ**(イ・ヌ) と言う場合がある。**gũ** は「亀」であるが、女性の「マンコ」が亀に似ているのでこのように言う。ところでテントウ虫をラオス語でなんと言うかうちの女中さんに尋ねてみたら **c, C****vũgũ**(メング・イ・ヌ) ということらしい。この言い方は俗称であろうが面白い。**c, C** は虫の名前の前に付ける接頭詞である。「マンコ虫」と直訳になる。

**[dse**(バック・ム) は男の子に言う。**se** は「金玉」である。

( 89 ) **8A. 9; jg9D, klkCcxC**

( タンチャイ・ワー・チャオ・マー・サン・ペーン )

**8A. 9** 「意識してーする」 **lkCcxC** 「修理する」

これはラオスの国民的歌手の **[qg9v]** (ブア・グン) の有名な歌

**lk; g]NcfC** (サオ・スア・デー) 「赤い服の娘さん」という歌の一節である。これは若い男が「彼女の家の仕事を手伝いに来る」という意味である。ラオスの場合はほとんどが農家なので、男の人は女の子の家の野良仕事を手伝いに行く。それが稲刈りであり、田植えということになるが、その時「この男はよく働くナー」と相手のお父さんやお母さんに認められると、話は早くなる。

私の協力隊時代の配属先でも、地方の現場に出て女の子をナンパする時に、彼らはお金がないので村の女の子の家の手伝いをするらしい。いわゆる肉体奉仕である。そうすると女の子も喜んでくれて、お返しに、肉体奉仕してくれると言っていた。

しかし女の子に好かれるために家の手伝いに行くなど、日本の男も見習うべきである。この替え歌に

**8A. 9; jg9D, k0emC** (タンチャイ・ワー・チャオ・マー・コー・テー) というのがある。

**cmC** 「突き刺す」 **0emC** 「突き刺せてください」 ようするにオマンコやらせてください、という意味。

したがって、この歌も深く鑑賞すれば味わいの深いものになるし、ラオスの田舎ではインテリの男で力仕事ができないモヤシ男ではなく、野良仕事ができる頑丈な男性が好まれるというわけである。百姓の仕事は体力がないと駄目である。

ちなみに、このブア・グン氏の奥さんは美人で、サムセンタイ通りのラオパリホテルの正面でお土産屋さんをやっている。

( 90 ) **zBk; gyktgykt** (プーサオ・オ・オ)

これは、女の子で年頃が ( 14 位から 18 位 ) のこれから段々と綺麗になっていく女の子をさしている。従って、20歳すぎの女の

子はたとえ独身でもこのようには言わない。この言い方をするとラオス人は笑う。是非とも覚えておいたほうがいい言葉である。

(91) **sq-kCskCsob** (ア・サツ・ハツ・ヌー)

**sq**「頭」      **-kC**「象」      **skC**「尻尾」      **sob**「鼠」

最初は象の頭みたいに大きくて豪快なのに、最後は鼠の尻尾みたいに小さくて元気がない。パーティーなんかで最初は人が沢山いてワイワイと賑やかだったのに最後に食事・料理がなくなって人が帰ってしまい寂しくなる。そんな時に使う。

(92), **d9h lj** (マツ・チャップ・サイ・ホー?)

**9h**「つかむ」      **.lj**「入れる」

お酒を飲んでいる時など、冗談でよくいいます。遠慮していると「飲ませてあげようか?」と言って飲ませてくれようとしています。要するにあなたは自分で酒が飲めないのなら、女の子がサービスでコップをあなたの口に持って行って口に入れて飲ませて欲しいですか? という意味である。

女性が **Ohp, d9h lj** というと本当にエッチな意味になります。ようするにあれをつまんで中に入れるという意味になります。

(93) **7h nj 16fh 7h 91 pkd**

(カップ・ティー・ニュー・ダイ、カップ・チャイ・ニュー・ニャーク)

**7h**「狭い」      **nj**「場所」      **16fh**「いる事ができる」

**7h 9**「心が狭い」      **pkd**「難しい」

「狭い場所でも住む事はできる、しかし心の狭い人と一緒にいるのは大変である」これはもう説明の必要がないことでもあります。

(94) **-kfsok 8vo [kp[kp rŋdæ s, j**

(サド・ナー) (トツ・バーイ・バーイ) (ポップ・カン・マイ)

**-kfsok**「次の世」      **8vo [kp[kp**「午後」

**rɔ̃dɑs, j** 「また会いましょう」

「次の世、また生まれ変わったら会いましょう」というわけでこれはプロポーズを断る時に使う言い方である。

日本でも松田聖子が郷ひろみと別れる時に、生まれ変わったらこんどは一緒になろう、という名セリフを残して別れている。ラオスにもこのような言い方があるのだなど、この言い方を教えてもらった時に思った。しかしこのような言い方は、あまり上品な言い方ではないとのこと。教養のある人はこんな断りかたはしません。

(95) **.osq.9[+u 1ɔ̃3]d, u**

(ハイ・アチャイ・ホーミー、ニュー・ハイ・オク・ミー)

**.0** 「なか」 **sq.9** 「心・心臓」 **[+u** 「いない」

**1ɔ̃3]d** 「世界にいる」

これは、「あなたは恋人がいますか？」と聞かれてある女性がこのように答えた。心のなかに好きな人はいないけれども、この世界に私の恋人になる人がきつといる、だから今はその人が私の前に現れるのを待っているのです。

これはなかなか、意味が深い表現であります。このような言い方を **7e7q** (ム・ム) と言います。**7e** は「言葉」 **7q** は「ナイフなどが切れる、鋭い」といった意味であります。

(96)

**vkpIəhCɪəskpɣu** (アイ・ハク・ノツ・ラーイ・ドゥー)

**gs, nofɔ̃tɔ̃h; kp** (ムアンダツ・カトワイ)

**IəhC7nojp[ko** (ラック・ノツ・ケー・アハーン)

**vkp** 「お兄さん、この場合は恋人、彼女に対して自分のことを一人称としてこのように言う。」 **Iəh** 「愛している」 **əhC**

「弟、妹、この場合も恋人、彼女を呼ぶ時にこのように呼ぶのがラオスの言い方」 **skp** 「たくさん」 **ɣu** 語尾につけて、だよね」といった感じを表わす。

gs, noffā 「 のように」 dt8h; kp 「カッターの球」これはタイ語の「タックロー」の球と同じである。

7n 「 のよう」 soj p[ko 「ボール」

これはもし本当に好きな女性にこのような事を言ったら100%ふられてしまうであろう。

「僕は君がすきだよ、カッターの球のように、君をボールのように愛している」というので、ボールのように愛しているということは、いつも蹴っ飛ばしているということである。

(97) 「涙もろい人」 7qoE8k, ㄝㄨㄥ・ナムター・モ-

7q 「人」 oE8k 「涙」 , ㄝ 近い」という事で「涙もろい人」

という意味である。これは 7qoE8k. dh ㄝㄨㄥ・ナムター・ガイ). dh 近い」

でもいいが、この言い方は面白くない。また

7qvs6kp (ㄝㄨㄥ・ハイ・ガイ) も涙もろいという意味である。

vsh (ハイ) 「泣く」 Ckp (ガイ) 「しやすい」

しかしこの言い方は

lkp (ハイ) 「叱る、怒る」

7q lkp Ckp (ㄝㄨㄥ・ハイ・ガイ) 「怒りっぽい人」という発音に似ている。カタカナでルビをふれば同じになる。したがって発音がまぎわらしいので、使わないほうがいいだろう。

(98) Idg9Qfvd 9b1vdg9QsU

(ハック・チャオ・ドーク、チュン・ヨーク・チャオ・リン)

これは革命前のラオスの古い歌で「あなたを愛しているんだよ、だから冗談を言ってからかっているんだ」という内容であるが、女のこにエッチな冗談を言ってその子が怒ったらこのセリフを言えばいい。いわゆる冗談、冗談という感じである。

Idg9Q 「あなたが好き、愛している」

fvd「花、この場合は文の後につけて、一ね、だよの意味を表わす助詞の意味になる」 9f「だから」 1vds0「冗談を言う」  
これは英語の J J O K E から語源が来ているものと思われる。

rPC1vds0 gijpAfvdsok  
(ピアソ・ヨク・リ、タオ・タン・ドク・ナー)  
「冗談だよ、ただ冗談を言ったただだよ」

rPC「だけ」 gijpA「だけ」 sok「文末に付ける助詞で一だよ」

sokg9k, 8fvd8f8k  
(ナ・チャオ・ガム、テイト・オク・テイト・ター)  
「君の顔は、きれいだよ、好きになってしまった」

8f「くっ付く」 vd「胸」 8k「目」

04k, cfj k , a2oc ]hsp6L  
(コー・ターム・デーワー ミー・フエソ・レオ・ル・ニャグ)  
「質問していいかなー、もう恋人がいるの？」

04k, cfj 「質問していいですか」 c2o「恋人」

( 9 9 ) くだらない事を言う g 00H, 0H, k (ワオ・キム・キマー)

g 0「言う」 0H, 6「豚のウンコ」 0H, k「犬のうんこ」  
4k, 「たずねる」

4k, 0H, 0H, k「豚のウンコや、犬のウンコみたいにくくだらない事を根掘り、は掘り、なんでもかんでも聞きまくる」ということでこれは日本でいう、いわゆるオバタリアンである。人の噂や、人のプライバシーなどなんでもかんでも聞きまくる、いわゆるおしゃべりおばさんである。

( 1 0 0 ) wf h69a7qc ]hL「子供は何人いますか？」

(ダイ・ルク・チャック・コン・レオ)

]**θ**「子供」      **9d7q**「何人」

ラオス人は初めて会った時など、子供の人数などをよく聞く、これはベトナムや中国などのように産児制限をしていないので、ラオス人は子供が大好きである。結婚式などでも **rk0; a**(パ-クアツ)の

前で **S, #V0** (モ-ポ-ツ)「お祝いの祝詞をとねえる人」が

**0-shhδga[ko** (コ-ハイ-ルク-テム-パ-ツ)

**skogag nC** (ラ-ツ-テム-ムアツ)と唱える。

**0-sh**「どうかーでありますように」      **ga**「あふれる」

**[ko**「村」      **sko**「孫」      **g nC**「町」ということで「子供が沢山できて、村や町に子供が満ち溢れますように」ということである。さて「子供は何人欲しいですか?」という質問に対してはよくこのように

**, d9txyp. s#k4ogxazβfl y c]hc8j]δc8jle**

答えているのがよく見られる。これは別に産児制限などしないで生まれるがままに、自然のままに、それにまかせるという考えである。私の妻は15人兄弟の9番目であるが、このような大家族はラオスでも珍しい例で、誰が聞いてもビックリする。しかしこのごろは子供は2人から3人位がビエンチャンでは普通になっている。

(101) **vhorfθk**, (ウアツ-ピ-デー-ガ-ム)

この3つの単語はいずれも「ふとっている」という意味であるが **8h vho**, **ru**の順に痩せて来る。**vhoru**とえば「ちょっと太っていて、肉つきがよくきれいだ」という意味になる。

**8h7a, θvo** (ツイ-ケ-ム-ト-ツ)とえば「去勢した豚みたいに太い」という意味になる。金玉をとった豚はブクブクと太る。

(102) **c, p; kwfθjkC**

(マワ-ダイ-キ-サ-ツ)

**d#Ijgærtpk**

(カ-ム-ペン-パ-ニャ-)

# 1kwflngl okzbspe8a-kCcfjou

(ヤ・ダイ・ルム・セナ・プー・ハー・ナム・テイソ・サソ・デー・ヌー)

**c, p; k** 「たとえーでも」 **ojhkC** 「象に乗る」

**dA** 「かさ、ここでは日傘」 **ly,** 「日陰」 **rtpk** 「王様」

**lk** 「するな」 **ln** 「忘れる」 **glok** 「臣下」

**zbsj** 「行列を作る人」 **oe** 「一緒に」 **8a** 「足」

**cfj** と **gu** は 2 つとも文末に付ける感嘆詞

「象に乗って日傘をさしてもらおうような王様になっても、象の後に行列を作って付き従ってくれる臣下・家来のことを忘れてはいけませんよ」「出世して偉くなっても、昔、苦勞していた時に世話になった人の事を忘れてはいけません」

( 1 0 3 )

**wskrtgyhOvCw4; kp** (パイ・ルー・パ・アオ・コン・クワイ)

**wskokpgyhOvCw8ho** (パイ・ルー・ナイ・アオ・コン・パイ・トソ)

「お坊さんの所に行くのなら、捧げ物を持って行きなさい」

「偉い人の所に行くのなら、なにかお土産を持っていきなさい」

**wsk** 「訪問する」 **rt** 「おぼうさん」

**gyh w** 「を持って行く」 **OvC** 「品物」 **4; kp** 「捧げ物」

**okp** 「偉い人・上司」 **8ho** 「お土産」

というわけで、お寺に行く時は何か御布施を持って行くのがよい、偉い人の所に行って、何か口添えをしてもらう場合は、手ぶらでは行けない。なにかそれ相応のものを持っていかないといけない。

**4; kp** の母音の「**kp**」(ア-イ)と **okp** の母音の「**kp**」(ア-イ)が同じ音で韻を踏んでいる。他の部分も韻を踏んでいて、全体的にリズムがある。

( 1 0 4 )

**soθsθ9βIθ5c, ;** (ヌ・カト・フク・チュン・フー・クン・メオ)

**]θc0; ocv; 9βIθ5re, j** ルク・クイン・エオ・チュン・フー・クン・ポー・メ)

「鼠が織物を噛んであなをあけて初めて、猫の恩を知る。」

「子供が腰にぶら下がるようになって、初めて親の恩を知る」

「子を持って知る、親の恩」という諺が日本語にもあるがこれと同じである。説明はあまり必要ないだろう。

**soθ**「鼠」 **θsθ**「噛みつく」 **sθ**「織物」 **9β**「よって、従って」

**Iθ**「知る」 **7θ**「恩」 **c, ;**「猫」 **]θ**「子供」

**c0; 0**「ぶら下る」 **cv;**「腰」 **re, j**「両親」

(105) **skgsh.ljsq** (ル・ハオ・サイ・ファ)

**sk**「探す」 **gsh**「虱」 **.ljsq**「頭に入れる」

「虱をさがして、頭にいれる」

要するにしくなくてもいい事、余計な事をして仕事を増やして迷惑をかける。例えば友達に女のこを紹介してあげて2人は結婚したが、その女のこの性格が悪くて、浮気者で他の男を作って逃げてしまった。余計なことをしたばかりに怨まれてしまった。

(106) **-kpovofP;** (サイ・ノソ・デイオ)

**-kp**「男の人」 **ovo**「寝る」 **fP;**「一人」

これは直訳すると「一人で寝る男」ということでいわゆる「独身の男性」の意味である。これはいかにもラオス人らしいおおらかな表現である。

(107) **lθtrk[ [veo; p.sh** スッカパ・ブ・ポー・アムヌアイ・ハイ)

ラオスの宴会などでお酒をすすめられて、ラオラオがまわってくる。お酒の飲めない隊員にとっては嫌な場面である。日本人と同じでラオス人にも無理にお酒をすすめる人がいるので困ってしまう。

単純に断るのなら、**dy[wfh** (キ・ホー・ダイ) なのだがこの言い方はストレートで勧める相手の気持ちを傷つけてしまう。このように言えばかどが立たなくいい断り方である。直訳すれば「健康が許さない」ということで、貴方の事が嫌いだから飲めないのではなくて、今、体をこわして健康が許さないで飲めないんだ、ということである。このような言い方を **g Q heo; o** (ワオ・ミー・サムアツ) と言う。ズケズケと言うのを **g Q[+heo; o** (ワオ・ホー・ミー・サムアツ) という。**leo; o** (サムアツ) は「常識」と訳すべきだろう。同じ断るのにしても **dy[wfh** とストレートに断るより、この言い方がスマートで知性を感じるので、相手も無理強いしない。とはいっても最終的には飲まされてしまうのである。ラオスの庶民との付き合いはラオラオが飲めないと本当につらい。

(108) **g Q skp. 9o** (マチャオ・ライ・チャイ・ノ)

**skp** 「沢山」 **.9** 「心」 **skp. 9** 「心が沢山」ということで「気が多い、移り気、浮気者」という意味になる。

従って、「あなた、浮気者ですね」と飲み屋の女に言われたら、冗談で **c, jc] h0hpskp. 9** (メルオ・コイ・ライ・チャイ) 「そうです、私は気が多いのです。心が沢山あります。」と言って以下のように答えると面白い。

**.9fu** (チャイ・デー) 「親切」 **.9[5** (チャイ・ブツ) 「慈愛心がある」

**.9spj** (チャイ・ニヤイ) 「心が大きい」という事で、沢山 **.9** があるけれどみんないい **.9** であります。ラオス語は **.9** 「心」という一つの単語に他の言葉を付けて、人の心の性質を表わす単語を作ります。したがって「心がたくさん、つまり浮気者ね」と女の子に言われたらこのように言い返すことができます。

「そうだよ、俺はたしかに気が多いよ、親切で、慈愛心があって、心が広いし」というわけです。

また **IafP; .9fP;** (ハク・デ イオ・チャイ・デ イオ) という言い方も

あります。これは「愛する人は一人、心は一つ」ということですが、  
**IəfP; skpco; 7f** (ハク・デ イオ・ライ・材・キト) 「愛する人は一人だけれども、色々な考えがあり、考えすぎる。」

**IəfP; .9fP;** だけれども **cx[fP;** (パップ・デ イオ) というのがあります。これは「愛する人は一人、こころは一つ、だけれども一瞬だけ」**fP;** 「 だけ」という意味であり、(パップ・デ イオ) で「一瞬だけ」という意味になる。これも冗談である。

(109) - **əgəqgədtfəfe**

(ク・チャオ・チョン・材・カウク・ダム)

-**ə**「嫌い・憎い」 **əq**「 まで」 **gə**「中に」

**dtfə**「骨」 **fe**「黒い」

これは「骨の髄まで嫌い」という意味である。骨まで愛して欲しいのよ、というナツメ口があるが、ラオス語で「骨まで愛している」という言い方 **Iəgəqgədtfə** という言い方はしない。これは中国語ならこのような表現はあるというが、ラオス語で心の底から愛

しているという言い方は **Iəgəqqlfsq.9** (ハク・チョン・スト・フア・

チャイ) という。 **sq.9**「心臓・心」 **lf**「底・端」

(110) - **vdskspjə8k, g[ə]wfh**

(ソク・ルー・ニャ・ターム・パット・ポー・ダイ)

これは「釣り針の先に付ける餌を探すことができなくなる」という意味である。つまり食事をしていて、そろそろ9時半を過ぎたでしょう。今くらいから、ナイト・クラブかソープにくりださないと、かわいい女の子がいなくなってしまうという意味である。遅くなつてはブスな女しか残っていないというわけである。

これはあくまでも間接的に物事を表現しているのであって、その場の状況にあわせて言っているわけである。このような言い方がすぐにわかればラオス語の力もたいしたものである。

-vdsk「探す」      ʒpɲi「餌」      ʒk, 「つける」

gɲa「つりばり」ちなみに女のオナニーは ʒdɲa (トック・ベツ) というこれは釣り糸を垂らして、魚を釣っているすがたが女の人のオナニーににているからとか。

( 1 1 1 ) . [phCpɲ (パイ・ニョ-ン・ニョ-)

. [「紙を数える時につかう、助数詞、この場合は表彰状、感謝状」という意味になる。phCpɲ 誉める」

協力隊も2年の任期が終わった時、たいがい配属先のダイレクターよりこれをもろう。発行するのは配属先の管轄省庁である。まあ2年間、一生懸命頑張って協力活動してくれたお礼と感謝の意味をこめて贈られる。ラオス人も毎年、省や役所などで良く働いた人にこの感謝状というか賞状が贈られる。これをおちよくって

. [phC. -h (パイ・ニョ-ン・サイ)      .-hは「使う」という意味で要するに、こき使われて仕事をして、そのご褒美にもらった感謝状という意味になる。

( 1 1 2 ) 7dɲvCɲkɲk, ( コック・ソ-ン・サ-ク・サ-ム )

7dɲ は英語でいうと「パパイヤサラダ」とでも訳すのだろうか。いわゆるタム・マック・フンを作る時に使うすりばちみたいなものである。ɲkɲ はスリコギ棒みたいなもので、このすりばちにパパイヤをいれて ɲkɲ で叩いて作るのだが、このタム・マック・フンを作るのに欠かせない必需品である。これを冗談で例えば、コーラ 37h (コ-ク) を2本注文する時に、レストランで 7dɲvCɲkɲk, というとジョークになる。

7dɲ と 37h がいわゆるシャレになっているのだ。しかし ɲkɲ はここではスリコギであるが、男性自身を表わしていることはない。ラオス語で男性自身のシンボルといえは ɲvd (サイ・コ-

ク)「ソーセージ」がその代表になるようだ。やはりタム・マック・フンのスリコギだといくらなんでも大きすぎて、あんなにでかいチンポの人は毛唐でもないかぎりラオスにはいない。

( 1 1 3 )

**oq8q7vo** (ム・トゥク・ユン)      **oqpk** (ム・ニヤン)

オッパイが垂れている。たれ乳。

**oq**「オッパイ」      **8q**「落ちる」      **7vo**「止まり木」

**pk**「垂れ下がる」

これは、「止まり木からオッパイが落ちる」という意味であり、ようするにタレチチのことである。

( 1 1 4 ) **gq98qgyC** (アオ・チャイ・トゥア・イン)

**gq9**「機嫌をとる」      **8qgyC**「自分自身」

これは「自分の機嫌を取る」ということで「わがまま」ということである。これだけでは面白くないので面白いジョークを紹介しよう。My mother is my mother. という英語を日本語にどのように訳すかである。

正解は、「私の母は我がまま(ママ)」ということで、

My Mother is selfish. という冗談である。

「お母さん」で思い出したが「お父さん」で面白いジョークがあったのを覚えている。新婚の娘の部屋から夜、お父さんと呼ぶ娘の声が聞こえた、部屋の外まで行ってみるとちょうどオマンコをやっているところであった、ようするに「もっと」というのが英語の FATHER であって「お父さん」と同じ発音であるので、お父さんが自分の名前を呼んだと思って行ったら、娘のほうはオマンコの最中で「いくー、もっと、もっと」とよがっていたという話である。しかし正しい英語ではこのようにいわないらしい。

( 1 1 5 )

**s, kdw hq [wddq g Nzqfd [g/p, sq] ko**

(マ・クマイ・ロン・ホー・カイ・コック・スパ・ホム・ドック・ホークーイ・ミー・ファ・ラ

-ソ)

**s, kdwy h**「果物」      **lj**「落ちる」      **wd**「遠く」      **dd**「木」  
**g-N**「遺伝、家系」      **zq**「髪の毛」      **fd**「フサフサしている」  
**[g/p, u]**「したことがない」      **sq]ko**「禿げ」

「果物は落ちる時、木のそばに落ちる。家系が毛のフサフサしているところは禿げがいたことがない。」

これは「親を見れば子供がわかる」「子供は親以上にはならない」という訳であります。そして「白髪の家系は禿げがない」というわけであります。

(116) ラオス語の発音は難しい

**Ohp7f;k**      **Ohp08qt**

(コイ・キッド・ワー)(コイ・キー・トウ)

**Ohp**「わたし」      **7f;k**「考える、思う」      **08qt**「嘘」

これは、日本人がラオス語を喋る時に発音が悪いので、ラオス人が聞き間違えた例である。「私はこう思います」と言いたかったところが「私は嘘をつきます」という意味になってしまった。

この他にも

**wntg]**(パイ・ター-)を **w8kgs ]j**(パイ・ター-)と言い間違えた例もある。これはどちらもカタカナで、ルビをふると日本語の発音は同じなのだが、ラオス語は有気音と無気音の区別がある。したがって厄介である。単語を解説すると

**w**「行く」      **ntg]**「海」      **8kgs ]j**「斜視」ということで「海に行く」という意味が「斜視に行く」というなんか変な意味になる。

他にも、米の糠をラオス語では、**OUe**(キ・ム)というのを **OSe**(キ・ム)と発音してしまい、ラオス人に笑われた。これはカタカナで書くとどちらも同じであるが、声調が違う。

**Se** になると「金玉」の意味で「糠」が「金玉の糞」になってしまうのでこれでは大笑いである。これはラオスの研修員を連れて佐竹製作所という農機具のメーカーに行った時の失敗談であった。わた

しはいつもこんな失敗ばかりしている。

### ( 1 1 7 ) タイのサムロー

タイのノンカイにラオス人が遊びに行った時の話、帰りにサムローに乗って橋のところまで行こうと思って、運チャンに

**wx0q**(パイ・クア)と言ったら、その運転手は間違えて

**wx0; k**(パイ・クア)と勘違いしてどんとん右に進んで行ったとのこと。乗っていたラオス人がどうもおかしいなと思って運チャンに聞いたら勘違いしていることに気がついたとか。

**wx**「行く」      **0q**「橋」      **0; k**「右」

但し、ラオス語の「橋」は単母音であるが、タイ語・ラオス語共通の「右」は長母音になる。タイ語で「橋」は **litrko** (パ<sup>o</sup>-ツ) になる。したがってサムローの運チャンが間違えたということであるがまあ、ノンカイのタイ人ならラオス語も知っているのだから、きっと作り話の笑い話にしたのだろう。でもこの話を教えてくれたラオス人に聞いてみると「本当にあった話だ」といっている。

### ( 1 1 8 ) Vientiane

ラオスの首都は、ご存知のように「ビエンチャン」である。このようなカタカナ表記をすれば、日本人が読めば、ラオス人が聞いてもちゃんとわかる。それでは、一般に「ビエンチャン」は英語かフランス語のスペルかなにかよくわからないが「Vientiane」と書かれている。そのためか毛唐の連中はよく「ビエンティアン」と発音する奴が多い。しかしこれはラオス語のスペル **; PC9a** とまったく違った発音になっていて、その発音をラオス語で書くと「**; PomPo**」という発音になる。**; Po**(ピアン)は「まわる、回転する」

**mPo**(ティアン)「蠟燭」であり、タット・ルアンのお祭りの時に蠟燭を持って、境内をまわる、その儀式と同じ発音になる。しかしどうして「ビエンチャン」の英語かフランス語か知らないがそのスペルが Vientiane になったのだろうか、私にはその理由がわからない。ある日本に研修に来たラオス人が、毛唐は我々の首都をちゃんとし

た正しい発音で言わないと、怒っていた。

(119) Can I see door?

これは英語の意味で「私は、ドアがみえますか?」という意味である。これをラオス人が聞くとエッチな意味になる。

(キャン アイ シー ドーア)という発音であるがキャンはこの場合関係なくてただ許可を取る意味と考えて、

アイは **vhp**「兄」、シー **lU**「マンコする」、ドーアが本当の発音で

あるがここは(ドゥー)というラオス語の発音 **gfu**これは、文末につけて強調の意味をしめす」意味になる。したがってこの英語をラ

オス語の意味と混ぜて解釈すると「お兄さんは、マンコしていいかい」という意味になる。

だいたい(シー)という発音が声調によっていろいろの意味が代わりエッチな意味になるのがラオス語の面白くて危険な要素である。

(120)

**[koglfi 90 16l L]**

(バ-ン・ク-ド・チャオ・ニュー・サイ)

**[jogldfi 90 16l L]**

(ボ-ン・ク-ド・チャオ・ニュー・サイ)

これは非常によく似ている文だが、後者のほうがエッチな意味になる。

**[ko**「村」 **gldfi**「生まれる」 **[koglfi**「生まれた村」

ようするに出身地 **90**「あなた」 **16l**「どこですか」

**[jo**「場所」 **[jogldfi**「生まれた場所」

ようするに最初の文は「出身はどちらですか」という意味であるが二番目の文は「生まれた場所はどこですか?」ということで「オマンコからうまれた」などと答えてもいいのだが

**Ohp, kc8j3, C** (コイ・マ-・テ-・ウエン)「トンネルからでてきた」

と答えてもいい。**v3, C**「トンネル」

(121) ベトナム語

ラオスにはベトナム人も沢山住んでいて、ラオス人のなかにもベトナム語ができる人が沢山いる。75年の革命のときに、タイに逃げ

たラオスのベトナム人も沢山いたが、逆にタイに住んでいたベトナム人達で、ラオスに移り住んできた人もいる。かれらはノンカイ、ナコンパノム、ムクダハンなどのメコン河沿いの都市に住んでいた人達である。とくにラオスのビエンチャンのドンパラン地区は、ノンカイから来たベトナム人が住んでいる。タイではベトナム人は差別されて、職業なども制限されたり学校も進学させてくれないとかの不公平がある。しかし彼らは愛国的であり、ベトナム戦争の時にみんなでお金を出し合って、北ベトナムに送っていたとか。だから

1975年にサイゴンが開放された時は、みんな手を叩いて喜んだらしい。このような越僑の話は、隊員機関紙「メコン」にも載っていた。サバナケットのベトナム料理屋のおばさんの話で、タイに生まれた、越僑のおばさんがラオスに身一つでやってきて食堂をやったはなしである。

タイのベトナム人はタイでは迫害されているので団結して皆で助け合っているが、ラオスに移住してきたベトナム人は、そんなに団結しなくても暮らしていけるので、タイのベトナム人ほどまとまりがなくなるとかの話である。

さて簡単で面白いベトナム語を紹介する。ベトナム語は本来アルファベットで表記できるのだが、私はベトナム語が書けないのでカタカナで書く。

デー・ダウ    デー・ハット    デー・チット    コン・デー

ラオス語とベトナム語は、この場合は文法がよく似ているので

(デー)はラオス語の **wk**、(ダウ)はラオス語の **.l**、

(ハット)はラオス語の **S**, **q** (チット)はラオス語の **8kp**

(コン)はラオス語の **[セ**あたる。

というわけでこれをラオス語にすると

**wk.l**「どこに行くの？」    **wkS, q**「どこでもいくさ」

**wk8kp**「死にに行く」    **[wk**「行かない」

「どこでもいくけれど、死ににいくの、いかない」

また同じような言い方がタイ語でもある。

**wk.S0**「どこに行くの？」    **wkfhp**「一緒に行く」

**wx8kp**「死にに行く」 ., **jxfdj k**「行かない方が良い」

ということで、ベトナム語と同じような意味である。

わたしはよく冗談で **wx.l d w f h v d 9 k d o k ] d**

「地獄以外は何処にでも行っていいですよ」と言っている。

**wx.l d w f h** (パイ・サイ・コ・ダイ)「何処でも、行ってもいいです」

**o v d 9 k d** (ノク・チャック)「以外」 **o k ] d** (ナ・ロック)「地獄」

( 1 2 2 )

**l ø 8 y k [ s , A 7 6**

**l ø 8 y k [** (サンティ・パーブ)「平和」 **s , A 7 6** (マンコ)「永久」

これはラオスの歌で、このようなフレーズがよく歌われている。ようするに「平和を永遠に」ということで、ブアグンという有名な歌手の歌にあったように覚えている。当時の歌は革命がおこり、右派と左派の内戦が終わった時なので、ラオスの国内に平和が訪れた時なので、共産党政権もこのような歌をはやらしたのだろう。

わたしがいいたいのはこの「永久」という言葉である。この発音が日本語の「マンコ」に似ていると思ったからである。平和になるとみんな安心してオマンコできるので、とにかく目出度いことである。難しい単語もこのように覚えれば、ラオス語は楽しく覚えられ。このようなことを大学の先生が、講義のなかで生徒に教えたらきっと馬鹿にされるだろうし、もし女の先生なら恥ずかしくて

「オマンコとこの発音は似ているので、オマンコの連想でこの単語を覚えてください」なんて言えないが、私は別にラオス語を大学で勉強したわけではないし、エッチな単語はよく知っているが、国際会議の通訳などとてもできる実力ではないので、エッチなことを書いても平気なのである。

それからラオス語で「オマンコする」というのを他にも色々な言い方があるが、**g y h d a** (ア・カ) という言い方がある。

**g y h** は「必要・要る・欲しい」という意味である。

**d a** は「お互い」という意味である。従ってこの意味は、お互いの

愛情が高まって、男の方からも女の方からも「お互いに求め合った」ように片一方が無理矢理に求めたのではなくて、「お互いが求め合った」のである。したがって片一方の一方的な愛情でなくて、お互いの愛情が求め合ったわけである。

**də** の用法では、他にも **-jəpdə** (ツイ・カン) **Ojəp** 「助ける」ということで「助け合う、協力しあう」という意味である。この単語は日本語の外・屋外でセックスするという意味の「アオ姦」と発音が同じである。従って覚えやすい単語である。

( 1 2 3 )

**[dr+ [dɔ, j** (バツク・ポ-) (バツク・メ-)

サムヌアでは自分の父親・母親をこのように呼ぶ。しかしこのように呼べるのは自分の両親だけで、他の人が自分の両親をこのようによぶのは許されない。(バツク)はビエンチャンなどでは仲の良い関係、あるいは目下の男性に対してこのようないい方をする。女性に対しては(イ-)といういい方がある。しかしサムヌアでは、母親に対しても **[dɔ, j** と言うとのこと。

それから **rɔm** (プ-・タイ) 族は親子でも **dɔ** (ク-) 「俺」と

**, b** (ムン) 「お前」といういい方をするとか。普通このいい方はなかのいい間で使う場合だけ許されるいい方である。普通のラオス人は親子の間でこのようないい方をしてはいけない。これもサムヌアの例と同じく特殊なケースであろう。

これはまた前にも書いたが夫婦の間では絶対に使ってはいけない。もし使うと絶対喧嘩になるとか。日本では夫婦の間で女房を「お前」と呼んでいいが、それをそのままラオス語に訳すと喧嘩になってしまう。実際、日本では、私の父は母のことを「お前」と呼んでいた。

そして自分のことは「ワシ」と言っていた。このように、ラオスと日本では考え方が違う。ようするにラオスの場合は、夫婦は対等の関係であるのだと、あるラオス人が説明してくれた。

またパクセでは **dɔ** と **, b** はあまり使わないとのこと。ほかの地方に比べて厳しいという。これはパクセ出身のラオス人から聞いたことである(その人は、インテリで外国留学の経験がある。)

ある日、ビエンチャンの病院に検診に行った女房が、女医に ]d, b]d, a「お前のがき」といわれたので、ビックリしたらしい。だいたい病院の女医で看護婦にドクターと呼ばれている人がこんな言葉を使うなんて、と思い当然、 ]d0hp(ル・ク・コイ)「私の子供」とこたえるのが普通の言い方であるが、品のない女医にあわせて ]dd6(ル・ク・ク)「俺の子供」と答えたとか。この女医の言葉がパクセ弁だった。女房もパクセの人間も品のない奴はよくこの単語を使うとか。

おそらくその時に女房の服装があまりきれいではなかったので、この女医は田舎から来た奴だと思い、とても日本人の妻には見えなかったので馬鹿にしていったのだろう、と一緒にいった親戚の女のこの感想である。ということで、ラオスは服装に気をつけていないと服装で判断されてしまう。

それからこの他に、 gh(ハオ)「俺」と 38(ト)「お前」がある。これは d6と, b ほど下品ではないが、それでもあまり上品ではない。

( 1 2 4 ) dy0H, k(キ・キ・マー)

dy「食べる」 OUウンコ」 S, k「犬」

これは「犬のウンコを食べる」ということであるが、ようするになにも知らないことである。例えば、こんな時に使う。日本に難民として行ったラオス人の子供がラオスに戻って来た。あるラオス人と私の所に遊びに来た。

私がラオス人にその日本から来たラオス人の子供はラオス語ができるか聞いてみたら、冗談で(キ・キ・マー)と言っていた。要するにこいつは何にも知らないんだ、という意味である。何も知らないだから「犬のウンチを食べる」というひどいらオス語の意味もわからないということである。しかしこの冗談はかなりひどいいかたである。さて本当に犬はウンチを食べるのか、これについて最近わかったことであるが、奴等は食べる。二番目の娘、蘭ちゃんは98年の2月9日に生まれたが、現在6ヶ月である。このごろラオスで

も紙おしめを買う母親が増えて、あれは確かに便利である。その紙おしめを籠のごみ箱に捨てておくと、犬が来てひきちぎって中身が無くなっている。これはやはり夜中に犬が来て、おしめに付いた赤ちゃんのウンコやオシッコを舐めて、食べて逃げ去るのである。

ラオスでは昔から「犬はウンチを食べるので悪い」と言われていたが、これは本当に確かである。

### (125) ベトナム語とラオス語

これも同じ発音で意味がエッチになるのがいっぱいある

私の、失敗談であるが初めて、JICEで研修監理員をやった時の話である。有償資金の訳でとっさにラオス語がでてこなかった私は仕方なく「ローン」と英語を使った。その後でラオスの研修員に、あれは **đôn** (ク・ユム) だと教えてもらった。その時に (ロン) の発音はベトナム語でエッチな意味になると教えられた。したがってベトナム語のできるラオス人の前ではへんに英語を使わないようにちゃんと **đôn** とラオス語をつかってくださいといわれた。

その前に、日本にいたベトナム人に日本語の(メロン)の発音はエッチな意味になると教えられた。しかしこの時どういう意味かはちゃんと聞けなかった。

それから17年たったのこと、長いことわからなかったこの意味がわかった。大阪の茨木センターで神戸大学のラオス特設の経済運営管理セミナーのコーディネーターをした時のことである。研修員のなかにベトナムに留学して、ベトナム人の奥さんがいる人がいた。もちろんベトナム語はペラペラである。彼にベトナム語でオマンコはなんというかと聞いてみた。すると「ロン」という発音で、これはラオス語の「木の葉が落ちる」という意味の

・ **[wɰh]ɲ** (バイ・マイ・ン) の (ン) の発音と同じである。と説明してくれた。

・ **[wɰh** 木の葉」 **s]ɲ** 「落ちる」

これでやっとわかった昔、ベトナム人が言っていたメロンの発音にはオマンコの意味があったのだ。その後あるパーティーでデザートにメロンが出てきた時に、それをスプーンですくって食べる時に思わずこのベトナム語が頭のなかに出てきて、メロンの汁を最後の一滴まで美味しく啜っている自分が恥ずかしくなってきた。ベトナム

ムのおマンコは落ちるのである。

そしてもうひとつ、

ラオス語に **wdjʃɔ** (カ・ロン) **wdj** 「ニワトリ」 **sq** 「迷子になる」これは「迷子になったニワトリ」ということであるが、これは悪い意味で、「男を捜し求めるあばずれ女」といった感じの意味である。むかしタケクに電気探査の仕事で行ったときにラオス人が昨日の晩、ディスコの帰りに女をナンパしたけどあれは **wdjʃɔ** だったな、と言っていたので、わたしが **wdjʃɔ** てなんですかとラオス語で質問したのだが、発音が悪く末子音がGではなくNの音になり、高子音の発音もおかしくなってベトナム語でオマンコの意味になる

「カイロン」と同じ発音になり、ラオス人に笑われたことを覚えている。この単語はラオス人ならみんな知っているようである。そのとき、どっちもだいたい同じ意味だといわれたが、たしかにそうである。

おまけにもうひとつベトナム語で、クラスのなかで一番美人な人を (ファ・コ イ) という。これはラオス語の **sq37p** に似ている発音であるという。**sq** は「首」**37p** は「チンポ」ということで「亀頭」の意味になる。しかし正確なベトナム語の発音からすると **Ij37p** になるとのこと。**Ij** は「漏れる」という意味である。これもいろんな言葉を勉強すればするほど、エッチな単語がでてくるものである。

ちなみに、ベトナム語で (カイロン・トー・トー) というとき「でかいマンコ」という意味になる。

( 1 2 6 )

**7; kp8hyspkvjyo g4hsqC6**

(ク・イ・トゥ・キ・ニャ・材) (材・ア・ゲ)

**7; kp** 「水牛」 **8h** おじいさん」 **dy** 「食べる」 **spk**  
「草」

**vjo**「やわらかい」 **gɬj**「年取った」 **sq**「頭」 **C6**「蛇」  
 これは、「じいさん水牛のくせに柔らかい草を食べる」ということで「助平じじい」という意味である。また「エロ爺い」である。「柔らかい草」というのは比喩であって、「若いピチピチした女」という意味である。したがって、じじいのくせに若い女とやりたがる助平じじいという意味になる。

( 1 2 7 )

**Oqsq]d** (コソ・フア・ルック)

**Oq**「毛」この場合は髪の毛や陰毛ではなくて、体毛のこと。

**sq**「頭」 **]d**「立つ」

すごくビックリして「身の毛もよだつ」と日本語でいうが、それと同じ意味であろう。ラオス語ではこのように言うのである。

( 1 2 8 ) 交通渋滞の時

**]q8fskp** (ロット・ティット・ラーイ) **]q**「車」 **8f**「くっ付」

**skp**「とても」ようするにこれは交通渋滞のことである。

この時に後ろの車はどうしたらいいか、後ろの車はラオス語で

**]q7asɛ** (ロット・カソ・ラソ) という。**7a**は「自動車の台数を数える時の助数詞」である。日本語の「台」にあたる。または「痒い」という意味にもなる。**sɛ**は「後ろ」あるいは「背中」になる。

したがってこの場合は「後ろの車」の他に「背中の痒い車」という意味にもなる。そうすると答えは **dk;** (カーオ)「かく」ということで、「背中が痒かったら掻きなさい」という意味になる。ラオス語はこのような同音異義語が少ないのでこのようなシャレは珍しくなる。

( 1 2 9 ) 笑い話

私の大の親友で高地さんという人がいる。高地さんの奥さんもラオス人なので、仲良くしている。この前、奥さんのワンさんが面白

い話をしてくれたので紹介する。ラオスでは食堂などでビニールの袋に食べ物をつめて、いわゆる毛唐語でいうテイクアウト、我々の言葉でいうとお持ち帰りのサービスがうけられる。ラーメンでもお粥でもなんでも大丈夫だ。

さてワンさんと高地さんが **gɔkPd**(カオ・ピアック)「お粥・またはベトナム風餛飩」を買いに行った時の話である。普通ラオスでは、ビニールの袋にいらしてもらう時にラオス語で

**lɨʔgfu**(サイ・ツ・ドゥー)という。これは

**lɨ**「入れる」**ʔg**「袋」**fu**「してよ」という感嘆詞。であるが、とうの高地さんは何を間違えたのか

**lɨʔkCvkokw**(サイ・ツ・キャン・アマ・イ・ドゥー)と言ってしま

った。これは **kC**「ゴム」**vkokw**「衛生」**ʔkCvkokw**

「衛生ゴム袋」ということでイワユル「 Condom 」の意味である。

これにはカオ・ピアック屋の御姉ちゃんもたまげた。なにせ外人がいきなりベトナム風餛飩を Condom に入れてくれなどわけのわからないことをいうのであるから、ビックリしてしまう。

きっと深層心理に、ベトナム風餛飩を買ってから、薬局にでも行って Condom を買って家に帰ってやろうと思っていたのだろう。これは十分に笑わせてくれる。

(130) **lɨʔ**(シー・カ)

これは英語でいうと Mill Rice という意味である。いわゆる精米するということである。**lu**「色」という意味の他に「精米する」という意味がある。**gɔk**は「米」の他に「はいる」という意味がある。しかしルアパンのひとはこの **lu**(シー)という発音を、高子音なので Rising の声調でビエンチャンの人は発音するのだが、彼らは Falling の声調で発音してしまう。そうなるビエンチャンの **lu**の発音を、ルアパンでは **lɨʔ**の発音でやる。したがって **lɨʔ**ということ

「マンコにいれる」という意味になる。冗談で、ビエンチャンの人間がルアンパバンの田舎に行って、農家の人が精米工場で、「御米を先に持ってきた人から精米してください」というのを **lɔ̄k djo** と言っているように聞き間違えたという笑い話がある。精米場はラオス語で **ສີລຳຄຳ** (ホーグ・シー・カ) という。ちなみに今度、ルアンパバン出身の女の子にこの単語を発音してもらっててください。

そう言えば発音であるが、わたしは昔タイ語を習ったので、その癖が最近まであった。タイ語で日本は(ジープン)であるが、ラオス語では(ニープン)になる。これはラオス語には **l** (イー) と **p** (ニョー) の2つの子音があり最初の **l** の方はタイ語の子音にもあり(ただしスペルは違う)、2番目の **p** 方はタイ語にはない。

**pjɔ̄p** (日本) というラオス語は、タイ語の発音をラオス語でかくと **lɔ̄p** ということになり、同じ「日本」という意味の単語でも発音が(ニープン)とタイ語では(ジープン)ということで違ってくる。わたしは、以前からタイ式の発音でこの単語をしゃべっていたのでサバナケットに行った時に「日本」という簡単な単語が通じなくて恥じをかいたことがある。

それから以前にもラオス語の **ɔ̄** の発音であるが、タイ語の **ō** と違ってラオス語は **v** の発音に似ている感じであるとか。

**g** **k** 「時間」という発音はタイ語は(ウエー)であるがラオス語では

(**ɔ̄ iɔ̄**) という感じになる。そしてカンボジア語ではもっと **v** の発音が強くなってくる。このようにインドシナの言葉を色々比較してみると面白いかもしれない。

### (131) セノー

これは、サバナケットより国道9号線でベトナム方面に行くと、13号線と交わる所にある町である。ラオス語で「セー」という発音はラオスの南部では「川」という意味である。しかしこの町には「川」が流れていない。川が流れていないのにどうしてこの町はセ

ノーという名前なのか、それは75年の革命前、まだフランス統治の時にこの町にフランスのインドシナ統治の為の基地があり、その時にフランスがこの町の名前をセノーと呼んだことによる。名前の由来はここがインドシナの中心という意味で、フランス語で「北」という意味の「NORD」、「南」の「SUD」、「西」の「OUEST」そして「東」の「EST」のそれぞれの頭文字をとって、「SENO」と発音したわけである。要するに東西南北の中心ということでこのように言われたわけである。

ここは実際は水に不自由していて、水道があるがその水源は井戸水であるが水量は十分ではないとか、したがって4月のラオス正月の時はみんなサバナケットまで水をかけに行くとかである。昔はフランス軍の散水車、給水車が毎日住民に給水をしていたとのことである。

(132)

**7qCk, crbu rkfurŋq**

(コソ・ガム・ペー・ヒー) (パー・ディー・ペー・コム)

**7qCk** 「美人」 **crh** 「だめになる」 **su** マンコ」

**rk** 「ナタ」 **fu** 良い」 **7q** 「切れ味がいい」

美人はマンコが駄目になりやすい、良いなたは切れ味がすぐに悪くなる。というラオスの諺であるが要するに、きれいな女はみんなマンコしたくなるのでマンコをすぐにやられる。きれいな女はすぐに男ができるわけである。男ができればすぐにマンコするので **crbu** ということになる。

良いなたも、切れ味がいいので皆が使いたがる皆が使えば、すぐに切れ味が悪くなるというわけである。逆にいうとブスな女は誰も手を出さないのて処女のまま、きれいな女はすぐに男がつくというわけである。

(133) **Ikopygə** (ハソ・ニツブ・ニエツブ)

**Iko** 「店」 **pygə** 「まばたきする、ついたり消えたりする状態」

これは日本語でいうと「赤いネオンの色町」という意味でようするにいかがわしい御姉ちゃんがいるお店のことである。ラオスのこれらの店は紫と赤紫のネオンが店の前でコウコウと光っているので良く分かる。この店をこのごろラオス語ではこのようにいうらしい。

しかしラオスは狭いので、知っている人に見られるとすぐに知れ渡ってしまうので注意することである。ちなみにラオス語では、以下のように言う。

3]doŋq (ロ-ケ-・ム)

3]doU「この世界、地球」 dq [丸い]

これは日本語で、初めて会った同士がよく話してみるとお互いに共通の友人がいたことに気がついた時に、日本語では「狭いわね」という。これにあたるラオス語が(ロ-ケ-・ム)である。要するに「この地球は丸い」という意味である。地球が丸いということは、何処かでまた出会いがあるということである。しかしラオスの社会は非常に狭い。

例えば、あの人とあの人とが親戚などというのはよくあることである。私が以前に協力隊の配属先の土質試験室のダイレクターとその親戚の話であるが、日本のある大手のゼネコンが無償援助のプロジェクトで、ラオスで仕事をした。その時ローカルでラオスのある建設会社を下請けで使ったのだが、どうもその会社と日本のゼネコンさんの間で契約がこじれ、そのゼネコンさんは別のローカルと契約した。その理由はよくわからないが、技術的にその下請けが問題があったのでしかたがないことであったようだ。しかし、おそらくそのローカルが、土質試験室のダイレクターに泣き付いたのか、日本のゼネコンさんがどうしても早くしてもらいたいコンクリートの破壊試験を停電だとか、いろいろ理由をつけて、なかなかやらなかったのを覚えている。これも一種の意地悪仕返しだと思うが

ラオスの狭い社会では、誰と誰がどこでつながっているかもしれないので気をつけたほうがいい。もっと極端な例では、あるラオス人の妻をもつ外国人が、これまたラオス人と結婚しようとする外国人と、酒の席で喧嘩になり、すでにラオス人の妻がいる外国人氏が、ラオス人の婚約者のいる外国人氏に酔って暴言をはいたらしい。ところが、あとでわかったことだが彼らが結婚してみても、お互い奥さん同士が親戚であることが判明した。こうなると困ったものである。

親戚なのでお互い付き合わなければいけないのだが、酔ったはずみで暴言をはいたのに後で気がついたら親戚だったとは。

よって教訓。ラオスの社会ではとにかく狭い。日本のように赤の他人なんて極論をいえばラオスにはいない。従って、ある中国系ラオス人でビエンチャンで有名な人が「俺がもし馬鹿なことをしたら、ラオス国民 450 万人全員に知られてしまう。だから夢夢、この国では馬鹿なことをしないように」

( 1 3 4 ) **gəø8k2kf** (パ・ンター・ファド)

**gəø8k**「したくなる」 **2kf**「叩く」と辞書には載っているがこれは稲刈りをした後御米を叩いて籾を穂からとりだすことをいう。しかしこの場合は「マンコがしたくなるほどいい女」というエッチな意味になる。

( 1 3 5 ) **oŋmɔ̄m** (ム・ム・ム・ム)

これは **xəŋkxk** (プ・プ・プ・プ) と同じ意味である。ようするにあまり良く分かっていない状態をさす。ちなみに中国語では、「リソ・リソ・サ・サ」というらしい。これは「二二、三三」である。どうしてだかわからない。

( 1 3 6 ) 会議のラオス語

会議などで使うラオス語は、ちょっと堅苦しいものであるがエッチな意味を含むものもあるので面白い。例えば以下のようなもの

**1β̄β̄** [əskɔ̄β̄] (ニ・ルム・バン・ム)

**1gŋ̄** l v C [əskɔ̄β̄] (ニ・トウ・ツ・バン)

β̄β̄ 「下」 [əsk 「問題」 oβ̄ 「ひとつ」

gŋ̄ 「上」 l v C 「ふたつ」

これを訳すと「下には一つ問題がある、上には二つ問題がある」ということになる。これだけだと会議などでもよく言われるいい方であるが、エッチな意味を含んでいるので注意しないとイケない。下にある一つの問題とはマンコのことで、上にある二つの問題とは

オッパイのことである。

**decsoAlvC9fgrf** (カム・ネ・ツ・チュット・トゥン)

**de**「掴む、把握する」で **9h**(チャップ)と同じ意味。

**csOA**「しっかりと」 **lvC**「二つ」 **9f**「点」 **grf**「上」

ということで「以上の二点をしっかりと把握する」ということであるがこの場合はだいたい「理論」と「実践」を意味する

**grfltfu**(イッサデー) **xt8yf**(パティバット)の2つであるが

エッチな意味で考えれば「上の2点をしっかりと掴む」というとオッパイをしっかりと掴むという意味になる。

また **csOAsod9f]p** (ネ・ナック・チュット・ム) **sod**「重い」

**csOAsod**で「重点をおく」という意味になり、「以下の点に重きを置きます」という意味になる。しかしエッチな意味で考えれば「下を重くする」要するに「下半身を硬くする」という意味で「オチンチンを勃起させる」という意味にもなる。

### (137) 難しいことをやさしく

NGOの通訳で、ビエンチャン県の田舎に行った時の話である。自然農業のセミナーで、三村の農民を集めておこなった。その日は1つの村の農民が、セミナーの会場である小学校に来るのが遅れたので、NGOのラオス人スタッフがゲームをやった。そのゲームというのは、紙を黒板に貼り付けて農民一人、一人に人の絵を描かせる。ひとりが鼻だけとか、口だけとか足だけとか、人間の体の一部分ずつ描かせる。一人で描くのではないのでバランスがとれていないので出来はお世辞にも良いとはいえない。

農民に描かせる前に、ラオス人スタッフが一人で描いた絵の方が上手にできている。しかしここでもしこの絵を破るとする。みんな協力して描いた絵は、確かに上手にはできていないが皆で力を合わせて作ったものである。これを破ってしまうと農民ひとりひとり残念に思うであろう。悔しいであろう。なぜなら共同の作業であるからだ。

もしラオス人スタッフが描いた絵を、彼女自身が破って捨てたでしょう。農民は自分がやった仕事でないのに別に悔しい、もったい

ないとは思わない。

このようなことで農民が、公共の物を大切にしないといけない。農民参加型のプロジェクトでないといけないということを、ゲームを通じて楽しく農民に理解させるのである。

これを見ていて非常に参考になった、勉強になった。公共のものを大切にしよう。とか農民参加型のプロジェクトでないといけない。などという理論を難しく説明するより、簡単で楽しくゲームを通じて難しいことをやさしく伝えていく技術というのが本当に大切な技術ではないだろうか。

わたしもラオス語の通訳として、例えば「持続的経済発展」という専門用語をどのようにラオス語に訳していいか、悩む。

**dkor fntokgl f4tdy1jkC8gpc** ということになるのであるが、それよりもこの難しい単語をやさしいラオス語でいかに説明するか、そのほうが大切なことだと思った。

(138) **c8tdtxvCgxh** (テ・ホッ・パオ)

**c8t**「蹴る」 **dtxvC**「缶詰め」 **gxh**「空」

空の缶詰を蹴ると音がでる、このように年をとってもまだ元気がある状態の人を言っている。

(139) 日本の草

・ **[spk/ʃ]** (ハイ・ニャー・ファラン)      ・ **[spkpxjɔ̃]** (ハイ・ニャー・ニョン)

・ **[「葉」 spk「草」 /ʃ「フランス」 pxjɔ̃「日本」**

「フランスの草」はこれは第二次大戦の時にフランスがラオスにもちこんだ草で、フランスの兵隊がラオスに来てそれと同時にこの草がラオスに繁殖するようになった。これは止血ような薬になるということである。これは私がJVCの自然農業のセミナーの通訳でラオスの農村に入った時に、村人に教えてもらった。かれらはこの葉っぱをポリタンクにいれて水をいれてこの葉っぱを腐らせて上水を肥料として野菜にかけるのである。このやりかたはシェンクアンのほうでやっていた方法で、ベトナム式のやり方のようなのである。ここで一緒にいた日本人が「日本の葉っぱ」はラオスにあるか？とラオス人に聞くと、彼のこたえが「ゴルフ場にあるだろう」という答え

で本当に日本人として恥ずかしかった。

ラオスもアセアンに加盟したことで、アセアンの会議は、グリーン  
の会議もあるとのこと。要するにアセアンに加盟したらゴルフが  
出来ないと他の国の人達と付き合えないので、ゴルフは必修科目で  
あるようだ。

しかしゴルフ場は除草剤などで、農薬をどんどん使うしその使用  
が回りの環境を汚染しているのは、明らかである。私の友人で埼玉  
県の小川町で有機農業をやっている人がいるが、近くにゴルフ場が  
できる計画が出て来た時、反対したそうである。

このような政治家がグリーンで、お付き合いするというのは、日  
本が東南アジアにひろめたやりかたなのだろうか。もしそうだとし  
たら恥ずかしい。

### (140) **vkp** (ア-イ) 「兄」と **ohC** (ノ-ツ) 「弟」

ビエンチャンである日本の会社の事務所で働いている日本人の女  
性に聞いた話である。彼女、一応その事務所をまかされていて、月  
に一度程、日本人の上司が来るが現地の事務所を任されている人だ  
る。年は聞いていないが恐らく20代の後半から30位と思われる。  
彼女が仕事などで、ラオス人と話すどうしても相手は、小娘  
と思って(ノ-ツ)と呼ぶ。そして自分のことを(ア-イ)と言って話し  
を進めるとのこと。こうなるとビジネスの話でも、年下に見られて  
(ノ-ツ)と言われると損である。ビジネスは本来は対等の関係で交渉  
がはじまるのに、いきなり会ったときから弟扱いされたら、これでは  
不利である。

ラオス人は初対面の人でも年を聞くのは、相手をどのように呼ん  
だらいいかその確認の意味もあるのではないだろうか。それにより  
自分がその話し相手にとって **vkp** であるか或いは **ohC** であるか、  
判断して言葉を選ぶ。誕生日が1ヶ月でも上の場合は鬼の首を取っ  
たように、「私は貴方の **vkp** だ」と喜んでいるオヤジがよくいる。

そしてそれが分かると、**vkp** と **ohC** の関係がはっきりわかり、  
その呼び方で会話がすすむ。しかしこういうのは日本人にとって難  
しいことだ。日本人は敬語が複雑で、たとえ年が少し位、自分より  
年下でも、ラオス語のような言い方はしない。こちらへんが上手く  
状況にあわせて使い分けられると、ラオス語というより、ラオス社

会がわかっている人となる。

しかし、日本のプロ野球の外人選手の場合はどうだろうか、テレビのヒーロー・インタビューなどで、日本選手は自分のチームの日本人の先輩選手には、長島さんとか、王さんとか、ちゃんとさんを付けて呼んでいても、外人にたいしては、自分より年上なのにクロマティーとかシピンとか平気で呼び捨てにしていると思う。

これも外人だから関係ない、あいつらは、ファースト・ネームで呼び合っているから自分達も呼び捨てでいいのだ、といった感じなのだろうか。ラオス人もその辺は同じ感覚で、当然ラオスの常識なら **vkp**AKIO と呼ばないといけないのに、AKIO と呼び捨てにする場合が多いので、このへんはおあいこかと思う。また私は女房が中国人なので、時々アー・ヒアと呼ばれる事もある。これは中国語の方言、潮州語の阿兄で、親しみをこめて人倫関係を表わす時に使う呼び名である。こういった言い方は華僑社会ではまだまだ使われている。

私自身ここいらへんの使い分けはまだ上手くできない。JICA の研修監理員などの仕事で日本に来るラオス人の研修員のコーディネーターをやる場合も、いつも困っている。相手が年を聞いて来るとサバ読んで答える時もある。

ということで、この日本人の女性の苦勞がよくわかる。この使い分けができれば、日本人というよりもラオス人という感じだろう。ということで、この問題は我々日本人だけではなくて、華僑の連中もラオス語、タイ語の使い方には戸惑うようである。富田先生のタイ日辞典に興味のある個所が載っていたので、抜粋して紹介する。

我 **vkp**(**ㄍ**) 潮州語の一人称代名詞,これを用いた時には、2人称には **IN**(**ㄌ**) を用いる。タイ語の代名詞は日本語の代名詞と同様に階級差を表わすので、そのような上下の観念から開放され、親しい者同士(男性が多用)対等の立場で非公式な場所で物を言うような場合に、あるいは努めてそのように振る舞う時に **vkp IN** を用いるが、華僑と話しをする時にも親しみを増すためにこの代名詞を用いることがある。また老華僑がタイ語を話す時にもこの **vkp IN** を用いることがよくあるのは上下の階級差を表わすタイ語の代名詞の誤用を恐れるたためではあるまいか?

アンダーラインは私（村山）が引いたが、ここで富田先生がおっしゃった意見に私も同感する。華僑とはいえ彼らもタイ語の上下関係を表わす代名詞に、我々日本人と同じように戸惑ったのだろう。わたしは潮州語にタイ語のような上下関係をしめず代名詞があるかどうか知らない。標準語中国語には、そのような煩わしいのはなくて、我と（ニー）丁寧な言い方だと（ニン）だけだと思う。どちらにしる彼らにとってタイ語、ラオス語は母国語でないので、上手く喋れないのは当たり前である。

そのため彼らが会話のなかに、中国語を取り入れたのなら、我々日本人も対策はある。日本語でMrは（さん）ということのをラオス人に教える。そして会話のなかではこの（さん）をいれて **vhp** という、上下関係がはっきりわかる単語はつかわない。実際日本に研修に来たラオス人も、滞在中に日本語を覚えて、彼らの会話のなかに、スッチャイさんとか、ウンケオさん、とかそんな言い方をしていた。

またJICAのビエンチャン事務所のラオス人スタッフも、協力隊員はケオさん、アサさん、ポアンさんと呼んでいた。全部名前の後に（さん）をつけて相手のことを呼べばいいのである。そしてもし相手が（さん）というのは何という意味ですか？と質問して来たら英語でMrにあたる日本語だと説明してあげればいい。そしてその場合、自分のことは **ohC** ではなくて **Ohp** でいいと思う。そうすればいいのではないか。桜レストランのオーナーの陳さんは、協力隊員とはずっとそのような会話でやってきた。本来なら我々が陳さんのことを **vhp** と呼んで、自分のことを **ohC** と言わないといけないのであろうが、私も会話の中で陳さんのことを「陳さん」といい、陳さんも「村山さん」「山下さん」という呼び方にしている。

**vhp** と **ohC** はタイ語のスペルをそのままラオス文字に置き換えただけである。従ってラオス語のとうりに発音すると本来の発音と違ってくるので、あしからず。（このコンピューターはタイ語が打てないので）

それから **ltskp**（カ-イ）という言い方もある。これは共産党の「同志」という意味であろう。一度、パクセに出張に行った時に、ミーティングであなた達2人はは関係がないですからと、慇懃無礼

に退席を求められたことがある。その時、**lvCltskp** (ソング・サーイ)は退出してくれと言われたことがある。このように言われるとなにか慇懃無礼に追い出されたな、という感じがした。

それから、NGOの仕事でビエンチャン県の田舎に行った時のことである。私が、そのNGOのラオス人スタッフに対して、

**gyUp** (ウアイ)「お姉さん」という言い方をして、彼女を農民に紹介した。そうするとそのNGOの日本人スタッフ(女性)が、そのように農民の前で言うと、農民からそのラオス人スタッフの方が、日本人より上だと思われると仕事がやりにくくなるから、

**okC** (ナング)「Miss」と呼んだ方がいいと助言を受けた。彼女の話だと、ラオスは年齢による上下関係は厳しく、またそれ以上に女性だと年上の御役人になめられるという。従って、彼女の場合は向うが、**ohC** と自分のことを言っても自分の方からは絶対に相手が年上であろうとも **vhp** とはいわないで **Ohp** (コイ)「私」と **gQ** (チャオ)「あなた」の関係でいたという。そのようにしないと対等な関係ではなくなり従属関係になると仕事がすすまないとのこと。この彼女の気持ち、私もよくわかった。このような問題は英語で仕事をしている国連の連中にはわからないであろう。

ということで、やはりラオス語は我々外国人には難しい。

しかしラオス人の間でも、この「アイ」と「ノング」ではいろいろ問題もあるようだ。私の水道局時代のカウンター・パートにたいして、ほとんど同期の年もあまり変わらない職場の男が「ノング」と呼んでいた。これもその男が上司にオベッカを使って、外国人エンジニアのコーディネーターみたいな少し高いポストについたからである。そうなるといきなり偉そうな口のきき方をするようになったとか。

このような話しを、あるラオス人に話すと、それはやりすぎであるとか。そのような場合でも「コイ」と「チャオ」の関係でいいのではないかと言っていた。

ということで、少し位が上がると、誰でも威張りたくなるので、このようになってくるとか。

(139) シアンミアンのお話

1kdyg00c- [0vC-PCs, AC (ヤ-キ-カ-セ-ブ-コグ-シアンミアン)

「シアンミアンのご飯が美味しく食べられる薬」

1k「薬」 dyg00「ご飯を食べる」 C- [「美味しい」

0vC 「 の所有格をしめす」

ある日、シアンミアンは王宮に、彼の兄である王様に会いに行きました。王様はシアンミアンに愚痴をこぼしました。

「シアンミアンよ、私は今ご飯も魚もあまり美味しくありません。お盆に料理がいっぱいそろっても、あまり食べたくない。お前はご飯が美味しく食べられる薬を持っているかい？」

シアンミアンは、「あります。」と答えた。王様は、ご飯が美味しく食べられる薬を捜して持ってくるように、と言いました。

シアンミアンの方も、明日じゅうに捜して持ってきてまいしょうと返事しました。王宮を出る時にシアンミアンは「明日は御飯を美味しく食べられる薬が来るまで、絶対に御飯を食べないで下さい。」と言いました。

家に帰った後もシアンミアンは奥さんのごろんと横になっているだけで、御飯を美味しく食べられる薬を探しに行こうともしないで、平然としていました。王様の方もそれ以降、シアンミアンの言ったように御飯を一口も食べないで、朝から昼過ぎまで首を長くして、シアンミアンが薬を持って来るのを待っていました。しかしまだシアンミアンが薬を持って来ないので、王様もお腹が空いてペコペコになりました。とうとう我慢できなくてお盆に御飯をそなえて持って来させました。王様はお盆の料理をほとんど残さず食べたので、美味しく食事ができたようでした。御飯も満腹するまで食べましたが、それでもまだシアンミアンが来るのを待っていました。

やっとシアンミアンがやって来ました。王様はシアンミアンの顔を見上げて尋ねました。「御飯が美味しく食べられる薬は手にはあったかい、俺はお前を待って待ち疲れたぞ。お腹と蝶が痛くなるまで待って、腹が減ったので我慢が出来なくて食べたんだ。」

シアンミアンはそれを聞いて、「そのとおりです。御飯というのはお腹がすいた時に食べるものです。食べたくない時は、食べてはいけません。食べたい時に御飯を食べるのが、御飯が美味しく食べられる薬です。よく覚えておいて下され。食べたくない時は、無理に

食べるといわれても喉を通りません。」言い終わって、彼は王宮から去り悠然と家へ帰りました。王様はシアンミアンの生意気な言葉を聞いて、怒り狂いました。何故なら王様は一番偉いものですが、そのやんごとなき方に生意気な冗談を言ってからかうとは、何事だ。首を切って死体を河に流してやればよいと思いましたが、3日間よく考えてみると父の戒めが頭に浮かんできました。年下の馬鹿が言っていることに、いちいち腹を立てて怒ってはいけない。その戒めを思い起こして復讐することは止めました。

(140) **glQv fglQgpNo 9f wfhjyo 7e**

(カ・オット・カ・ニアン・チュング・ダイトン・カ)

**glQ**「九」 **vq**「我慢」 **gpNo = gl fpk; oko**「長くやり続けること」 **9f**「そうすれば」 **wfh**「得ることができる」

**njyo**「切断された部分が直訳であるが、この場合は **cnf** と同じである」 **cnf** (テング)「棒状又は分厚い板状の物」

**cnf7e**「金の延べ棒」 **7e**「金」これは金訓であります。

九回我慢して、九回辛抱強く継続していけば、金の延べ棒を手に入れることができる。九はラオス語でラッキーな数字なのだろう。

(141) **[ボ-]**

これは否定語の「ボ-」であるが、強く否定する場合、会話などでは2・3度繰り返し「ボ・ボ・ボ・ボ」と言う事がある。九州出身のある女性隊員が何度も言って口癖になっていたのが帰国をま近にして日本に帰って否定型で「違います」というのをラオス語で言わないように注意したことがある。福岡の方言で女性のアソコを「ボボ」というのがラオス語の [セ] 似ているのだ。一回だけで「ボ-」と言えばラオス語でも否定の意味。福岡でも問題がない。しかし彼女の場合これを何回もいう癖があった。

昔、石頭で頭突きが得意な黒人レスラーで「ボボ・ブラジル」というプロレスラーがいたのを覚えている。彼が、福岡に来た時、当地では大騒ぎになったらしい。アナウンサーも恥ずかしくて、彼のリング・ネームをコールできなかったという話である。リン

グ・ネームをただ「ブラジル」とコールしただけである。

日本にはこういった女性の「アソコ」について色々と方言があり、

各地方でちがっている。しかしラオスの場合、こういった方言はなくて、私もいろいろ聞いてみたが例の「ヒー」で統一されているようだ。

昔、聞いた話では沖縄にMAN湖という湖があって、そこが汚染で汚くなった時「MAN湖をきれいにしましょう」というキャンペーンがなされたという。この放送を本土から来た人が聞いてビックリしたという。

それから、隊員が御酒を飲みに行き、女の子の隊員が煙草を吸うので「ひーかして」といったので或る男性隊員が「ひー持ってるじゃん」と言ったとか。このようなギャグはラオス語を話している人にしかわからないマイナーなものである。

また日本の諺に「火のないところに煙はたたない」というのがある。これを「ヒーのないところにチンポはたたない」という冗談も言える。またラオス語には関係ないが沖縄の方言で女性のアソコは（ホミー）というのだが、昔、自動車会社の日産が（ホミー）という名前の車を出して、その新車のコマーシャルが沖縄のテレビで流れた時に問題になったらしい。ちなみにラオスではこのような方言はなくて、ラオス語でいえば北であろうが、南であろうが、どこでもあそこは(ヒ-)になる。ただし山岳民族の言葉、中地ラオの言葉には、もちろん各ことば、（ヒー）にあたる単語はある。

九州の福岡に研修に行くラオス人に「ボ、ボ、僕らは少年探偵団」という歌も絶対に教えてはいけない。

ちなみに「ボボ」を連発していた森田さんも、日本に帰って協力隊ラオスOBと愛をつらぬいて結婚した。やはり「ボボ」は日本では連発しなかったようである。おめでとう。ちなみにだんなさんは岐阜県出身だったので、問題なかったのでしょうか。

(142) **gəʔhɪsɲkxəʔnɪ**

(パン・キー・トゥド・ルワ・パン・トゥド)

**gəʔhɪs** 「吹き出物よりひどい肌・皮膚の病気にかかる」

**sɲk** 「あるいは」      **gəʔnɪ** 「大使になる」

これは言葉の遊びで将来偉くなって「大使になるか」あるいは「肌・皮膚の病気になる」という2つのことをかけている。

(143) -**acsñ** (サック・ヘーグ)

これは本来「ドライクリニング」のことである。しかし「水浴び」**vk[oe]**しないで濡れたタオルで体を拭くことを(サックヘーグ)と冗談でいうことがある。夜遅くなって、水浴びするのも面倒くさいし、このような時に、サック・ヘーグでいいかな、などと言う。

(144) **w2k zlk;** (ファイアー) (プーオ)

最初の単語は「電気」という意味である。**2**の文字は本来「f」の発音になるがサバナケットでは「f」の発音が「p」に変化して(パィ-)という発音になる。二番目の「娘さん」という意味の(プーオ)も(プーシャオ)という発音にかわる。要するに(サ)の発音が(シャ)に変化する。

**w.l**も(パィ)ではなくて(パィヤ)になる。これはベトナム人の発音にもこのような特徴がみられる。

(145) **fskp** (ディー・ライ)

パクセの人の発音の特徴として「d」と「l」の音の混用です。**fskp**は本当は(ディーライ)と発音するのですがパクセの人は(リーライ)または(リーダイ)と言います。

また**c, jspel**が(イッ)という言い方になります。タイのウボンも同じ言い方になるとか。

簡単にラオスの地方の発音を説明しました。現在ビエンチャンでも色々な地方から人が集まってきてそれぞれ御国訛りのアクセントで話しています。特にルアンパバン人は、ルアンパバンのアクセントに誇りを持っています。基本的なことでは、**V**と**w**の発音がビエンチャンではどちらも(アイ)で同じであるが、ルアンパバンでは違う。

他にも詳しく調べると色々なことがわかんと思います。またルアンパバン人は習慣などもビエンチャンなどと違うようです。

ただし、現在ルアンパバンに住んでいる人は本当のルアンパバン

の人ではなくて、そのまわりのウドムサイなどから革命後移住してきた人たちです。革命の時多くの人が難民となり国を捨てて、またはビエンチャンへ行ったものですから、生っ粋のルアンパバン的人是ほとんど残っていません。その意味で江戸っ子と同じです。しかし本当は、ルアンパバン出身ではないのに（いわゆるウドムサイなどの田舎出身）なのに自分はルアンパバンを名乗る者もいます。これはタイでいえばチェンマイ出身が美人で有名なので、飲み屋の女が日本人に嘘をついて皆がチェンマイ出身と言ってるようなものです。しかし革命前は、ウドムサイ県はなく革命後ルアンパバンから分離したもののなのであながち嘘ではないのですが。やはりそこらへんの嘘はかわいいもので許されると思います。

これは、横浜市緑区长津田あたりに住んでいる人が、住所を聞かれて、横浜です。と嬉しそうに返事しているのにあたる。横浜も広くて、長津田も一応は横浜市になるが、普通の人の横浜のイメージでは中区の外人墓地とか、中華街を連想するので、長津田のほうと全然違う。しかしこれも人間の正直な気持ちで可愛い。

それとルアンパバン的人是、親切にしてくれていい関係が続いたら、非常にいい人なのだが、いったん喧嘩して関係がこじれたら修復がむずかしいとか、ビエンチャン出身のラオス人が言っていた。それとルアンパバンの女性は、宝石、金などの装飾品が大好きで、それと着るものに金をかけるといふ。やはり、日本でも京都の着倒れというぐらいだから、ラオスでもルアンパバンの女性は美しく着飾ることが大好きなのだろう。やはり昔の王都なので、伝統文化は生きているのだろう。この観察もビエンチャンのラオス人の観察である。

またラオスには、**ເຮົາຮູ້ກາ** (ワッガ カ-) という制度がある。これは田舎から出て来た人が、ビエンチャンのお寺に住み込み、御坊さんの世話をしながらお寺で生活させてもらって、学校に行くという制度である。わかりやすくいえば、日本の新聞配達の奨学生のラオス版であろう。これも朝早く起きて御坊さんのお世話、お寺の掃除などして、それから学校に行き、帰ってから行商などをして生活費を稼がないといけない。かなり大変で忍耐、我慢が必要である。ただし、本人は出家するのではない。彼等はお寺では一番最後の残り物を食べる事になる。托鉢でもらったものは最初に御坊さんが食べて、次に小坊主が食べて最後に余ったものにありつけるのである。日に

よっては托鉢が少なく、その日の食事にも困る事があるとか。彼等はあまった御飯を **gɔcsɛ**(カ・ハング) といって日に干して乾かして、腐らなくして保存食にして、後で油でいためて食べる。そういったハングリー精神で勉強するのだから、ビエンチャンの自宅の親元からかよっているボンボンには負けない。自宅通いの連中はどうしても遊んでしまっただけで勉強はあまり出来ない人が多い。

この(サグ カ-)を経験して、政府の偉い地位までいった人もかなりいるようである。おもにこれは地方から来た人で、南部の人がほとんどのらしい。そういった人が御世話になったお寺に寄進するらしい。北部出身の人が、こんな大変なことは北の人にはできない、と言っていた。これも南と北の地域差であろうか。タイでも南の人が働き者で、北がのんびりしていて、怠け者が多いとバンコクの人と言っていた。日本では北海道などの寒い所の人、我慢強いといわれているが、日本とラオスでは北と南の地域差が日本と逆なような気がする。

#### (146) 笑い話タイーラオ

ラオス人のある人がタイに行った時の話である。タイに行く前に水牛の鼻のひもで指を擦って怪我をしてしまった。タイで汽車に乗る時手すりにつかまって列車に乗ろうとしたら、指を怪我しているのにつかまれなく、転んでしまった。それを見たタイ人の車掌さんがタイ語で「どうしたのですか？」と質問した。(例によってこのコンピューターはラオス語と英語、日本語しか打てないのでタイ語の発音をラオス語のスペルで書く。)

車掌 **vtwɪtL**(アライ・ハ)

ラオス人 **gnd7; kpɪt**(スアク・クウア イ・ハ)

説明 タイ語の「ハ」は文の最後につけて親愛の情を表わす。それをラオス人は間違えてラオス語の「ハ」と勘違いした。この場合の「ハ」は擦れて傷が付くという意味である。但し、この言葉はビエンチャンの言葉ではなくて南か北かわかりませんが方言のようです。**gnd**「ロープ、紐」 **7; kp**「水牛」  
ということでラオス人の答えは「水牛の鼻のロープで怪我した」と



できる。しかしその人を批判しているわけではなくて、ここではその心理を分析しているだけである。

また協力隊員がバンコクに行ってラオス語で話して思い切り馬鹿にされたり爆笑された経験は皆もっている。したがってある隊員などは「アンニー メニャン」まで言ってこれでは馬鹿にされると思って後からあわてて「クラブ」をつけて「アンニー メニャン アライ カップ」などとのわけのわからぬ言葉を言ってしまったそうだ。したがってこういった気持ちもわからないわけではない。

タイのテレビのドラマでも、金持ちの家の主人とその雇い人、お手伝いさんがでてきて、お手伝いさんが東北タイ出身なもので、バンコクの標準語がしゃべれない。一生懸命喋ろうとするのだが、バンコクの人間にとってカッペまるだしである。そして旦那さんに「お前、タイ人だったら、タイ語をしゃべろ」と怒鳴られている場面があった。たまたま妻と二人で、見ていた番組なのでラオス人の妻も不愉快な気持ちだったらしい。私自身不愉快であった、そしてタイの社会がよくわかった。

このような、表現はタイのテレビ、映画でもよくみられるようで悪いことした息子に親が、「お前そんな事したらラオスに遣るぞ」などと御仕置きするセリフがある。

それから、妻の一番上の姉は現在バンコクに住んでいる。彼女は革命の後、タイ国籍の中国人とバンコクに行き、タイ人と結婚して中華街ヤワラートに住んでいる。現在国籍はタイ国籍を取得したらしい。私と女房が日本に帰る時にバンコクに寄った際、家に遊びに行った時の話である。お姉さんは近所の人にラオスから来たとわかると嫌だから、ラオス語でしゃべらないでと女房に言っただけらしい。何故なら、近所の人皆、ラオス人を馬鹿にしているからとのことである。

フィリピンのミンダナオ島で、以前井戸掘りの仕事に行った時の話である。ミンダナオはフィリピンの南の島で、マニラ付近の言葉はタガログ語で、ミンダナオはビサイヤ語である。マニラで作ったタガログ語の映画で、主役はタガログ語を喋っているのだが、けしからんことにお手伝いさんの役はビサイヤ語になることが多いとか。

マニラのお手伝いさんは、みんな地方から出て来た人なのでそのように演出したのであろう。お手伝いさんがビサイヤ語を喋るそのような場面が、マニラではなくビサイヤ地方で上映されると映画館

のお客さんは、みんな大喜びで手を叩くそうである。  
ちなみに、フィリピンではビサイヤ語を母語にする人の人口のほうが、タガログ語のそれより1975年の段階では多かったらしい。

このように、言葉の問題は難しい。私自身も小学校の時に四国の徳島から関東の千葉に転校した時に、方言のことでいじめられたことがある。だからラオス人の気持ちがよくわかる。おそらく東京に生まれ育って、方言を知らないで育った人には、自分が普段しゃべっている家庭のなかの生活語を馬鹿にされた時の悔しさ、悲しさなどわからないであろう。そして英語のネイティブ・スピーカーとして育った人が、日本人がどれだけ英語を勉強しなければいけないか、その苦労が彼らにわかるだろうか。

ラオス語はわずか400万の人しか使っていない言語である。日本に帰っても役にたたないし、英語を勉強したほうがビジネスにとっては有利である。けれども、ここに2年なり3年なり住んで、この国の空気をすってこの国の水を飲むのならラオス語を勉強するほうがいい。そしてラオス語を勉強すればするほど、ラオスが好きになってくる。

### (147) **sɔ̌k**; (リン・サ)

これは直訳すると「女あそび」なのだが、ラオス語の場合2つの意味がある。1つは日本語と同じくHな「女あそび」である。しかしもう一つの「リンサオ」はこれはラオスの真面目な習慣で夜、女の子の家に遊びに行って、水でも飲みながらおしゃべりする。そしてお互いの事を理解しあって好きになると結婚に結びつく。しかしこれと逆に女の子が、男の子の家に遊びに行くということはない。何か特別な用でもない限り遊びに行かないようである。したがって「リンバオ」という言葉はない。

この「リンサオ」に行く時間は夜の7時半から8時ごろがいいとされている。というのは女の子の家が食事の時間は、そのしたくまたはあとかたずけで忙しいので、その時間は避けるのが常識である。女の子は、来る人は拒まない。誰でも遊びに行ってよい。また逆に女の子の親で、娘が年頃になっているのに誰も若い男が「リンサオ」に来ないのは心配らしい。自分の娘は器量が悪いから誰も男の人が来ないのかな、などと悩むわけである。しかし「リンサオ」の時は両親は同席しない。挨拶したら別の部屋に引っ込むのが普通である。またライバルの男同士が「リンサオ」の席ではちあわせになること

もある。そんな場合、落ち着いて喧嘩なんてしてはいけません。そうすると一発で嫌われる。私もこのリンサオに男どうしが鉢合わせになっているのを見たことがある。(私は、第3者で関係なかったが)これは男のほうが可哀想な気がする。

また女の子の家族と一緒に食事する機会があったとしよう。女の子の家で「食事を一緒にしましょう」と誘われた場合である。この場合も、他の家族の人がみんな食べ終わっているのに、いつまでも食べているのはお行儀が悪いらしい。せっかく頑張って毎晩「リンサオ」に行っているのに、こんなことをして女の子に嫌われたラオス人を知っている。

「リンサオ」は、もし好きな女の子ができたなら毎晩かよう。たとえライバルがいたとしても、毎晩かよえば女の子もそんな男の情熱に負けて好きになるものらしい。これは私の配属先のカウンターパートから聞いたことである。ただしそんな場合でもはっきりと「好きだ」と言わないといけない。また「リンサオ」は昔の日本でもあったらしい、このラオスの話を九州出身の50才くらいの人に話すと、昔はこのような習慣が日本にもあったとか。したがってラオスと日本もよく似ているのである。

#### (148) タイ語とラオス語の違い

タイから友人がラオスに遊びに来たので沼に魚とりにでかけた。

**CS** (ハ-) (投げ網)を持って2人は出かけたのだが、沼の中に切り株があると網がひっかかるので、最初に投げる場所を確認しないとイケない。

タイ人 **w hu** (マイ・ミー・ホ-) 「木はありますか？」

ラオス人 **w hu** (マイ・ミー-) 「木があります」

しかしこのタイ人はラオス人が言った **w hu** (マイ・ミー-) 「木があります」をタイ語の **j u** (マイ・ミー-) 「ありません」と勘違いして網を切り株のある所に投げてしまって網が破れてしまったとか。これはタイ語とラオス語の声調が違うので起こった誤解で、タイ語の **j u** がラオス語の **w hu** と同じ声調になる。

これはあくまでも笑い話であるが、隊員のなかにも声調で苦労した人は多いと思う。

ある隊員がラオス人に家を紹介してもらって、どんな家かと思って尋ねたところ、ラオス人が言うのには(バーン・マイ)だとのこと。しかし日本語のカタカナのルビで(バーン・マイ)といっても、ラオス語の発音では5つもある。彼は(1)の「新しい家」だと誤解していたが、実際に連れて行ってもらうと(2)の「木の家」だったらしい。実物を見てみて古い「木の家」だったので確かめると、彼の聞き間違いだったとか。実際この声調の違いは聞き取るのは難しい。

(1) [ko.s, j] 「新しい家」

(2) [kow h] 木の家

(3) [ko.s, ] 「絹の家」

(4) [ko.s, h] 火事の家

(5) [khg p] 「マイちゃんの家」(これはうちの義理の妹の梅)

このようにカタカナのルビで(バーン・マイ)という発音でもラオス語の声調で5つもの意味にかわる例がある。

これについては、高子音 中子音 低子音にそれぞれ声調記号マイ・エークとマイ・トリーがつくと声調が変わってくるのでその法則を覚えるべきである。これについてはまた別の機会に説明する。

発音も難しい、レストランである女性隊員が煙草を吸おうと思っ

て  
Oed[aw2 (コー・カップ ファイ) といったつもりが「コーヒー」がでてきた。

この時私も現場にいたが、ウェイターは女が煙草なんて吸ってはいけないと思って、わざとコーヒーをだしたかもしれない。なにしろその女性は煙草が大好きで、ラオス人の前でもよく吸っていた。ちなみにラオスの若い女性で煙草を吸う人は、ほとんど見ない。ディスコの女の子(水商売の女の子)でさえ、私は吸っているのを見たことがない。だからもしラオス人に似ている日本人が煙草を吸っているのをみると、これはその手の商売女以上のものと思われることだろう。外人なら彼らも別の人種だと思うだろうが、同じ東洋人の女の子が煙草を吸っているなんて、本当にラオス人にとってビック

りなのである。もし吸いたい人がいたら、公衆の面前で吸わないことが大切である。

**0** をください」 **dtw**「マッチ」 **dtg**「コーヒー」

それから、クービエン通りにおいしいチキンの店がある。この **vqvdj**(**ワブ・ガイ**) はおいしいので有名である。これを食べるとバンコクのケンタッキーのブロイラーの鶏肉なんかとても食べられない。この(**ワブガイ**)の発音であるが間違えて(**ワブパイ**)といわないように。しかしこの「ワブパイ」の連想でこの単語を覚えてもいいかもしれない。そうすると次から鶏肉にむしゃぶりつくのが楽しくなるかもしれない。この店はおいしいので本当に有名である。わたしは隊員時代、毎週土曜日のソフトボールのあとみんなで生ビールを飲みに行つてつまみにこの「ワブパイ」いや「ワブガイ」を食べたものである。

さてもう一つラオス語とタイ語の違い

ラオス語でコップは **9vd** でビールやペプシなどの瓶が **cdh** になる。

しかしタイ語では瓶が **0; f** になり、コップが **cdh** になる。

東京外国語大学タイ科OBで、バンコクのタマサート大学に留学していたある日本人が、ラオスに遊びに来た時の話である。その一行の日本人がルアンパバンのレストランに入ってビールを注文した時である。コップが人数分なかったので、**vdlvCcdh** といったら女の子が間違えてビールをあと2本持ってきた。

タイ・ラオス似ているようで違うところもあるので気をつけよう。

(149) **8es, kdI6** (タム・マクツ)

これはいわゆる「パパイヤ・サラダ」と訳されていていわゆるラオス人が大好きな食べ物である。これはラオスに住んでいる人なら外国人でも誰でも一度は食べたことがあると思う。したがってここでは作り方などの詳しい説明は省略するが面白い話をひとつ。

女性が、これを食べるとアソコが痒くなる。またどういうわけか生理の前に食べたくなるらしい。食べ過ぎると、女性はオリモノが沢山でるらしい。出産後は、ラオスの習慣の

食事制限 **7t]e**(カム) **vksko**(アハ-ン)でこれを食べてはいけないとのこと。

中国人は **xkcf**d(パデーク)をいれたこの「パパイヤ・サラダ」が食べれない人が多い。私の、義理の父もこの(パデーク)は食べられない。パデークは魚を発酵させて作るもので、ラオス人の食生活のなかで欠かせないものである。

日本人でも味噌と醤油がないとご飯が食べられないのと同じである。質の悪いパデークは臭い、しかし良質のものは臭いにおいもなく、良質のパデークで作った「タムマークフン」は本当においしい。サムセン・タイ通りにある **7q]k;** (クア ラオ)という

ラオス料理のレストランの「タムマークフン」は本当に良質のパデークを使用していて、色も茶色である。これは匂いも臭くなくおいしいので是非、食べてみるといいだろう。しかし質の悪いパデークは最高に不味い、食べてみて臭いのですぐわかる。したがっていいパデークを食べると、病み付きになる。

単語の説明

**8es, kdI6** は「叩く」という意味で **8es, kdI6** といえば英語で

「パパイヤ・サラダ」になると思う。**7d** (コック)は石の臼みたいなもので「パパイヤ・サラダ」を作る時に使う。**lkd** (サ-ク)という木の棒で叩いて作る。これを理解していると **8e7d** という隠語の意味が理解できると思う。要するに、その手の人が「あなたは、

**8es, kdI6** が好きですか？」などと言ってきたとしよう。これは要するに「オマンコが好きですか？」ということである。

**8es, kdI6** を作って入るところを実際に見ていると、**lkd** を **7d** の中で激しく上下運動させている。これは見方によっては、SEXを連想させるわけである。こんなことを覚えていれば、次回この「パパイヤ・サラダ」を食べるのが楽しくなってくる。さてラオスでは安いパパイヤであるが日本では高いので、人参を代わりに使っても結構良い味がだせる。

### (150) ラオス語タイ語の関係

テレビのチャンネルをひねるとタイ語の放送が見れるこの国において、近年テレビの影響でラオス語が変りつつある。これは外来語といえばほとんどタイ語であって、そしてなおかつ特別に勉強しなくてもラオス人はタイ語がわかるので、その影響は大きいと思う。

「ビエンチャン・マイ」という日刊の新聞にもこのことが書かれていたのでここに紹介する。

A) **s<sup>^</sup>Cskprkp, kd** と言うべきところを **glyclt** と言う。

**glyclt** はタイ語である。(多い、たくさんという意味)

しかし、私自身ラオス人が **glyclt** と言っているのは聞いたことがない。

B) **-C** または **-jC** と言うべきところを **C-C** という。

(追い抜く) という意味。**C-C** もタイ語である。ラオス国営放送では **C-C** を使っている。

C) **1krNg nC** と言うべきところを **1klts, 5wr** と言う。

**1krNg nC** は地方地域の薬で日本でいうと漢方薬である。この場合もタイ語である。

D) **xqxaI dalk** と言うべきところを **vtoʃa** という。これはテレビで森林資源を保護しましょうなどとやっているが、その「保護する」という単語で、**vtoʃa** は、これもタイ語である。

E) **s, kd3x,** と言うべきところを **cvəgxu**

という。これはいわゆる「リンゴ」である。

**cvəgxu** というのは英語のアップルからきたタイ語の発音である。

しかしこの **s, kd3x,** が純粹のラオス語かどうか、私はよくわからない。何故なら、ビエンチャンではリンゴなどはなくてタイおよび中国から輸入されているからだ。タイ製のリンゴはワックスがかかっていていかにも農薬だらけで、実際には10日くらい腐ら

ないでいるようだ。ラオス人もタイの農産物は農薬だらけで危険だと言っていた。養殖の魚も同じくである。(このマーク・ポームといういいかたはフランス語からきているらしい。マークはラオス語の果物の名前につける接頭語であるが、ポームはフランス語のリンゴであるとか)しかし最近では、ウドンタニのスーパー・マーケットでは無農薬の野菜が売られているとのこと。タイ人でこのように健康にいいものをお金をだして買う人が出てきたのである。はたしてラオスは将来、肥料・農薬といったもので食料の増産を計っていくのだろうか。

F) **0a7e** と言うべきところを **4hpmvC** と言っている。

**4hpmvC** はタイ製の万金油の商標であって、私自身もこちらの商標を先に覚えていて、これがラオス語だと思っていた。またラオス国営テレビのCMでも、この宣伝でタイ製の製品のCMはラオス語にふきかえて放送するのだが、商標はそのまま変えないで放映していたので私も誤解していたのだ。実際、商標は変えることができないので、そのままどんどん入ってくるだろう。

G) 若い未婚の男女として **-b** あるいは **7βa** と言うべきところを **c2o** という。 **-b** **7βa** は「恋人」である。

H) **wxdjo** または **]kdjogou** と言うべきところを **[jpm** と言う。 **[jpm** というのは英語である。英語のサヨナラの「バイ・バイ」である。

I) **l@k** と言うべきところを **l@Egcy** と言う。

これは空色・青色をタイ語で **l@Egcy** と言うが、ラオス語では **l@k** という。 **2k** は「空」なので **l@k** だと「空色」となる。

このようにラオス人の生活のなかにタイ語はどんどんはいつてきている。そしてテレビ、タイのミュージック・テープなどを通じて若い人たちにどんどんその影響を与えている。例えば、これが全然理解できない言語であればまだその影響は強くないのだが、特にTVの力は大きい。空中を飛んでくる電波だけは、防ぎよう

がない。それとこの記事をラオス人に読んでもらって感想を聞いてみたら、ここまでうるさくいわないでもいいのではないかという人もいた。要するにタイ語といってるが、これだってラオス語ではないかということである。

(151) **3m]tlh**(トラサップ)

これはご存知「電話」である。筆者は1982年ころボランティアでタイの東北地方に1ヶ月いた時のことである。水道も電気もないところにいたもので毎日たいへんだったが、おかげでサバイバル

タイ語を覚えることができた。なにせ英語など田舎のタイ人はできないものであるから。

その後バンコクに戻ってきてあるタイ人(筑波大学留学生)に **3m]tlh]fisoL**(電話はどこですか?)とタイ語で聞かれた。

私は、彼女は日本に留学生で行ってるので、日本語もペラペラである。私は、おそらくバンコクでもあの日本の有名な日本映画「寅さん、男はつらいよ」がどこかの映画館で上映されているのだと勘違いした。

それで「映画を見にいくのですか」などとトンチンカンな返事をして笑われた。タイ語の電話(トラサップ)と「寅さん」の発音が似ているので、それとその人が日本にいてその時タイに休暇で帰っていた人だったので誤解が生じたのだ。それとタイの田舎では当時電話などなかったので、毎日サバイバルで覚えたタイ語の語彙にも「電話」などなかったのである。

というわけで恥じをかかないと言葉は上手にはならない。

他にも、まだ会社で働いていた時、アフリカのマダガスカルに仕事で行った。途中ケニアのナイロビに立ち寄って、商社のオフィスに行った時の話である。商社の人というと皆英語が上手で国際的なビジネスマンという印象で緊張したのか大失敗をした。若手の社員が私に「アメリカのかたですか?」というので、ビックリして「いいえ日本人です」と答えた。よく聞いてみると彼は私に「あー、メーカーのかたですか?」と言ったのだ。それをわたしはアメリカ人と間違えられたと思ったのである。本当に今から考えると恥ずかしい限りである。

これはまだ笑い話して終わるからいいが、こんな例もある。

ラオス語で、**NU**「今日」を、**BoU**「お前」と発音してしまい「こんな言い方、旦那にも言われたことがない」とその人が怒った。その時、わたしはこの人が何でこんなに怒っているのかわからなかった。普通は夫婦でもこのようには言わない。

また **lp;** というのも本当に仲の良い同年輩の同性が相手をお呼びいいかたである。これはラオス人も何人もいない。本当の友達で酔払ってお互いを「シオ」と言ってるのは疑わしい。

わたしはこの「シオ」を年上の人で尊敬しているある人のことを「彼はわたしのシオだ」と言ってラオス人に怒られた。そおいう場合は **vhpIa** と言わないといけないそうである。UNICEF に昔いたゴンザレスというキューバ人が、水道公社の当時のダイレクターのポリブン氏のことを「あいつは俺のシオ」だと言っていたが

これを聞いたラオス人は「このようないいかたは失礼である」と言っていた。彼は中南米の軽いのりで「アミーゴ」いわゆる「友達」

の軽い気持ちでこのように言ったのだろう。

**lp;** と **lp;** は意味が違う。**lp;** はオマンコをしていて、「いいわー感じる」と女がヨガっている時にこの **lp;** を使う。マイ・エークの記号がついているかいないかによって意味が違って来るので、注意しないとイケない。

それから、わたし自身の失敗ではなくて、昔ラオスの中国人学校に留学していた人で、その後台湾、日本の筑波大学の大学院に留学していた人で、中国系タイ人のヨンさんの話である。

吉田さんという、日本人がラオスの女性と結婚することになり、私も、ヨンさんもお手伝いした。無事に結婚の宣誓式が終わり、その夜、日本食の桜レストランで、新婦のお父さんや親戚も呼んで日本食を食べた。その時、ヨンさんが吉田さんを義理のお父さんのところに連れて行って、吉田さんに「イーポー」ですよ、と紹介した。

それを聞いていた、日本在住20年以上の、ラオス人女性で旦那様が協力隊OBの人が「イー」は良くない言い方である。そのようないいかたは止めた方がいい、と言った。しかし私が思うに

ヨンさんは悪意があってそのように言ったわけではない。彼は、その場の雰囲気を楽しくしよう、吉田さんと義理のお父さんの間を親密にしようと思ってそのように言ったのである。タイ語でいえば、(ク・ポ-)といえよよかったのであろうが、やはりヨ  
ン

んとしてもこのへんはラオス語は母国語ではないので、うるさいおばさんに小言を言われたかたちになった。このあたりは先にも、私の経験を書いたが色々誤解が生じるものである。でもなにもしゃべらないと会話が進まないのこのようなことはしょうがない。やはり言葉を覚えるのは色々トラブルがつきものである。今となっては懐かしい思い出である。言葉が上手になるにはとにかく間違ってもいいからしゃべらないといけない。でもしゃべれば外国人がしゃべるのだから間違いが生じるのは当然である。もしこのような誤解を生む経験をした人は、外国人のしゃべる言葉にたいして寛容になれるのではないだろうか。

#### (152) 中国語

1975年以前はビエンチャンでも華僑はその数も多く、みんな地域ごとにかたまって住んでいた。ラオス人との交流はあまりなかったようである。したがって各家庭では出身地の言葉で(潮州語、客家語、広東語)などで話して、中国人のお互いの共通語として北京語をしゃべり、ビエンチャンの中国人学校(寮都学校)では北京語を勉強していた。

またこの寮都学校にはタイの華僑の子弟がたくさん勉強に来ていたらしい。タイでは中国語の教育を制限していたもので、子供に中国語の教育を受けさせてあげたいというタイの華僑が、子供をビエンチャンに留学させていたのだ。したがって寮都学校の卒業生でウドンタニやバンコクで自分で商売をはじめて社長になっている人が何人もいる。身近なところではノンカイにセンスアンというミニマーケットがある。名前を知らなくてもビエンチャンにいる日本人なら一度くらい買い出しで利用したことがあるだろう。食料品・雑貨などなんでも狭い店に置いてある。その女社長は、寮都学校の

OGである。婿養子にバンコクの中国人をとっている。

革命の後、中国人の金持ちは外国に逃げて、またラオ政府の中国人学校にたいする締め付けなどにより、中国人の家庭のなかで

もだんだんラオス語をしゃべるのが主流になってきた。その結果、中国人でも20代そこそこの子は、ほとんどラオス語だけで北京語も下手で、父母としゃべるのもラオス語だけで親をなげかせている。

わたしの妻の家族は客家であるが、15人兄弟で9番目の(1964年生まれ)くらいまでは客家語もしゃべれるが、一番下の妹(1974年生まれ)は下手である。やはりこのあいだの時代の流れがこのような現象を起こしたのだろう。私の妻くらいの世代だとまだ、中国語ができる世代であるが、それ以降になると難しい。私の義父もラオスに40年以上住んでいるのに、ラオス語が下手である。ある人によるとこれでも革命前よりは上手くなったとのこと。これから察するに、革命前は中国人の数も多く、ラオスの経済を牛耳っていたので別にラオス語ができなくても商売はできた。中国人のコミュニティーのなかで暮らしていったようだ。したがって革命によって、華僑のラオスへの同化が促進されたのである。

中国人学校のレベルも低下して、革命前は台湾や香港から優秀な先生が教えに来ていたが、革命後彼らは帰国、その代わりに中華人民共和国から先生が来ているが、昔の方が教え方も厳しく質も上だった。昔はラオス語を教室でしゃべると罰金をとられたらしい。現在の寮都はOBが先生として教えているが、しょせん寮都を卒業しただけの人が教えているので、先生の教える中国語もあまり上手ではない。先生が間違えた発音で教えるので、それを聞いた生徒が間違えた発音を覚える。誤りの拡大生産で親を嘆かせている。

ラオスのなかではパクセの中国人がいまでも家庭のなかで中国語を使っている人が多い。次がサバナケットで、ビエンチャンの中国人が一番中国語が下手であるとか。しかし60-70歳のビエンチャンの華僑の老人たちは、やはりラオス語より中国語である。

パクセの中国人学校は、本当は正式には認められていないが高等部があるとかである。タケクにも以前中国人学校があったがいまは名前だけ中国学校で、実際は中国語は教えていなくてラオス語の学校である。ちなみにタケクは現在中国人の家族は10家族ほどで逃げた中国人の後に来たのがベトナム人であるとか。

それから革命前の華僑はほとんどが台湾を支持していたようである。サムセンタイとアヌーの交わる交差点の傍にベトナム人協会がある。これは昔、台湾政府の事務所があったところである。歴史の移り変わりを物語っているようだ。

革命後、その時の中国系の人で台湾に移住した人もかなりいるようである。台湾政府が中国人にはパスポートを出してくれたらいい。

また中国人でも、タイ国籍を持っていた人はタイに戻って商売を

始めた人もいる。上手くいった人はそのままタイに定住して、上手くいかなかった人は難民キャンプに入って、ラオス難民として第3国に定住して行った。

(153) **sáwjsángxá** (ラックガイ ラックハ°ット)

**sá**「盗む」 **wj**「鶏」 **gxá**「アヒル」

ということで「鶏を盗む、アヒルを盗む」ということで試験の「カンニングをする」という意味になる。これは鶏を盗む時は、こっそり素早くしないと鶏が泣いて見つかってしまう。

ビエンチャンの中国人学校ではカンニングが見つかりと1年落第ということもあり、これは小学生でも落第しているので結構キビシイものである。また試験の点数が悪いと落第ということでもう一年、

同じ学年で勉強しなおすことになる。これをラオス語では **8dshC**

(トク・ホグ) と言う。ビエンチャンの中国人学校寮都学校では、5人の先生がいて試験の点数をつけているので、先生を買収してお目こぼしをもらうことはできないらしい。またカンニングが見つかりと、「私はカンニングしました」というプラカードみたいなものをつけて学校の中を歩かされるとかである。

しかし、この寮都学校も革命の後、台湾の先生が追い出されて中華人民共和国の先生が何人か来たが、レベルはがた落ちしたらしい。むかしは寮都の中学3年を卒業すると、中国語もかなりのレベルであったが、いまは全然駄目であるとか。先生も寮都を卒業した卒業生が教えているが、中学3年しかやっていない人が、教えるのだから、レベルは察しがつく。そして中国語のネイティブでないのに、発音もラオス人がしゃべる中国語になる。北京に留学していた日本人に聞いてみると、Rの音が出ていないとのこと。このRの音は北

京語の特徴ともいえるものだが、やはり南方華僑には難しいようである。ラオス語もRの音がない。しかし逆に、このRの音がだせないで、聞き取りやすいとか。

またウドム・ビエンチャンも昔はフランスのリセという高等学校であった。授業はフランス語でおこなわれ、テストの採点は答案用紙をすべてフランスに送ってそこで採点した。ここもかなり厳しくて落第して、弟が兄より進級がはやくなったケースもかなりあったとか。

(154) **8Qwɔj sɰɔɔdy**    **8Qgɔɔ shɔɔjɔ**

(トムカイ チャオ コン) (トム チャオ カイ コン)

さてラオスのお正月に、うちに遊びに来て下さい「鶏を絞めて煮てあなたに食べさせてあげるから」というのは上の2つの文のどちらでしょう。

**8Qwɔj** は「鶏を煮る」で「鶏肉を煮たもの」である。鶏を絞めて殺して羽をむしって丸ごと煮たもので酒の肴には最高である。

**.sh** は使役動詞で次に来る **gɔɔdy** と一緒になって **sɰɔɔdy** で「あなたに食べさせる」という意味になる。

構文としては「**.sh** A + 動詞」で「Aを動詞させる」という意味になる。次の文は構文の単語の順序を入れ替えたもので、**8Q** は動詞で「煮る」という意味の他に「騙す」という意味がある。したがって **8Qgɔɔ** で「あなたを騙して」という意味になる。

**.shɔɔjɔ** は「鶏に食べさせる」だから「おまえを騙して鶏に食べさせる」という意味が全然違ってくる。

このように2つの構文は、使っている単語は同じなのだが、構文の中での語順が違ってくるので全然違った意味になる。これは悪い冗談で「鶏肉の煮たのを食べさせてあげる」が「お前を騙して鶏に食べさせる」というブラック・ジョークになる。

このような例文で、文法を覚えるとラオス語の学習も楽しくなる。

(155) **1t4konɔ**    **1t4ko8ɔ**    **1t4ko8ɔɔ**

これは「大使館」(サントウド)なのだが正しいスペルは最初の単語である。あとの2つはある日本人がこのように発音して変な意味に

なってラオス人に笑われた例である。

2番目の単語も、この発音を日本語のカタカナで表わすと最初の単語と同じく(サウト)になる。しかし **nb** は「使節・外交官」**86**「肛門」という意味である。最初の(トウト)は有気音で、二番目のは無気音である。従って、大使館の(トウト)は有気音で発音する時、息がでる「Th」の音である。しかし2番目は「T」の発音である。**lt4ko** は「場所」

三番めの **8f**(トット)は「おなら」という意味である。しかしこれもベトナム語で「良い」という単語と同じ発音になる。ベトナム語で「大変よい」は(トットラム)である。実際に「大使館」という発音がうまくできなくて「肛門の場所」「オナラの場所」と発音してラオス人に笑われた例があるので注意してください。

(156) **gylg ps^Crt [kC zq. 8h67eg p**  
(アオ・ミア・ルアンパバン・プア・タイ・バン・カップ・ミア)  
**gylzq7qvm 8h rjhcskp**  
(アオ・プア・コン・タイ・タイ・ピノーン・ライ)

ルアンパバンの奥さんをもらうと、旦那さんは尻にひかれる。南部出身の亭主をもらうと、親戚がいっぱいたかってくる。これは昔、ビエンチャンの父母の間で言われたことで、ルアンパバンの女性はしっかりして亭主は妻の尻にひかれる。日本でいえば「カカア天下」で有名な上州群馬でしょうか。ルアンパバンの女性は、わたしの知っている限りですが、物腰は柔らかくて、しかし内面はしっかりしている人が多いようです。しかしいろいろラオス人に聞き取り調査してみると、ルアンパバン出の奥さんは旦那を尻にひいて命令する人が多いとかである。ルアンパバンとビエンチャンは昔は王朝が違ってお互いに勢力を争っていたとのこと。

ルアンパバンとビエンチャンを表わすのにこの言葉があります。

**s^Crt [kCg nCokC**(ルアンパバン・ムアング・ナング)  
;**PC9og nCnk;**(ビエンチャン・ムアング・タオ)

**g nC**「町」      **okC**「女性」      **nk;**「男・Mr」

日本でも、「東男に京女」ということで、江戸っ子の男性と京都の女性が好対照で良いカップルである、このように言われています。これと同じく、ラオスでもいい男はビエンチャン、そしていい女はルアンパバンであります。ルアンパバンの女性はきれい、優雅で物腰もおだやかであります。逆に、ビエンチャンの男性が言うのにはルアンパバンには良い男がいない。カッコイイ男がいない、良いのは女だけだということです。

逆に南の人は同郷だけで（ピーノーン）「親戚」と呼び合いお互いに面倒をみあう。だから南の人と結婚すると親戚を頼ってビエンチャンに上がってくるそうです。私の知っている例でも、近い親戚でもないのに援助機関への就職を世話してあげたり、飲み屋で偶然知り合って、同じパクセ出身ということで、門番の仕事を紹介したなどよく聞きます。しかし南部の人のこういった結びつきも、中国人が中国理事会を作って、商売をやるのにお互いに助け合っているようなそのような組織立ったものではないようです。

ビエンチャンは人も多くて、このような親戚付き合いも、ルアンパバンや南部の人ほどではないとのこと。このようにラオスも地域によって気質が違ふようです。

**[+shyqzqvm 8h**ボ - ・ハイ・アオ・プア・タイ・タイ)

**[+sh** させない」      **gkzq**「旦那をとる、男と結婚する」

**vm**「人」      **.8h**南」

「南の男とは、結婚させない」これはビエンチャンの父母の間でよくいわれてるようである。例えば南の人がビエンチャンに来て、学校にはいって勉強する。その間にビエンチャンの女の子を好きになって結婚する。しばらくして田舎に帰るといって帰ったまま戻ってこないことがよくあるという。田舎のほうでも両親が息子に御嫁さんを見つけて結婚させてビエンチャンに帰らせない。ラオスでは両親が娘・息子に婿嫁を捜してくっつけることが多いらしい。したがってこのようなことが言われたらしい。

( 1 5 7 )

**2p8fg7fi**      **glw22k**      **s, kdOk, OkP;**      **d5cs6**

(フイ・タット・クク) (サ・ファイア-) (マ-カム・コー・ティオ) (クン・ヘンク)

どれも人の、姿形を表わす言葉です。2p は「200 リットルはい  
る石油などのドラム缶」をいいます。8h は「切る」 g/f は「半分」  
ということで、日本語でも「ビア樽」みたいに太っているなどとい  
いますが、ラオス語で「ドラム缶を半分に切った」という表現は、  
「チビでデブ」ということです。しかしこのような言い方はいい  
言葉ではないので使わないほうがいいです。

g kw 2k は「電信柱」です。これは「ノッポ」ということで  
す。3番目の(マ-カム コー ティオ)は「タマリンドの粒が一つだけ」  
ということで「チビ」になります。ご存知のように「タマリンド」  
は普通は、1つの鞘に何粒かの種が入っています。これが1粒しか  
はいっていないので「チビ」ということになります。d h 「エビ」  
csh 「干した、乾かした」ということで、エビが乾いて小さくなっ  
たもの。ラオスのエビは「川エビ」なので海のエビより小さい、ま  
してそれが乾いてしまえば収縮してもっと小さくなる。

c, C.1 (メ-ク・ヤイ) c, C9a6 (メ-ク・チ-ヌン)

これは虫の名前であるが、c, C.1 は痩せている女のことをいう。  
いわゆる lk; 9yp であり、c, C9a6 は太っている女のことです「ず  
ん胴」女で、ラオス語で lk; 8h のことである。

cv; dj (イオ・キュー) といえは腰がくびれていてスタイルのいい女  
のことを言う。

(158) s; Crt [kC s; CoEnk

これは「ルンパパン」と「ルンナムター」である。実はわたしの失敗で  
あるが平成2年の3月に観光旅行で初めてラオスに来た時、ツアー  
の個人旅行でルンパパンに行った時の話である。当時はビエンチャン  
以外の地方都市に行く時は移動許可書が必要で、観光旅行も政府の  
旅行社を通じて手配してもらった。

ワットイ空港で飛行機を待っているとき、隣のおじさんに何処に  
いくか尋ねたら「ルン」と答えたのでこのおじさんと同じ飛行機に

乗ればいいと思った。その時「ルンナムター」なる地名がラオスにあるとは知らなくて同じ「ルン」がつくので勘違いしたのである。飛行機に乗る時も搭乗券をラオス航空の係員がチェックするのだが、何もいわれなくてそのまま乗った。そのとき観光地ルンパバン行きにしては小型の飛行機だと思った。ルンパバンまでの飛行時間は一時間位とのことと聞いていたが、一時間半位飛んでやっと飛行場に着陸した。ルンパバンといえば昔の王都だが、舗装も何もされていない滑走路に着陸した時には、私自身これはおかしいと思った。そしてパイロットにここはどこか聞いてみたら「ルンナムター」とのこと。その時初めてここがルンパバンでないことに気が付いた。ここからルンパバンまでバスでどの位かかるか聞いてみたらかなりの距離なので、バスで行くのは諦らめた。ちょうどその飛行機がビエンチャンに戻るので、乗ってきた飛行機に乗ってビエンチャンに戻った。このニュースはビエンチャンじゅうに知れ渡った。

(159) **g pd6yk4k1 ɣno**

(ミア・ケー・ビザ・ター・ユー・ファン)

**g p**「妻」      **d6** 「俺」      ; **yk**「ビザ・査証」  
**4k**「待ってる」      **1 ɣno**「家で」

**g pd6k1 ɣno** の文章の中に「ビザ」という単語をいれたものである。これは寮都学校（ビエンチャンの中国人学校）の同窓会のパーティーで、先に帰ろうとする友達に、悪友が「なんでもう帰るのか」と言った時の答えである。要するに「俺の女房が家で待ってる」というラオス語のセンテンスのなかに「ビザ」という単語をいれて冗談で「家にはいるビザ」「ビザがないと入国できない」という冗談にしているのである。これは最近はやりの言葉であるようだ。タイから入ってきた冗談かもしれない。

(160) **mt ]b; ə] tof9fc9j .l**

(外ン・ワン・ラ・ニット・チット・チムサイ)

**mt ]b**「エッチ・助平」      ; **ə**「一日」      **]t**「 について」

of 「少し」 9f 「心」 c9j.l 「晴れる・さわやかになる」  
 毎日、少しだけエッチであれば心もいつもすがすがしい。

これは、タイ語であるのでラオス語ではない。特に、**nt]b** という  
 単語は完全なタイ語であり、ラオス語ではない。しかしラオス人にも  
 勿論のこと理解できる。毎日エッチな冗談を言っていれば健康に  
 楽しく暮らしていけるということである。従って、わたしの「面白  
 くて為になるラオス語」を是非読んでください。

(161) **1]k4nk** **[4nk**

(ヤ-・トゥ-サー) (ホ-・トゥ-サー)

それぞれ、「気にするな」「気にしない」という意味である。  
 「あんな馬鹿の言ってることなんか気にするな」という時にこの言  
 い方をよく使います。別に面白い言い方ではありませんが、よく日  
 常会話のなかで使われるのでここに紹介しました。

(162) **fNko** **sok]G** **soks, k**

(ドウ-・ダ-ツ) (ナ-・リ-ツ) (ナ-・マ-)

**fN** 腕白・やんちゃ **fko** 「面」 **sok** 「顔」

**]G** 「猿」 **s, k** 「犬」

これは「厚かまし」という意味ですが「犬の顔」「猿の顔」とい  
 うともものすごい悪口になります。「猿」の単語はタイ語も同じです  
 がタイ語は母音が単母音になるので注意してください。タイ語をラ  
 オス語のスペルで書くと「イー」の発音が単母音になり **]G** とな  
 ります。日本語で「ワンチャンみたいにかわいい」といった感じで人  
 を誉めることがありますが、ラオス語でこのような言い方は絶対に  
 してはいけません。

(163) **oklvCgs, nC** **g nClvCnk;** **pk; lvCgOp[wh**

(ナ-・ツ-・ムア) (ムア-・ツ-・タ) (ニャオ-・ツ-・ク-イ-・ホ-・ダイ)

**ok** 「田んぼ」 **lvC** 「二つ」 **gs, nC** 「灌漑」

**g nC** 「町」 **nk;** 「男、ミスター」 **pk;** 「家庭」

**ḡp**「婿」これは「両雄並び立たず」ということで、同じ田んぼに2つの灌漑は必要でḡはなく、同じ町に二人のボスは必要ではなく、同じ家に2人の婿殿はいらない、ということである。所謂「両雄並び立たず」ということである。

(164) **vksko l fmkp** (ア-ン・スト・タイ)

**vksko**「料理」 **l fmkp**「最後」

昔、アメリカ人が中国料理を招待されてその時の感想が、「どの料理もおいしかったけれども最後にでた料理だけはどうもいただけなかった」というコメントをした。同席していた中国人が皆、食事の後に爪楊枝を使って歯の掃除をするので、それも料理の一種だと思って爪楊枝も食べてしまったという笑い話。

(165) **7q]tltv8]** (コ-ラ-タイ)

(サタイ)という発音になるが、日本語で言えば「スタイル」という意味である。人にはそれぞれのスタイル・やり方があるでしょう、ということである。これは英語のSTYLEが語源であるが、すでにラオス語に定着したと考えていいだろう。

(166) **Iḡvḡj** (フ-ブ-ガ)

**Iḡ**「形・外見」 **vḡj**「卵」 **vḡj**「鶏」

ラオスでは卵型の顔がかわいいとされている。女の子を口説く時に「君の顔は卵みたい」と誉めると、彼女は喜ぶ。ちなみに「卵」の発音は有気音で、「鶏」は無気音なので注意すること。間違っても無気音になると誤解が生じるので注意することである。

(167) **l yxkd; k[gnḡ8kḡsə**

(シ-ッ-パ-ク-ワ-ホ-タ-タ-ン)

**l y**「十」 **yxkd**「口」 **[gnḡ**「及ばない」 **8k**「目」

**ḡsə**「見る」日本語の「百聞は一見にしかず」である。ラオス語で

は「十回、口で説明するよりも、一度、実物を見た方がいい」と訳せる。実際に見てみたら、良く分かりました。という様な文の中にこの表現を使うと会話が生きてくるし、ラオス人もこの日本人はなかなかラオス語が上手で勉強しているなど評価される。

(168) **lkəsovo** (サイ・ペン・ノツ)

**lh**「腸」 **sovo**「うじ虫」直訳すると「腸がうじ虫になる」ということである。親戚・友人・同僚のなかから裏切り者がでてくる。そういう意味でつかう。

(169) [**h8h8sonspəs, q** (ホー・フー・タイ・ヌア・ニャン・モット)

**h8**「知っている」 **.8h**「南」 **son**「北」

**spəs**「何にも」 **s, q**「全部」

「南も北も全然知らない」何にもわかっていないこと。日本語では「西も東もわからない」という表現を使うが、ラオス語では国が南北に長いせいだろうか南も北もという表現になる。

(170) **06I q** (ケド・ヒド)

「搾取する」さすが社会主義の国だけあって、このような単語が小学校の教科書にでていた。さすがに昔の教科書(1984年版)は時代にあわなくなったのか何年か前に改訂されて、今の教科書は社会主義がぎらぎらしているのではなくて、普通の内容になっている。2つを比較して読んでみると、ラオスの歴史の流れがよくわかる。

(171) **wlCk, pho0q** (カイ・ガ -ム・ニョー・ツ・コン)

**7qCk, phoc8C** (コン・ガ -ム・ニョー・ツ・テン)

**7qxcdc; fc8C. fdƒCk,** (コン・パー・ク・ウエン・テン・ダイ・コ・ホー・ガ -ム)

**wlj**「にわとり」 **Ck,**「きれい・美しい」

**pho**「のため」 **0q**「毛」 **7q**「人」 **c8C**「飾る」

**xkdc;ɸ**「みつ口・口が裂けている」

ニワトリがきれいなのも羽がはえているから、人がきれいなのも洋服を着て着飾っているからである。口が裂けている人はどんなに着飾ってもきれいにはならない。馬子にも衣粧。

(172) **g** **cmhd**, **sV** (ワ・テ・ケム・リン)

**g** **Q**「しゃべる」 **cmh** 本当」 **cd**, 「混ぜる・つけくわえる」

**sV**「遊び・冗談」

本当のことを冗談といっしょに言う。これもラオス人の国民性をあらわしている。その場の雰囲気をやわらかくするために、ラオス人はよく冗談をいいます。日本人は真面目な話は真面目に話して、冗談は冗談として区別しますが、ラオス人は冗談のように真面目な話を言います。

(173) **rtodCko** **lyOk** (パ・ナック・ガ・ン・シップ・カー)

**rtodCko**「公務員」 **ly**「十」 **Ok**「足」

これは「十の足を持つ公務員」と直訳できる。机の足は4本、椅子の足は4本、そして人間の足は2本である。これを全部たすと10本になる。これは要するに、一日じゅうクーラーの効いた部屋に座って現場を全然見にいかない人を皮肉って言ういいかたである。やはり現場に行って実際の状況を見ないと駄目である。ところで男は夜になると三つの足をもつと言われる。

(174) **gyh** **s6** **okgyh** **8kwxlj** [ **267qvj**

(ア・フ・パ・イ・ナ・ア・ター・パ・イ・ハイ) (ホ・ファン・コン・ウン)

**gyh**「取る」 **s6** 耳」 **wx**「行く」 **ok**「田」

**8k**「目」 **wlj**「陸稲の畑」 **26**「聞く」 **7qvj**「他の人」

これは、「他の人の言うことを聞かない」という意味である。人は注意しても耳を田んぼの方にむけたり、目を焼き畑の方にむけてよそ見をする。

(175) **g4ɕc, p; k[ ɕk, dɕk,**

(トウ・メン・ワー・ホー・ガム・コー・ターム)

**g4ɕc, p; k dɕk,**

「ではありませんが」という慣用句でこの例では「きれいではありませんが」という意味で、プレゼントを人にあげる時によくこの言い方をつかう。要するに日本語でも人にお土産を渡す時など「つまらないものですが」というのにあたる。このあたりはラオス人と日本人のメンタリティーは、非常によく似ていると思う。このような言い方は毛唐はしないと思うが、どうであろうか。

(176) モーラムの一節より

**g pɲi0vCzq7qco; .fL**

(ミア・ティー・ディー・コグ・プア・コン・ネ・ダイ)

**pk, dɔg00 shqcrCdɔdjo**

(ニャム・キン・カオ・ハイ・プア・ペン・ク・キン・コン)

**zqɔɔ8yos, ɕc]h** (プア・キン・トーン・モット・レオ)

**g pcdh9ɕ7jyɔɔ** (ミア・ケオ・チュン・コイ・キン)

**g p**「妻」      **zq**「夫」      **7qco; .f**「どのような人ですか？」

**pk,**「とき」      **dɔg00**「ご飯を食べる」      **zqcrC**「最愛の夫」

**dɔdjo**「先に食べる」      **8yo**「部分」      **s, ɕ**「全部」

**g pcdh**「愛する妻」      **9ɕ**「それから」

**7jyɔɔ**「おもむろに食べる」

これはラオスの伝統芸能モーラムの一節を抜粋したものである。要するに夫にとってどんな妻が一番いい妻かということであるが、食事の時に夫に先に食べさせて、夫には肉の最後の一切れまで食べさせてそれから、おもむろに食べるのが妻のあるべき姿である。これはあくまでも理想論で、モーラムの一節にすぎない。

日本の奥さんが旦那さんのネクタイをはずして、背広を脱がしてあげる。そんな日本の映画を見て、ラオスでは日本の女性の評判が

よくなっている。しかしこのごろタバコを平気で吸う日本女性も、ビエンチャンに現れて、ラオス人の日本女性感も変りつつあるようだ。

(177) **gyhndd ]dnfd=**

(アオ・タン・コック・ロック・タン・コー)

**gyh**「取る」 **nd**「全部」 **dd**「木」 **]d**「抜き取る」

**d**「根」「木を全部、持っていくのなら、根っこから全部持って行きなさい」泥棒の一身を捕まえるのにも、手下だけ捕まえるのではなくて親分も一緒に捕まえなさい。どうせやるのなら徹底してやりなさい。中途半端ではいけません。また言い換えると

**gyh]dlk; gyhfhc, jkphCripCoe** ということ  
娘さんと結婚するのなら、お父さんお母さん兄弟親戚全部から愛され面倒をみないといけない。

これについて、わたしが立ち会ったラオス人の女性と日本人の男性の結婚の宣誓式で、ラオスの役人ががお互いの愛情を確かめるために、ラオス人と結婚すると本人同士だけではなく、兄弟から親戚まで頼りにしてたかってくる。あなたはそれを受けとめるだけの広い心がありますか？と質問して、日本人男性の愛情を確認していた。その時ラオス人の役人が用いた比喻で、ラオス人は

**Ojdtgno**(キー・ガ・アソ)「ミミズ」みたいなもので、親戚がどんどんわいてくる。というような表現をしていた。ようするに一人のラオスの女性と結婚したら、親戚全部と結婚したような、全員の面倒をみるような心の広い人でないと国際結婚はやっていけないということである。またラオス人・中国人にしてみても家族の結びつきが強い

だから本人同士はもちろんだが、結婚するとなると親・兄弟に気にいられることが一番である。

女の子の家に遊びに行った時は、きちんと両親に挨拶してこの青年は礼儀正しいと思われるようにしておいたほうがいいであろう。しかしその国がわかるには、その国の女性と結婚して子供を持ち実際に暮らしてみることだと思う。

(178) サムヌアのラオス語

仕事でサムヌアに3日程行ってきた。短期間の滞在だったのと、言葉の研究で行ったのではないのであまり沢山覚えられなかったが、色々教えてもらった。

まずビエンチャンでいう唐辛子 **S, kdzfa**(マク・パット) を

**S, kd** ウアット というように言っていた。マクはラオス語の野菜の名前に付ける接頭詞であり、パットは「辛い」という意味である。

サムヌアのマク・ウアットの場合はウアットがベトナム語らしい。これがベトナム語で「辛い」という意味か、または「唐辛子」という意味かどうか確認できなかったが、とにかくベトナム語である。また私はウアットとカタカナで書いたが、私の聞き間違い、ベトナム語を知らないで本当の発音とルビが違っているかもしれない。他にも色々調べるとサムヌアという言葉のなかにベトナム語が色々含まれているようである。それから私の女房の弟の奥さんの両親は、サムヌア出身のパテトラオの兵隊だったらしい。女房の弟の妻の妹(彼女はビエンチャン生まれで、サムヌア言葉はしゃべれない)に色々聞いてみると、両親がサムヌア言葉で話していると、理解できないことがあるとか。お互い夫婦同士で呼び合う時に(アン・エム)とベトナム語で呼び合っているとか。これはラオス語の(アイ・ノーン)にあたる。パテトラオの兵隊だったためにベトナム語の影響が強かったのか、普通の庶民はどのように呼び合うのかわからないが、ベトナム語の影響が強いことは確かである。

それから乾杯の時、全部飲みましょうという時ビエンチャンでは

**pdcsb**(ニョック・ハーン) **pd**「持ち上げる」

**csb**「空にする、乾す」というが、サムヌアでは(**pd** ホー)と言う。

この(ホー)という発音は中国語からきているのではないかと、同行の日本人が言っていた。それと「半分飲みましょう」は

(**pd** コー)と言う。これはビエンチャンでは **pdg/f**(ニョック・ク)

**g/f**「半分」と言うのであるが、この(コー)というのもサムヌア純粹の方言で「半分」という意味か、あるいは中国語が語源なのか確認できなかったが、研究すれば面白いと思う。

その他に乾杯の時に、お互いのコップをぶつけるのをビエンチャン

では **8e9vd**(タム・チョク)というのを **8e**「ぶつかる」

**9vd**「コップ」 **c8t9vd**(テ・チョク)と言っていた。**c8t** も「ぶつかる・触れる」という意味なので、わかるのだが言葉が地方によって違ってくると思った。それからサムヌアの赤タイ族(これも低地ラオのグループにはいるとのこと)は「ご飯を食べる」というのをビエンチャンでは、

**dyg0k**(キ・カ)というのだが、彼らの言葉では **glgkq**(ラオ・パオ)と言うらしい。また「この人」というのはビエンチャンでは、

**nk; oU**(タオ・ニ-)というが、サムヌアでは **cvCoU**(エーグ・ニ-)また

たは **9koU**(チャ・ニ-)というらしい。この他に、ビエンチャンでは挨拶は、「サバイデー」であるがサムヌアでは、「シビダイ」であるらしい。この言い方は以前、ビエンチャンで聞いたことがあるが、その時はロシア語だと思った。しかしこれはサムヌア方言らしい。

#### (179) タイ語とラオス語 挨拶の違いによるその国民性

ある時、あるラオス人のインテリと食事を共にして、その時彼が語ったラオス人とタイ人の性格の違いをその挨拶の違いから分析していた。まあ所謂、ラオス人のタイ人批判であるが面白いのでここに紹介する。

ラオス語の「今日は・元気ですか」は **lt [kpfu** (サバ・イ・デー)

**lt [kpfu** (サバ・イ・ポー) になる。

**lt [kp**「元気・健康」 **fu**「良い」要するに、ラオス人によれば人が会って挨拶すれば、お互いに健康のことを尋ねあって、このような挨拶をするというのだ、ところがタイ語は今日はにあたるのが (サデー) である。

これは **lts; ɛfuk** (サデー・ポー)

**lts; ɛfuko** (サデー・カーン) の **lts; ɛfu** であり、これは英語の WELFARE という意味になる。これは要するに人から何かしてもらおうという意味であり、人に何か利益を求めるという意味になる。だいたい挨拶の時に「儲かっていますか？」とは聞かないでしょう。だけどそういう挨拶のしかたをするのがタイ人である。これがラオ

スのあるインテリ氏のタイ人論である。

この解釈が理論的に正しいかどうか私にはよくわからないが、ただラオス人のタイ人に対する感情はよくないのが現状である。それを示す一つのエピソードとして理解していただきたい。

手元にある、有名な富田先生の辞書にも、タイ語の(サデー)は「幸福繁栄を、どうぞ幸運にめぐまれて無事息災で」という挨拶とある。私の友人の中国系タイ人のヨンさんによると、彼は革命前にラオスの中国人学校寮都学校にタイから留学して来た経歴がある。寮都を卒業してタイにもどり、台湾に留学してその後日本にも留学していた。事あって数年前に及びラオスで仕事をしようと思い、あるタイ人ですでにラオスで投資している人に相談に行ったらしい。その人からのアドバイスは「ヨン、絶対にラオス人と喋る時はラオス語を使いなさい、絶対にタイ語を使ってはいけません」ということだったらしい。ヨンさんは子供のころラオスに居たので、私の妻によると華僑訛りであるが、ラオス語ができる。バンコクから来たタイ人はラオス語がしゃべれないのに比べたら格段の違いである。

だからラオス人から、「お前はタイ人だから最初、悪い奴と思っていたけれど、お前みたいに良いタイ人もいるのだな」と誉められるとか。「タイ人は言葉の意味でラオスに住みやすいと思うが、どうですか？」と以前ヨンさんに聞いたが、「ラオス人はタイ人が嫌いだからラオスで生活するのは気を付けないといけない。」といていた。

しかしこのラオ人のタイ人に対する印象は、よくない。タイ人は口では甘いことを言うけれど、心の中は汚いとか、評判はよくない。この中で口が上手と言うことについて、確かにタイ語とラオス語を比べてみるとタイ語の方が洗練されていて、丁寧で上品な言葉つかいも、ラオス語に比べたら多い。テレビのタイ人の話すタイ語を聞いてみても、音楽的できれい。逆にラオス語の響きは、力強くて男性的である。うちの親戚の女の子が、タイ語を聞いていると、オカマがしゃべっているような感じとのこと。このタイ人のしゃべるのが甘くて、ラオス人にしてみれば口が上手いように感じるのだ。

これは、日本に当てはめると、関西の柔らかいイントネーションで言われると、怒りで握ったこぶしが開いてしまう、そんな感じだ。私も、厳密に言えば四国の徳島出身なので関西弁の圏内だが、田舎の方言で洗練されていない。それに比べると、京都や大阪の女性が

しゃべる都会の関西弁は、耳障りが非常にいいと思う。でも良く聞いていると、いいかたはやさしく婉曲的に言っているけれど、内容はきついこと言っているように思う。かえってオブラートで包んでいるぶんかえってきついのではないかと思う。

ラオス人がタイ語を聞くと恐らく、今私が挙げたような感じに聞えるのであろう。

ラオスに来ているタイ人はビジネスなどで来ていて、ラオスの法律が整っていないので、タイのやりかたでやろうとしてそれでトラブルがおこるようである。その点、日本人はほとんど国際援助なので、ビジネスではなくて只で援助してあげているのだから、ラオスサイドにもあまり不満はないのではないか。

それから、ラオスのインテリ氏の説は、富田先生のタイ日辞典で調べてみても、**l; bfu**にはそのような意味はなく、善、美、繁栄平安、安楽、幸運、幸福の意味であり。

**l; bfyko** (サデ イカーン)「福祉」

**ll; bfyk[** (サデ イパ -プ)「安寧、無事息災」と言う意味であり理論的にはおかしいと思う。しかしそのようなインテリで上層階級の人でもタイにたいして良い印象を持っていないことがわかった。

タイ人のビジネスマンの連中は、アメリカ・日本やヨーロッパの国の人達と商売をして、劣等感をもって、逆にその裏返しにラオス人に対して、優越感をいだくのではないか。ラオス人でも難民で外国に逃げて行き、およびラオスに舞い戻って来た連中で、外国にいたころは色々差別されて良い職業につけなかった連中は、逆にこちらに帰ってきて、こちらのラオス人を見下すところがあるという。

これも欲求不満のはけ口を、弱い所に求めているのだろうか。常に自分より弱い立場の存在を作っておき、それを虐める、見下すことによって自分を慰めていくのは人間の悲しいさであるが、このように分析してみるとわかる気もする。

ちなみにそのインテリ氏の説によると、ラオスのシアン・ミアンも最後に王様の怒りを買って、首をはねられたが、その後、頓智と機転の持ち主の彼の首をタイ人が盗み、タイに持って帰った。だからタイ人はシアン・ミアンのようにずる賢い性格になった、という。シアン・ミアンについては私の本のなかでも何編か翻訳して載せているので、読んでみてください。インテリ氏は、ずる賢い男だとシ

アン・ミアンのことを評価していないが、わたしは機知と頓智で、時の権力である王様に対抗したラオスの庶民の象徴だと思っている。

(180) **gyɔ̃, kzɔ̃P;** (ウ-ソ-マ-プ-ー-デ-イ-オ)

**sv[da, kxəly]** (ホ-ブ-カ-マ-ペン-シ-ッ-プ)

**gyɔ̃**「呼ぶ」      **zɔ̃P;**「一人」      **sv[da**「両手でかかえる」  
**, k**「来る」      **gxəly**「十人になる」

「呼んだのは一人なのに、十人も来て」これはラオスに住んでいれば経験することで、呼ばない人まで来てしまう。結婚式でも、パーティーでも関係ない人まで来てしまう。これもボー・ペンニャンですんでしまうのがラオスのいいところであろうか。ある日本人がラオス人の女の子をデートに誘った時、妹とかその友達まで付いて来て、本人は非常に不満だったらしい。このようにラオスでデートの時は一対一ではなく、必ず妹とか親戚が付いて来る。婚約者の形になって初めて一対一のデートができると考えないといけない。従って日本の男性にとってつまらないかもしれない。しかしこの点をよく理解しないとイケない。西欧や現在の日本みたいに一対一のデートはラオスでは考えられないので、こちらはその気はないのに向うは、結婚する気になってくるので注意しないとイケない。この言葉は主に結婚式の時によく使われる。

(181) **lɔ̃kɬə, tɬɛ** , u **lɔ̃tsɬf**

(ソ-カ-サン-ミ-ホ-)

(ミ-ニュー-タ-ド)

**lɔ̃**「ズボン」      **ɔ̃k**「脚」      **lɔ̃**「短い」      **lɔ̃**「ある」

**ɬtsɬf**「市場」これはおちよくった話で、「短いズボン(タンパン)はありますか？」と妻に聞くとする。答えが「あるよ、市場に」ということで、家でタンパンを取ってきてもらおうと、妻に聞いたところこのように冗談を言われたという笑い話である。ラオス人からかうのには良いジョークであろう。

(182) **gljɔ̃Coɔ̃yɔ̃hp**      **xvddhppkddj k**

(ルア<sup>ン</sup>・ニ<sup>ー</sup>・チップ<sup>°</sup>・チヨイ) (ホ<sup>°</sup>・ク<sup>°</sup>・クアイ<sup>°</sup>・ニヤ<sup>°</sup>・ク<sup>°</sup>・クア)

gljCoU「この話」 9y9hp「やさしい事・子供にもできること」

xvd「剥く」 dhp「バナナ」 pkd「難しい」

dj k「より」「こんなのお茶の子さいさいだよ、バナナの皮を剥く方が難しいよ」普通はやさしい事を表わすのに、ラオス語では、バナナの皮を剥くほど易しい、というような言い方をします。そのバナナの皮を剥くのより易しいということなので、おちゃのこさいさいということになります。

### (183) 笑い話

ラオスに来て初めてラオス語を覚えたある日本人が、タイに行ってお粥が食べたくなくて食堂に行って g0kPd (カ<sup>°</sup>・ピ<sup>°</sup>・アック) とタイ人に注文したらタイ人はわからなかったらしい。

解説すると、g0k「ご飯」 xPd「濡れた」

要するに、これでラオス語では「お粥」という意味になる。

ちなみに普通の白米から煮たお粥がタイ語では、g0k80 (カ<sup>°</sup>・トム)

になる。80は「煮る」という意味である。または中国語がその

ままタイ語になった 39H (チョク) というお粥もある。これは潮州語であり、碎米を煮たお粥のことである。

